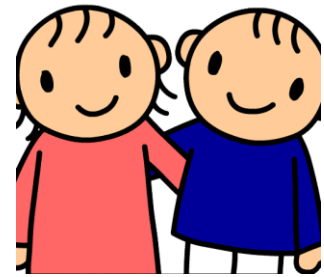


# 第2章

## 連続する多様な学びの場における実践編



実践事例の構成は以下のようになっています。事例を読む際の参考にしてください。

タイトル

○それぞれの学びの場ごとに取り組んだことについてキーワードで記述しました。

学習指導案

○学習指導案を作成する上でのポイントや、実践する上での支援の意図を吹き出し内に記述しました。

事例を振り返って

○障がい特性や、その学びの場ならではの配慮や事例の良さを記述しました。

# 学びにくさのある子どもを窓口とした教科指導

## (算数)

### 1 単元名 「かけ算(1)」

#### 2 単元設定の理由

2年1組は、素直で学んだことを生かしてまじめに行おうとする児童が多い。また、お楽しみ会の計画や準備では進んで話し合い、よく関わって仲良く活動することができる。算数の学習でも、学習問題に対して、自分が考えた式や方法でよいのかを友だちと話し合う際は、自分なりの言葉で一生懸命説明したり、相手の意見に反応して聞いたりする姿が見られる。一方で、文章から学習問題のイメージをつかむこと、根拠を基に自信をもって考えを発表すること、問題を筋道立てて解くことについて苦手と感じている児童がいる。

本単元では、かけ算の意味理解を図ることに重点を置き、「基準量」の「いくつ分」の考えをしっかりと捉えられるようにしたい。それは、乗法九九を機械的に暗記できても、その計算の意味理解が不十分であると、実際の生活において使うことが難しいからである。また、計算をする場面で、かけ算を使う場面と、簡単に表すことができ、早く計算ができるといった便利さを実感することで、九九を利用することのよさに目を向けていきたい。

そこで、導入にあたっては、「基準量」の「いくつ分」を絵に表したり、数図ブロックを並べたり、何のいくつ分か言葉で表したりする活動を取り入れ、かけ算が使える時・使えない時を話し合いによって確かめる場面を設定し、「基準量」の「いくつ分」を意識づけるようにしていく。終末では、「基準量」の「いくつ分」の式について、数図ブロックを操作したり、図に表したり、友だちに説明したりすることを繰り返し位置づけて、かけ算の意味理解を深めていきたい。また、同数累加の考えと結び付けながら、乗数が1増えると被乗数ずつ増えていくことなどを使って、子ども自身に乗法九九を構成できるようにしていく。さらに、身の回りから、かけ算にできそうな場面を探したり、問題を作ったりして、かけ算を身近で便利なものとして感じ、実生活の中で活かしていくことができるようになることを願って、本単元を設定した。

授業では、学びにくさのあるサツキさんを窓口として、問題文や挿絵を焦点化して提示したり、自分の意見に自信をもてるように少人数での話し合い活動を取り入れたりする。また、これまでの授業を基に学級の実態を捉え直し、個の特性を活かして、例えば、文章理解が得意な児童であれば、問題のイメージを自分の言葉で表現してから立式するといった活動を取り入れていくことで、自ら学び、ともに学び合いながら「分かった」「できた」を実感できる授業づくりをしていきたい。

#### 3 目標と評価規準

##### (1) 単元の目標

かけ算の意味を理解し、5, 2, 3, 4の段のかけ算を構成し、九九を唱えたり、それを用いたりすることができるようになる。

\* 単元設定の理由の書き方の一例として示してあります。

学級の児童の実態を書きます。

単元に関わる説明と付けたい力を書きます。

単元におけるねらいと具体的な活動内容を書きます。

学習指導要領解説や、第3章の「障がいの状態に応じた指導上の工夫」を参考にし、学級や個別に必要な支援を記述します。

(👉本書 P61. P142~P153)

## (2) 評価規準

ア 算数への 関心・意欲・態度	イ 数学的な 考え方	ウ 数量や図形に ついての技能	エ 数量や図形につ いての知識・理解
<p><b>ア1</b> ものの個数を数える場合に、5の段のかけ算を適用しようとしている。</p> <p><b>ア2</b> 2個ずつのまとまりに着目し、かけ算を適用しようとしている。</p> <p><b>ア3</b> 乗数が1増えると4ずつ増えていくきまりに気づき、九九の構成について考えようとしている。</p> <p><b>ア4</b> 2, 3, 4, 5の段の九九の練習を進んでいる。</p>	<p><b>イ1</b> 具体的な操作を通して、基準量のいくつ分という見方をしている。</p> <p><b>イ2</b> 基準量のいくつ分はいつでもかけ算の式になることが分かる。</p> <p><b>イ3</b> 基準量が後に示された問題で、基準量がどちらの数であるか、正しく判断している。</p> <p><b>イ4</b> 人や動物、身の回りのものなどの数量を、「基準量」と「いくつ分」の見方で捉えている。</p>	<p><b>ウ1</b> 5の段の九九の唱え方を知り、九九の式と答えを対応させて正しく書くことができる。</p> <p><b>ウ2</b> 九九を正しく唱え、適用題を解くことができる。</p> <p><b>ウ3</b> 2の段の九九を正しく唱えることができる。</p> <p><b>ウ4</b> 4の段の九九を使って、適用題を解くことができる。</p>	<p><b>エ1</b> かけ算の意味とかけ算の式について理解する。</p> <p><b>エ2</b> 「基準量」が「いくつ分」あるかを「何倍」と表現すると分かる。</p> <p><b>エ3</b> 既習学習を思い出し、3の段の九九では、乗数が1増えれば積は3増えることを理解している。</p> <p><b>エ4</b> 累加の場合と比べ、乗法を用いた考え方のよさを理解している。</p>

平成22年5月の文部科学省初等中等教育局長通知に示された評価の観点に基づいています。

## 4 本時案

### (1) 主眼

4の3つ分は $4 \times 3$ で表せることを学習した子どもたちが、5cmの4つ分をどんなかけ算の式に表せばよいか考える場面で、前時を振り返ってかけ算の用いられる場面を確認し、焦点化して提示した挿絵を基に1つ分の数に注目して説明したり、聞いたりすることで、「何のいくつ分」はいつでもかけ算の式になることが分かる。

### (2) 評価規準 (数学的な考え方)

基準量のいくつ分はいつでもかけ算の式になることが分かる。


### (3) 本時の位置 (18時中3時)

前時：かけ算の意味を、数図ブロックの操作を通して基準量のいくつ分で理解し、足し算を使って答えを求めた。

次時：基準となるテープに色を塗って確かめることで、「～の○つ分」は、「～の○倍」と表す「倍の意味」について理解する。

### (4) 指導上の留意点

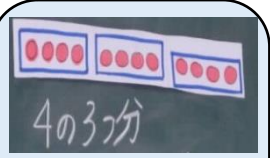
- ・前時を振り返って、かけ算の式に表せる時と表せない時を想起できるように板書に残す。
- ・練習問題は、児童が累加で計算しやすい問題を中心に提示する。

特別支援教育の視点について、記述しておくこともよいでしょう。  
 本書 P61

(5) 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応 (○) 教師の支援 (△) 発問 (●) 評価 (☆)
<p>【課題把握】問題をつかむ・見通しをもつ (10分)</p>	<p>1 かけ算が用いられる場面を振り返る。</p>	<p>● (挿絵提示) これは何のいくつ分でしょう。 ○ 4, 4, 4 は, 同じ数だから, 4 の 3 つ分。 ○ 4 の 3 つ分は <math>4 \times 3</math> だ。 ● <math>4 + 4 + 3</math> みたいな時はどうですか。 ○ 4, 4, 3 だと, 同じ数じゃないからできない。 △ 同じ数ずつの時かけ算の式に表せることを確認する。 △ 前時を振り返って, かけ算の式に表せる時と表せない時を想起できるよう板書に残す。 △ 挿絵を見せながら, 区切って提示する。</p>
	<p>2 かけ算の式 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1 つ</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">分の数 (基準量)</span> <math>\times</math> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">いくつ分</span> にすればよさそうだと見通しをもつ。</p>	<p>● 求めたいことは何ですか。 ○ 全部の高さ。 △ 何を求めるのか, 全員で確認し, 理解する。 ● この問題は, かけ算の式になりますか。 ○ 長さだし, 縦に積んでいるから, いつもと違う。長さは, できなさそう。 ○ 箱は全部 5 cm, 5 cm, 5 cm, 5 cm だから, できそう。 ○ 5, 5, 5, 5 で同じ数ずつだからできる。 ○ <math>5 + 5 + 5 + 5</math> をするから, かけ算でもできるよ。</p>
<p>学習課題 どんなかけ算のしきになるか考えて, ぜんぶの高さをもとめよう。</p>		
<p>個人追究</p>	<p>3 どんなかけ算の式になるか考え, 説明も考える。</p>	<p>● どんなかけ算の式になるか考えて学習カードに書きましょう。また, どうしてそうなるか図や絵などを使って説明を書きましょう。 ○ <math>5 \times 4</math> ○ <math>4 \times 5</math> △ 学習カードに図や説明を書く欄を設ける。 ○ 同じ数なのは 5 cm で, <math>5 + 5 + 5 + 5</math> だから。</p>

学習問題  
高さが 5 cm のはこをつみます。  
4 こつむと、ぜんぶで高さは何 cm になりますか。




本時につながる既習事項は, 想起しやすいように, 挿絵や言葉で板書に明確に表します。  
支援 1・2  
※支援の番号は P61 「資料」 生徒の実態に応じた支援の『全体を通して行う支援』の番号を表しています。

UD: 共有化, 視覚化

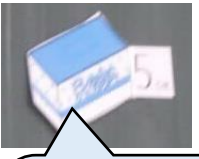
・【板書写真参照】  
・問題を区切って, ゆっくり読んだり, 挿絵とともに提示したりすることで, 本時の学習問題を全員で共有することができます。  
支援 3・4

高さが 5 cm のはこをつみます。  
4 こつむと、  
ぜんぶで高さは、何 cm になりますか。



<p>共同追究</p> <p>4 班で互いに理由を説明し合う。</p>	<p>○ <math>4 \times 5</math> だと、4の5つ分で、絵と違う。</p> <p>○    5 cm が4つだから、5の4つ分と言える。</p> <p>● どちらのかけ算の式になりそうか、班で話し合しましょう。</p> <p>○ 図で描くと、5, 5, 5, 5で5の4つ分だから、<math>5 \times 4</math> でいいと思うよ。</p> <p>○ 4の3つ分は、<math>4 \times 3</math> だったから、昨日みたいにやれば、5この4つ分は<math>5 \times 4</math> でいいと思う。</p> <p>○ <math>4 \times 5</math> だと4 cm が5つ分の意味になるから違う。</p> <p>△式の訂正、意見を書くことを認める。 △既習事項を意識した発言が出たら認める。</p> <p>5 <math>5 \times 4</math> の計算は足し算を使って求められることを確認する。</p> <p>● <math>5 \times 4</math> の答えを足し算で求めましょう。</p> <p>○ 5の4つ分だから、<math>5+5+5+5</math> だ。</p> <p>○ <math>5 \times 4 = 5+5+5+5 = 20</math> 答え 20cm</p> <p>○ 「5の4つ分」は、「<math>5 \times 4</math>」と書くことが分かった。</p> <p>△まとめを板書の中央に朱書きする。 まとめ：「長さも、5の4つ分と言えれば <math>5 \times 4</math> とかけ算のしきにできる。」</p>
<p>【一般化】定着・活用 (10分)</p> <p>6 練習問題を解く。</p>	<p>● 練習問題をしましょう。絵に合うかけ算の式を書いて、答えを求めましょう。</p> <p>△挿絵を参考に、「何の(基準量)のいくつ分」を意識できるように、同じ数のまとまりずつ丸で囲むように伝える。</p> <p>△「～こ、～本、～cm」など1つ分を表すものの単位が変わってもかけ算の式に表せるように、「何のいくつ分」か簡単な言葉に置き換えるように伝える。</p> <p>☆基準量のいくつ分はいつでもかけ算の式になることが分かる。</p>

UD：焦点化



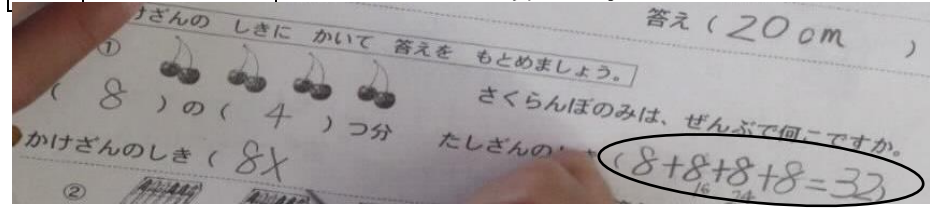
基準量に注目できるように、基準量を指し示すと、何のいくつ分かが明確になります。支援2

UD：共有化

話し合う必要性のある課題に対して、少人数の班で自分の考えを安心して伝えられるように、友だちと考えを共有する場を設けます。支援5

挿絵の図を手がかりにして、班で話し合うことを通して、 $5+5+5+5$  に気づき、数学的な見方・考え方を働かせて、状況が変わっても、既習事項の「何のいくつ分」かを立式の根拠に話し合っている姿を深い学びの姿と捉えます。支援5

練習問題では、本時で学んだ考え方が分かるような学習カードを用意します。また、計算処理に時間を要するサツキさんが安心して取り組めるよう、足し算は4回まで済むように調整します。支援1・6





<p>7 本時の学習を振り返る。</p> <p>8 チャレンジ問題を解く。</p>	<p>●今日の学習で、分かったこと、大切だと思ったことを学習カードに書きましょう。</p> <p>○長さはできないと思ったけど、5の4つ分でやれば、かけ算の式になると分かった。</p> <p>○友だちが話しているのを聞いて、<math>5 + 5 + 5 + 5</math>の足し算は、<math>5 \times 4</math>と書ける。</p> <p>●早く終わった人は、チャレンジ問題をしましょう。</p>
---	--



文章にするのが苦手なので個別指導をします。問題のイメージが簡単にもてるように、挿絵を使って一緒に数えました。かけ算の立式がしやすくなるように、「6、6、6だから、何のいくつ分？」と横で声がけをしました。

次時も意欲的に取り組めるよう、「何のいくつ分かすぐに言えるようになって、かけ算の式が書けるようになってきたね。」のように、本時の取り組みでよかった姿を認め、声がけをすると、自信をもったり、次の学習意欲向上につながったりすることができます。また、授業の途中でも、よい姿を具体的に褒めることも大切です。練習問題の量は、児童の実態に合ったものを用意するとさらに達成感をもつことができるでしょう。

○板書の構造化（1時間の学習の流れが分かる板書）

＜前時の復習＞  
本時の学習につながる内容を、図と言葉を用いて、要点的に提示します。支援①

学習問題のイメージを全員が共有できるように、問題文を区切ったり、分かりやすい挿絵を用意したりします。支援③、④

＜練習問題＞  
何のいくつ分か分かるように、挿絵に数字を入れることによって、かけ算の立式をしやすくする助けになります。支援④

The board contains several sections of handwritten text and diagrams. On the left, there are diagrams of boxes with labels like '4の3つ分' and '4x3 同数'. In the center, there are calculations:  $5 \times 4 = 20$ ,  $4 \times 5$ , and  $5 + 5 + 5 + 5 = 20$ . On the right, there are more calculations and diagrams, including  $6 + 6 + 6 + 6 = 24$  and  $7 \times 2 = 14$ . There are also small illustrations of a box and stacks of items.

【事例を振り返って】  
学びにくさのある児童を窓口にして、個に応じた支援を計画して行うことが必要です。算数に自信をもてなかったサツキさんは、問題を解く際に板書を何度も見直す姿がありました。教師が板書を整理して書くことを意識して支援を積み重ねたところ、板書から学習内容を理解して取り組めることが増えました。  
また、問題のイメージをもちやすくするための挿絵、その提示方法、少人数班での友だちとの考えを共有する場等の支援により、既習事項や $5 + 5 + 5 + 5$ に気づき、5の4つ分であるから $5 \times 4$ という立式でよいことに到達できました。数学的な見方・考え方を働かせた深い学びにつながる場となり、本時の支援は、サツキさんだけでなく、他の児童にとっても有効な支援であったと思います。  
こうした、児童や学級集団の特性を生かした授業づくりを心がけ、支援を積み重ねていくことが大切です。

**資料** 児童の実態に応じた支援

(作成日) 平成 年 月 日

【通常の学級用】 個別の教育支援計画・個別の指導計画シート（簡易版）

	〇〇小学校 2年1組	担任名	△△△△ △△△
氏名 (フリガナ)	(ナガノ サツキ) 長野 サツキ	男・ <b>女</b>	生年月日 H〇〇年〇月〇〇日 8歳
保護者氏名	長野 タロウ	連絡先：090-****-****	
諸検査結果	諸検査未実施。診断経験なし。	両眼 0.1 のため眼鏡使用。	
相談機関	なし		
必要な支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容が多い時、すぐに理解することが難しいため、一つ一つ提示をしたり、ゆっくり区切りながら話をしたりする。</li> <li>・学習問題のイメージをもちにくいので、手順を板書したり、挿絵を用いたりして、視覚的な支援を行う。</li> </ul>		

指導計画

指導場面	めあて	支援内容	評価
算数 (かけ算)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・操作活動や計算などを、自信をもって行うことができる。</li> <li>・何のいくつ分がいつでもかけ算に表せることが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習問題のイメージをもてるように、挿絵を活用し、簡単な言葉に置き換える。</li> <li>・数図ブロックを操作する際、「3・3・3・3だから」と問うことで、「3の4つ分」のように、何のいくつ分かを、声に出して確認できる場を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挿絵を指差して「何のいくつ分か？」という教師の問いに正しく答えることができた。</li> <li>・教師が繰り返し問うことで、「何のいくつ分か」を自分で声に出し、正しく立式することができた。</li> </ul>
全教科共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板やヒントカード等を見て、何を学習するかが分かり、自分で問題に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解き方の手がかりが分かるよう板書をパターン化したり、既習事項を掲示したりする。</li> <li>・机間指導をこまめに行い、サツキさんの考えや取り組みの姿勢等を認める言葉がけをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書にある解決の手がかりやヒントカードを活用することで、自分で取り組める問題が増えた。</li> <li>・自分でできた部分を認めることでさらに前向きに取り組んでいる。</li> </ul>

全体を通して行う支援

- 1 学習内容が定着できるように、前時学習したことや既習事項を導入で振り返ったり、いつでも見返せるようにヒントカードを用意したりする。
- 2 本時のポイントになることを、板書する。
- 3 活動内容を伝える際は、ゆっくり区切って話す。
- 4 学習内容のイメージがもちやすくなるように、挿絵や具体物の提示をしたり、模範を示したり、操作活動を取り入れたりする。
- 5 自分の考えに自信をもてるように、少人数の班の友だちと考えを共有する場を設ける。
- 6 意欲的に課題に取り組めるように、課題の量を調整する。





## 原学級との連携による交流及び共同学習

(美術)

## 1 題材名 「注目！ピクトグラム～学校生活を表そう～」

## 2 題材設定の理由

2年生は、自分の好きな形や色彩について興味をもって制作に向かえる生徒たちである。1年次の『シンボルマーク』をデザインする授業では、自分の好きな物事や名前の文字などからイメージを膨らませて、自分のシンボルマークを制作した。自分の好きな物事をデザインにつなげたり、アクリルガッシュの使い方を学びながら着彩したりできる生徒が多い。一方で、知的障害特別支援学級に在籍しているレンさんをはじめ、イメージを広げることが難しい生徒や、絵の具の扱いに苦勞する生徒も見られる。

ピクトグラムは国籍、年齢の違いに関わらずに視覚的に内容を伝えることのできるデザインとして公共の場に多く取り入れられている。身近な公共空間に多数存在するピクトグラムは、色彩、形ともに単純化、明確化され、より多くの人に情報を的確に伝えることのできる優れたデザインである。

実際に使われているピクトグラムを鑑賞し、学校生活の中で生徒や来校者に必要なピクトグラムを考えていくことで、簡潔な色と形で工夫しようとして試行錯誤していこう。発想構想場面では、自分たちの学校生活を振り返り、生活の中での問題や、危険などに気づき、伝えることへの関心をもってデザインを考えていこう。また、制作の場面では、既習のアクリルガッシュの特徴を振り返り、水の割合、混色、着彩する色の順番などの手順を総合的に考え、見通しをもって表現していこう。

そこで、身近な学校生活の中で役立つピクトグラムの制作を通して、学校生活に関心を持ち、自分たちの生活を振り返りながら、デザインの要素である「伝える」という目的を意識し、表現を追求してほしいと願い、本題材を設定した。

## 3 目標

見る人の立場に立ち美しく分かりやすい形と色彩を構想したり、ピクトグラムに適したアクリルガッシュの着彩方法で表現したりすることを通して、学校生活を振り返りながら「伝える」デザインについて自分なりの表現を追求することができる。

## 4 題材の評価規準

ア 美術への関心・意欲・態度	身の回りのピクトグラムに関心を持ち、主体的に創意工夫して表したり、表現の工夫を感じ取ったりしようとしている。
イ 発想や構想の能力	伝えたい内容を多くの人に伝えるために、形と色彩などの効果を生かしてわかりやすさや美しさなどを考え、デザインの構想を練っている。

本題材に関わる生徒の実態を書きます。

素材についての説明を書きます。

生徒の実態と素材の特徴を合わせ、題材を見通します。  
(教材化)

原学級で美術を学習することについて、個別の指導計画に基づき、教科担任、特別支援学級担任、原学級の担任等で連携して計画を立てます。

平成22年5月の文部科学省初等中等教育局長通知に示された評価の観点に基づいています。

ウ 創造的な技能	制作の順序に見通しをもち、アクリルガッシュの平塗りにより、美しく彩色することができる。
エ 鑑賞の能力	伝えることと形や色彩との調和した美しさ、つくり手の意図などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。

## 5 レンさんへの支援

**【実態】**


- ・発想構想の場面では、具体的なイメージがもちにくく、活動できずに時間が過ぎてしまう。
- ・やることははっきり決まると自分のペースで取り組むことができるが時間がかかる。
- ・全体指導の中で課題把握することは難しい。

**【困難さの背景】**

- ・自分なりの発想をすることや、決定することに十分な時間を要する。また、多くの選択肢から一つを選ぶことが難しい。
- ・下描きをきれいな線で描いたり、絵の具をしっかりと練ったりするなど、道具や素材の扱いが丁寧で納得のいく表現を追求する。
- ・言葉だけでの説明では見通しがもちにくい。

**【本題材における支援とその意図】**

- ・表すものを最終的に自己決定できるように、必要に応じて、表す場所や物事を教師が絞り込んで提案する。
- ・下描きをする時や配色を決める時に特別支援学級の授業でも扱えるように担任間で連携し、十分な時間を確保する。
- ・課題把握のために、学習カードに記入した前時の振り返りを基に、その時間の課題を導入ではっきりとさせ、授業の流れを黒板に示し、確認できるようにする。
- ・事前に原級の担任と相談したペアやグループで、自己の課題や一時間の振り返りを共有する時間を確保する。

レンさんの実態、困難さの背景を原級の担任・特別支援学級の担任と共に考え、資料（本書 P67 「生徒の実態に応じた支援」を作成します。それを基に本題材に必要な支援を考えます。

## 6 題材展開と評価計画（全9時間扱い）

時間	○学習内容・指導 ★レンさんへの支援 ◆レンさんへの支援を基にしたUD	・評価の観点 ★レンさんの評価
1	○参考作品を鑑賞し、ピクトグラムの特徴をつかむ。 ・交通標識、案内図、オリンピックのピクトグラム等を提示する。 ・ピクトグラムのデザインの共通点を考え発表し合うようにする。 ◆作品のスライドを用意し、教科書の作品を一つずつ鑑賞できるようにする。	・伝えることと形や色彩との調和した美しさ、つくり手の意図などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。(エ) ★参考作品について、感じたことを鑑賞カードに記入できる。

学級全体に共通する支援・評価に加えて★でレンさんへの支援や評価、◆でレンさんへの支援を基にしたUD化を入れます。個別の支援や評価を入れることで、全体指導に加えてレンさんにどのような支援が必要か具体的に考えたりどのような姿を評価するのか明確にしたりすることができます。

2 ・ 3	<p>○中学校生活の中で役立つピクトグラムをテーマを考え、アイデアスケッチに表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表したいテーマを決めて、アイデアスケッチをするように伝える。</li> <li>・形や配色も考えるよう伝える。</li> </ul> <p>★前時の参考作品を手元で見られるようにプリントで配布する。</p> <p>★テーマを決められるように、レンさんの身近な教室の候補を示す。</p> <p>○相互鑑賞を行い、アドバイスを参考にデザインを決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見た人に伝わりやすくするためのアドバイスをするように伝える。</li> </ul> <p>◆必要な生徒には教師からもアドバイスする。</p> <p>★グループの友だちにもらったアドバイスを声をかけて確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイスを参考に、デザインを決定していくように伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りのピクトグラムに関心を持ち、主体的に創意工夫して表したり、表現の工夫を感じ取ったりしようとしている。(ア)</li> <li>・伝えたい内容を多くの人に伝えるために、形と色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、デザインの構想を練っている。(イ)</li> </ul> <p>★テーマを決め出し、アイデアスケッチに一つでもデザインを描くことができる。</p>
4	<p>○ケント紙に下描きする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定規やコンパスを使い、デザインを丁寧に下描きするよう伝える。</li> </ul> <p>★描くデザインを確認し、大きさや描き方を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピクトグラムに関心を持ち、主体的に創意工夫して表したり、表現の工夫を感じ取ったりしようとしている。(ア)</li> </ul>
5 ・ 6 (本時) ・ 7 ・ 8	<p>○デザインの下描きに着色する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターカラー風に塗るために、平筆と面相筆の使い方を確認する。また、混色の順番や、絵の具と水の割合、一度に作る絵の具の量も確認する。</li> </ul> <p>◆着色の手順や注意事項を分かりやすく掲示する。</p> <p>★制作の中で手が止まってしまうときに、制作の見通しがもてるように次に何をするか問いかける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作の順序に見通しをもち、アクリルガッシュの平塗りを使って美しく彩色することができる。(ウ)</li> </ul> <p>★上記評価(ウ)と同じ。</p>
9	<p>○ピクトグラムを鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品カードへ工夫した点や感想の記入を促す。</li> </ul> <p>★納得のいった部分を聞き、作品カードに書くように伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの作品で、表現の工夫や、「いいな」と感じる表現とその理由を見つけることを伝える。</li> </ul> <p>★どの作品をみて「いいな」「分かりやすいな」と感じるか尋ねて、その作品のよいと感じるところを鑑賞カードに書くように伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えることと形や色彩との調和した美しさ、作り手の意図などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。(エ)</li> </ul> <p>★自分の作品カードに記入できる。友だちの作品についての感想を一つでも記入できる。</p>

レンさんのように知的障害特別支援学級に在籍する生徒については、個別の指導計画に基づき評価規準を設定します。

## 7 本時案

### (1) 主眼

下描きしたデザインに着色を始めた生徒たちが、着色を進める場面で、アクリルガッシュの着色方法を振り返ったり、ペアで本時自分が進めることを発表したりすることを通して、制作の順序に見通しをもち、アクリルガッシュの平塗りを使って美しく彩色することができる。

### (2) 本時の位置（9時間中第6時）

前時：自分の考えたピクトグラムの下描きに着色を始めた。

次時：形や色のバランスを確認し、着色を進める。

### (3) 指導上の留意点

①配色カードを自由に見られるように用意する。

②すぐ制作に入れるよう、絵の具、筆洗は授業前に用意する。

### (4) 準備品

作品、アクリルガッシュ、筆洗、色彩に関する掲示物、着色の注意事項を描いた掲示物、学習カード

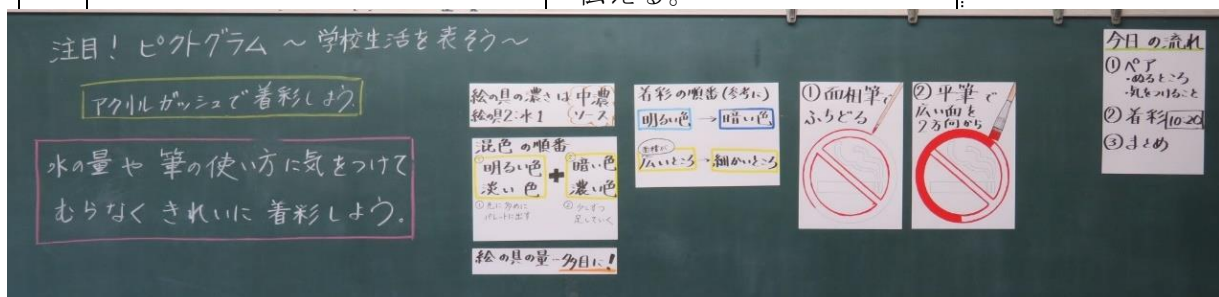
### (5) 展開

段階	学習活動	△教師の指導・支援
	○予想される生徒の姿 ☆評価	▲レンさんへの支援 ◆レンさんへの支援を基にしたUD
導入 (10分)	1 アクリルガッシュの使い方や着色時の注意点を考え、本時の制作の見通しをもつ。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">アクリルガッシュでピクトグラムを着色しよう。</div> ○水が多くてムラになってしまったから、絵の具と水の量に気をつけたい。 ○面相筆を使うのを忘れていてはみ出たから、面相筆と平筆を使い分けて塗りたい。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">水の量や筆の使い方に気をつけて、むらなくきれいに着色しよう。</div> ○人の形をはみ出さないように塗りたい。	△教師の指導・支援 ▲レンさんへの支援 ◆レンさんへの支援を基にしたUD  ○本時の制作を確認する。 ○前時の学習カードで振り返る。  △前時の着色で困ったことを発表するように伝える。 △どのような事に気をつけて着色すればよいかについて発表するように伝える。 ◆4 アクリルガッシュの使い方・注意点を図で示す。  ◆2 本時の流れを示すカードを掲示する。 △ペアで本時塗る部分と注意する事を発表し合うように伝える。

▲レンさんへの支援の番号は、P67資料生徒の実態に応じた支援の＜全体を通して行う支援＞の番号を表しています。

図で示すとともに、レンさんが注目しやすいように、レンさんの筆を使って、全体で筆の使用方法を確認します。

レンさんを支えてくれる生徒が同じグループになるように、原級の担任と相談しておいたペアやグループで効果的に関わることでできる座席にします。





	○△△さんは広い面積を塗るんだな。平塗りが上手くいくといいね。	▲⑤ うまく言葉にならないことが予想される。どの部分を塗るか尋ねて、指さすように促し、確認する。
展開 (30分)	2 下描きに着色する。 ○はみ出しても修正できるように、明るい色から塗ろう。 ○面積が広いから多めに色を作っておこう。 ○絵の具の濃さが上手くいかない。水の量で調節してみよう。 ○平塗りをする前に、面相筆で周りを塗るんだ。はみ出さないように気をつけよう。 ○筆の線がむらになってしまった。水の量が多いから絵の具を増やして、もう一度塗り重ねてみよう。 ○きれいに広い面が塗れた。細かいところも丁寧に進めよう。	△ペアで確認したことを基に制作に入るよう伝える。 △絵の具や水の量について必要に応じて声をかける。 △面相筆や平筆を使い分けられていない生徒に塗り方を伝える。 △きれいに縁取れていたり、むらなく塗れていたりする生徒に認める声がけをする。 ▲⑤ すぐに制作に入れない場合、今日の塗る色を尋ね、今日塗る色をパレットに出すように声がけをする。 ▲⑤ 困っている時は、塗る部分を一緒に確認し、制作を進めるように伝える。 ▲①丁寧に塗り進めていくことが予想される。むらなくきれいに塗れていることを認める声がけをする。
☆制作の順序に見通しをもち、アクリルガッシュの平塗りを使って美しく彩色することができる。 (つぶやき・制作の様子・作品・学習カード)		
まとめ (10分)	3 本時を振り返る。 ○人の形をきれいに塗り終えることができた。 ○△△さんは広い面がむらなくきれいに塗れているな。 ○次回は背景を塗っていきたい。	△本時を振り返り、学習カードに記入するよう伝える。 ▲①本時できたことを記入するように声をかける。 △ペアで振り返りを発表するように伝える。 △数人に発表を促し、全体で課題を振り返る。

事前に特別支援学級で配色を決めておくことで、他の生徒と同時に制作を始めることができます。制作開始と同時に、どの絵の具を混ぜてその色ができるかをレンさんと確認し、制作に入ります。

制作の様子を見て必要な声がけを適切なタイミングで行うことを意識して机間指導します。レンさんだけでなく、全員の生徒に1時間に1回以上の声がけをします。

ペアの生徒が作品を認めてくれることでレンさんは満足感をもって授業を終えることができます。

### 【事例を振り返って】

中学校の教科担任では把握できにくい個の特性や支援の方向について、原学級の担任、特別支援学級の担任、他の教科担任と情報共有したり支援の方向を探ったりしながら「資料 生徒の実態に応じた支援シート」(👉本書 P67)を作成することで、より効果的な支援をすることができます。

本時では、教科でのねらいを明確にし、特別支援学級の生徒を中心に板書、題材展開や、一時間の授業展開を意識しました。また、ペアやグループによる友との共同学習の場を設定することで、個の課題を明確にしたり、表現のよさを認め合ったりして、より主体的な学習を進めることができます。そのことにより、特別支援学級の生徒だけでなく、他の生徒にとっても有効な支援を行うことができます。

**資料** 生徒の実態に応じた支援

(作成日) 平成 年 月 日

【通常の学級用】 個別の教育支援計画・個別の指導計画シート（簡易版）

	〇〇中学校 2年〇組	担任名	△△△△ △△△
氏名 (フリガナ)	松本 レン (マツモト レン)	性別	生年月日 H〇〇年〇月〇〇日 14歳
保護者氏名	松本 ヒデユキ	連絡先	090-****-****
諸検査結果	未実施		
相談機関	なし		
必要な支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内でレンさんの課題や必要な支援について共通理解をし、支援の方向をそろえる。</li> <li>・必要に応じて特別支援学級の授業の中で、補充となる学習を進める。</li> </ul>		

指導計画

指導場面	めあて	支援内容	評価
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発想構想や制作の場面で、自分なりの表現を決め出し制作に向かうことができる。</li> <li>・鑑賞の場面で、自分の感じたことや思ったことを友だちに伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表したいものを決め出せるように候補をいくつか示したり、声をかけて一緒に考えたりする。</li> <li>・課題について、個別に何をするか確認する声かけをする。</li> <li>・自分の思いを言葉にできるように学習カードを活用する。</li> <li>・ペアやグループで話しやすいように座席を配慮する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマを決め出しアイデアスケッチに一つでもデザインを描くことができた。</li> <li>・自分で色を決め出し丁寧に着彩することができた。</li> <li>・自分の作品カードに記入し、友だちの作品についての感想を一つでも学習カードに記入することができた。</li> </ul>
全教科 共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の導入の場面で本時の課題が分かる。</li> <li>・自分で問題や活動に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で課題を設定したあとに個別に確認をする。</li> <li>・机間指導で声をかけ、学習の中で考えたことや活動の様子を認める言葉かけをする。</li> <li>・必要に応じて特別支援学級で授業の内容を補充する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を明確にすることで、学習や活動に進んで取り組むことができるようになってきた。</li> <li>・教師の声かけや友との関わりの中で積極的に活動できることが増えてきた。</li> </ul>

全体を通して行う支援

- 1 学習の個別支援の場で「できた」「一人でもやれる」という経験を多くしていく。
- 2 一人でも課題をもち、問題解決に見通しがもてるように、学習スタイルをパターン化していく。
- 3 一時間一時間、学習の課題に取り組めるような声かけをする。
- 4 具体物や半具体物を活用し、経験的・視覚的に問題が把握しやすいようにする。
- 5 困った時やできないことに直面した時の対処方法を具体的に伝え、実際の生活の場でもいかすことができるようにする。



事例3：LD等通級指導教室 中学校

# 生徒とともに学び方の工夫を考え、 学習や生活に生かす支援

医療機関でLDとADHDの診断を受けている中学3年生のアキラさん。整理整頓が苦手で、教室の机周りやロッカーが散らかっていて忘れ物も多くあります。学習面では、英単語の読みや数学の図形問題が苦手です。担任の先生の依頼を受けて教育相談に入り、日常生活の指導や発音と綴りを関連付けた英語の読み指導を行った事例を紹介します。

・本書 P165  
・「通級による指導ハンドブック」P55

## 1 LD等通級指導教室(以下、通級教室) 個別の指導計画

〇〇中学校 3年 組 氏名 アキラさん 年 月 (作成者 )

日常生活の姿 (学習・行動・対人関係・運動等)  
・整理整頓が苦手で、教室の机周りやロッカーが散らかっていて忘れ物も多い。  
・集団指導では集中が途切れてしまうが、個別に声をかけると取り組める。  
・漢字の書き、英単語の読み、数学の計算や図形が苦手。アルファベットの読みの習得が難しい。  
・家庭学習では、30分単位で教科を変えて取り組むと集中してでき、テストの得点アップにつながった。  
・穏やかな性格で、親子関係も友達関係も良好である。

〈家族構成〉  
〈生育歴・診断名〉  
ADHD (不注意優位) LD  
〈諸検査〉  
WISC-IV FSIQ( ) 〇〇年〇月〇日  
VCI PRI WMI PSI  
言語や聴覚が優位。記憶や作業の能力が低めである。複数刺激の処理が苦手。  
PRS (スクリーニングテスト) ,LDI-R LD該当  
〈医療等関係機関〉 A小児科、現在服薬中止

本人・教師・保護者の願い  
〈本人〉テストでよい点を取りたい。  
〈保護者〉テストの点を上げてほしい。提出物をきちんと出し、お便りをきちんと持ち帰ってほしい。  
〈担任〉片付けや勉強に進んで取り組み力をつけてほしい。

可能性の芽 (こうすればできそうだ)  
・集団では気が散りやすいが、1対1の学習では意欲的に取り組めそうだ。  
・短時間に区切って学習すれば集中して取り組めそうだ。

教育課題 (在籍学級)  
①授業の準備や片付けができ、授業に集中して取り組めるようになる。  
〔心理的な安定 (3)〕  
②予定や持ち物などのメモを取り、それを活用して忘れずに行動することが増える。  
〔健康の保持 (4)〕

教育課題 (通級教室 (学びの教室))  
①整理整頓や忘れ物を減らすなどのライフスキルを向上させる。〔健康の保持 (4)〕  
②自分に合った学習時間の組み立て方を見つける。〔心理的な安定 (3)〕  
③自分に合った学習方法を見つけて、学力の向上に役立てる。〔環境の把握 (2)〕

通級教室と通常学級の担任が生徒の実態を共有し、指導に一貫性がもてるように、教育課題等を各担任が1枚のシートに記載しました。

支援の方向  
・プリント整理のファイルを用意する。  
・黒板周りを飾らない。  
・個別に声をかけて、授業に意識を向ける。  
・ノートを取る時間を確保する。  
・メモ帳を活用する。

支援の方向  
・場の構造化や視覚化、メモの利用などを提案して一緒に試す。  
・テスト勉強方法や休み時間の過ごし方などの計画を立て達成状況を表で確認する。  
・アルファベットの音読みや漢字、文章読解、数学等でのつまづきを見つけて、効果的な学習方法を提示する。

支援後の生徒の姿

支援後の生徒の姿

## 2 学習指導案（本時案）

### （1）本時の主眼

注意集中のしづらさや英語の読みや数学の図形などの理解に困難さを抱えている生徒が、

- ① 方策を共に考えることを通して、整理整頓や忘れ物対策を進める。
- ② 発音と綴りとを関連付けた英語の指導や学習アプリなどを利用することを通して、学び方を工夫したり、図形問題の困難さの元にあるものを探ったりする。

### （2）指導上の留意点

- ・本人が努力しているところや得意なところに着目して、認める声がけをしていく。
- ・相談場面では、例を挙げたり選択肢を示したりしつつ本人が決断できるようにする。

### （3）展開

	学習活動	○予想される反応 △支援 ☆評価	時間	備考
導入	1 挨拶 今日の学習内容の確認	△本時の活動計画を読むことを伝え、頑張りたい活動を尋ねる。 ○「小文字探しのタイムを縮めたいなあ」	2	ホワイトボード
展開	2 生活スキルアップ  【健康の保持】 (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること	○教科ファイルの利用や授業の片付け・準備、提出物の状況を確認する。カバンに入れる物を考えて書くだろう。 △それぞれの状況を聞き、向上したところを認める。入れる物の選択肢を口頭で提示する。 ☆カバンに入れるものを書き出せたか。	12	記入用プリント
	3 ビジョントレーニング  【環境の把握】 (2) 感覚や認知の特性への対応に関すること	△一通り見直す時間をとり、前時に迷った文字の復習をする。 ○「前よりもタイムを縮めるぞ」 a～zを声に出しながら順に指で押さえていこう。 ☆集中してやり、前より速く押さえることができたか。	3	小文字表 ストップウォッチ
展開	4 覚え方を工夫しよう（発音）  【環境の把握】 (2) 感覚や認知の特性への対応に関すること	○文字ごとCDの発音を聞いて復唱し、前時の復習をするだろう。 △口形を確認し、一緒に声を出す。アルファベットの音読み（例：c→ク、g→グ）の表を生徒の手元に置く。 ☆アルファベットの音を発音する際、まねしたり聞き分けたりすることができたか。（cgaeの発音）	13	復習用カード 学習プリント CD

通級指導教室での教科の内容は、障がいの状態に応じた特別の指導であり、単なる各教科の遅れを補充するための指導ではないことに注意します。

👉「中学校学習指導要領解説総則編」P110

相談場面では、自己理解、自己決定を大切にします。

整理グッズの利用や、持ち物表の掲示で、苦手な分野をカバーする作戦を立てます。

該当する自立活動の項目を押さえ、目的を明確にして指導します。👉「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」

注意集中、跳躍性眼球運動、反復練習による読みと文字とのマッチングをねらう学習です。

聴覚優位な特性を生かして、英単語が読めるようになることを目指します。

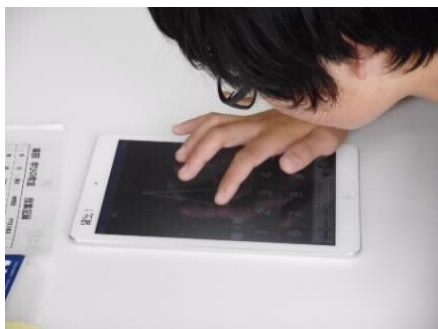
展 開	5 覚え方を工夫しよう (英単語) 【環境の把握】 (2) 感覚や認知の特性への対応に関すること	△単に見て書く場合と、声に出して読みと意味やスペルを言ってから書く場合とで比較する。 ○声に出して書いたほうが覚えられそう。 ☆練習した単語の読みと意味を覚えたか。 △覚え方の方法が宿題でいかせそうか、例題を使って確認する。	12	デジタル教科書、参考書、四線紙
	6 難しいところはどこかな？ (図形) 【環境の把握】 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	△三角形の内角の和は何度か聞き180°であることを確認する。 ○学習アプリを使ってクイズ感覚で楽しみながら筆算し、角度を出すだろう。 ☆図形問題のどんなところをつまずくか、気づくことができたか。	6	タブレット端末の学習アプリ
まとめ	7 ふり返り	○頑張ったことを発表するだろう △集中して取り組めたことを認める声がけをする。	2	

優位な特性をいかした、宿題の効果的な学習方法を探ります。

苦手だという図形問題に取り組み、どんなところをつまずくのか実態把握をし、生徒の自己理解につなげます。

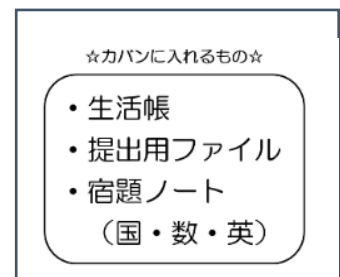
#### (4) 授業を振り返って

- 生活スキルアップで一緒に考えた持ち物リストを、後日カードにしてカバンのふた裏に貼った。実際にこれを使って、アキラさんが忘れ物を減らせるか、担任と連携して確かめていきたい。
- アルファベットの音を発音する際、単語の中に使われている c g a e の音をすべて聞き分けることができ、改めてアキラさんが聴覚優位なことを実感した。記憶を維持することが弱いので、アルファベットの音読みの表を使うことで、単語を読み、意味の規則性について見当をつけることができた。
- 学習アプリ「なん度？」の図形問題で、アキラさんは

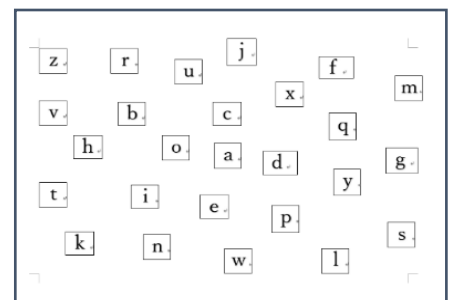


学習アプリで問題に挑むアキラさん

楽しみながら問題に挑んだ。途中、△ABCの∠Aの外角を求める問題で、「 $180 - (\angle B + \angle C)$ 」という計算をした。∠Aを求める問題と混同してしまったようだ。指摘すると気づいて、さらに「 $180 - \angle A$ 」で正解を出すことができた。注意集中の問題、または視空間認知の問題が疑われる。これをもとに支援の方法を探りたい。



持ち物リスト



アルファベット小文字探し表 (ビジョントレーニング)

(参考文献) 「書いて覚える楽しいフォニックス」(マガジンランド)  
学習アプリ「なん度？」(学校ネット) 等

## (5) 教材

### ①発音と綴りの関係性を知る（英語）

英語は、発音と綴りの関係性に必ずしも規則性があるとは限らず、英単語を読むのに不安や抵抗感を抱いてしまう生徒がいます。そこで、似た規則の語を選んで扱うことで、安心して発音できるようになることを目指します。アメリカの子ども達に英語の読み方を指導する方法として考案されたこの方法は、聴覚優位な特性を



持つ生徒が英語を読む力を伸ばすことに役立ちます。発音を聞き分け、それと文字とを結びつけて法則化して学んでいきます。自力で英単語が読めると、英語に対する苦手感が一つ払拭できます。小学校段階で身近な英単語にたくさん触れて意味がわかる（たとえばアップルはりんご等）ようにしておく、英単語が読めれば意味がわかり、一層自信をつけることができそうです。

### ②無料アプリの活用

スマホやタブレット端末が普及し、ゲーム感覚で学べる学習アプリも出回ってきました。そこで、中学生が学習に使える無料アプリを探してみました。図形問題に苦手意識のあるアキラさんでしたが、学習アプリ「なん度？」では、クイズ形式で楽しみながら学習を進めることができました。ゲーム感覚で取り組みやすいので、生徒の特性に合わせて選んで活用することも一つの方法だと思います。

## 3 中学校の通級教室の指導で大切にしてきたこと

### (1) 教育相談を通して育てたい自己理解や自己決定の力

思春期を迎えている中学生は、小学生以上に相談の時間を大切にしたいものです。「教育相談」の段階で、困り感を共有し、通級教室での到達目標や学習内容、どの時間に通うか等を生徒自身とじっくり話し合ってきました。周りの必要感が先行し、本人が納得できていないと、目的意識が持てずに意味のない時間になってしまいます。また、通級教室の授業の中でも、困難の改善・克服のために教師と生徒が相談しながら作戦を立て、実行してみて振り返るようにしています。そのことを通して、自己理解（自分にはこんなところがあるが「こうやればうまくいく」）が深まるようです。生徒が主体的に取り組む姿を後押しできる教室でありたいと思います。

### (2) 宿題への取り組み指導

学習した内容が定着するためには、家庭学習による復習が欠かせません。しかし、宿題の提出ノートが単なる手先の作業になっていては、記憶の定着には結びつきません。どのように学習すれば力をつけることができるのか、その生徒が得意とする能力を生かしながら、具体的にやり方を探っていくことも通級教室における大切な支援だと考えます。アキラさんが「覚え方を工夫しよう(英単語)」の学習法を宿題に取り入れて覚えることにつながったかを見届け、評価していきたいです。



(3) SSTやアンガーマネジメント，ストレスマネジメントなど

思春期を迎えた中学生の中には、アキラさんとは違うタイプで、対人関係や感情のコントロールなどの困難を抱えている生徒も多くいます。

そのような生徒にも、まずは教育相談の中で、どんなところで困っているのかを共感的に聞き取るようにしています。その上で、一緒に目標を定め、SST「上手な聞き方・話し方」「こんなときどうする」などで、コミュニケーション等のやり方や方法を学んでいます。その際、どんな力を伸ばすことに役立つ学習なのかをきちんと説明します。そうすることで、生徒の取り組みへの意欲も高まり自己理解も進むようです。

自傷・他傷など緊急性が高い場合は、応急処置として6秒ルールやタイムアウト、呼吸法などのアンガーマネジメント（怒りへの対処法）を扱い、実際の生活の中で体験して使えるようにして、トラブル回避を目指します。それから徐々に、自分の考え方の癖に目を向けたり感情のコントロールの仕方やアサーション（適切な自己主張）の方法を学んだりしています。心の繊細な部分に直接触れるところなので、生徒の反応を注意深く見守り、一人一人に応じた対応を工夫していく必要があります。

不登校傾向や自傷行為などストレスを感じやすい生徒には、コーピング（ストレス対処法）を紹介し、自分に合ったストレス解消法を見つけるようにしています。

#### 4 連携や般化について

(1) 保護者との連携

通級教室での取り組みを、連絡帳を通して担任と保護者に毎回お知らせしています。アキラさんは、保護者からの提案でクリアファイルを使った「学校⇄家庭」間のお便りのやり取りを行っています。保護者から「進路に関する提出物だけは今のところきちんと持ち帰っているようですが、他のものは出せていません。アキラに“大切だ”と実感してもらうにはどうすればよいのでしょうか」という相談を受けて本時の授業を展開しました。持ち物リストを目につくところに貼って意識づけを図る方法が有効かどうか今後の様子を見ていきます。

連絡帳の内容は、授業記録としての役割も兼ねてデータ上に残してあるので、指導の振り返りや次の展開に役立てることができています。

(2) 医療機関との連携

アキラさんはA小児科に通院しています。WISC-IVの結果を伝えると、A小児科の他の検査と合わせて次のような対応アドバイスをいただきました。

学びの教室		授業記録	
1月	日	曜日	時間目
3年	組	氏名	アキラさん
学習内容		学習の様子	
生活スキルアップ		整理法と提出物について確認。毎時間教科書とノートの用意はできている。学習ファイルは持参したが管理は隣の友達にしてもらっているとのこと。カバンに入れるものリストと一緒に考えました。カバンに貼るが目にするところに貼ってチェックし、忘れずに用意できるか試してみてください。 アルファベット小文字の文字探しは47秒で、前回よりまた20秒も縮めました。繰り返すことで力がついているようです。 フォニックスは、前回のp d t dを復習し、新たにc g a eをやりました。聞き取りがパーフェクトで感心しました。 英語は、教科書単元から新出3語を拾い、覚え方を工夫しました。読みと意味とスペルを声に出して確認し、その後で書いて覚えると覚えやすいようです。毎日の提出ノートでぜひ試してみてください。 無科学習ソフト「なん度？」をやりました。3角形の四形のどこかの角度を求めるものです。楽しみながら取り組みました。途中で3角形の外角の求め方と内角の求め方が混乱してしまうところがありました。内角が外角が意識できる工夫を考えたいです。 次回は7/（木）1時間目です。	
ビジョントレーニング			
覚え方を工夫しよう(英単語)			
宿題への取り組み方			
数学アプリ			
○学級担任より		○保護者より	

連絡帳（授業記録より）

- ① 構造化, ラベリング
- ② スケジュール(年, 月, 週, 日) 取り組むべき目先の学習内容
- ③ トークンエコノミー(目標を立て達成できたら, 自己評価ができる称賛)

物の管理や忘れ物対策は, ①を使って自己管理できる方法を探っています。持ち物リストはその取り組みの一つです。また, ②③に関しては, 月暦を使ってアキラさんと当面の予定を確認し, 次のテストに向けての家庭学習の方法を相談しました。点数が上がったら遊べるという目標設定と, 30分ごとに休憩を挟んで教科を替えて取り組むやり方で, 意欲的に学習し得点アップにつなげることができました。

### (3) クラスへの般化

担任の先生とは, 日常的に連絡帳や立ち話などで通級教室の様子を知らせ, 情報交換や相談をしています。集中しやすいように座席を前列にする, ロッカーの整頓を手伝い受け, 大事な提出物には声掛けをするなどの配慮をしてくれています。また, 学級でのアキラさんの様子を聞いて, 通級教室の指導・支援に役立てるようにしています。

職員会議後には, 短時間教科担任者会を開いて, アキラさんの合理的配慮やUD化を意識した授業を心がけてもらうようお願いしました。後日英語の授業参観に行ったところ, 教科書を忘れてはいたものの, 教科担任の先生や近くの友達に声掛けをしてもらいながら, 学習プリントに頑張って取り組むアキラさんの姿を見ることができました。

2018. 〇. 〇

3年 組 教科担任者会資料

アキラさんに配慮した授業(授業のUD化)について

1 アキラさんの実態

ADHD(不注意優位) LD

【苦手なこと】

- 複数刺激の処理
- ・他からの刺激に注意を取られ, 気が散りやすい。
- ・同時にいくつもの刺激や, 段階を要する課題は混乱しやすい。
- 記憶すること
- ・単語の意味や一瞬記憶など, 学習面で記憶しておきたいことが定着しない。
- 単純な作業を効率よく行うこと
- ・ノートを取るのに時間がかかる。

【得意なこと】

- 言葉で話したり聞いたり, 考えたりすること
- 交友関係や性格の素直さ

2 授業で配慮していただきたいこと(UD化)

- 教室まわりをすっきりさせ, なるべく静かな学習環境を用意する。
- たくさんの情報は, 順を追って段階的に。
- 説明や指示は, 簡潔, 明確に。
- 映像や図などでは, 注目させるところに言葉を添える。

### 教科担任者会資料(教科担任者との連携)

#### 【事例を振り返って】

中学校のLD等通級指導教室では, 思春期を迎えた中学生ならではの対応が必要になってきます。相談の時間を大事にし, 自己理解や自己決定の力を伸ばしつつ学習の目的を共有して主体的に取り組めるよう心がけます。

アキラさんの場合は, どんな工夫をすれば苦手な整理整頓や忘れ物対策ができるのか, 試行錯誤を繰り返しながら一緒に考えてきました。また, 英語の読みの力を伸ばすために, 聴覚優位の能力を生かし, 発音と綴りを関連付けた学習を行いました。アキラさんにとってわかりやすく, 読み書きできる単語も増えてきたようです。

また, 指導の際は, 学習活動が自立活動のどの内容を扱っているのかを明確にしておくことが大切です。それによって, 学習内容の軸が据わりぶれない指導が可能になります。

担当者のもう一つの大きな役割は, 「つなぐ」ことです。授業参観をして実態把握や指導の評価を行ったり, 担任や保護者, 教科担任, 医療関係者などと連絡を密に取り合ったりして, 通級指導教室での学びが通常の学級や家庭などの生活及び学習の中で真にいきるようにすることがとても大切です。



## 事例4：LD等通級指導教室 中学校

# 生徒が自立を目指し、 主体的に取り組むための支援

中学校1年のヒカルさんは入学してから3週間、学校へ来ることを渋り、毎朝泣いていました。学級担任や養護教諭が理由を聞いても自分の気持ちを言葉にできずにいました。特別支援教育コーディネーターからの相談を受け、ヒカルさんと話をすることで、不安の原因は何なのか、何に困っていたのかを知ることができました。通級指導教室でのSST（ソーシャルスキルトレーニング）をきっかけに、ヒカルさんが不安をどう乗り越えたのかを事例を通して紹介します。

### 1 LD等通級指導教室（以下、通級教室） 個別の指導計画

〇〇中学校 1年 組 氏名 ヒカルさん 年 月（作成者 ）

#### 成育歴・諸検査・連携の記録など

- ・コミュニケーションの経験が少ない。
- ・WISC-IVより  
知的発達水準は平均  
知視覚と処理速度が優位、聴覚的記憶  
と同時処理が苦手である。

#### 日常生活の姿

- ・自分が困っていることや分からないことがあると泣いて気持ちを伝える。
- ・絵や図を示して話しかけると言葉で答えようとする。身近な教師と、自分の状況や気持ちを整理することができる。

#### 可能性の芽

- ・ヒカルさんの困難な状況や気持ちを教師と一緒に考え、順番に図や言葉で示すことにより、自分の状況や気持ちを整理できる。
- ・図や言葉で自分の困難さや困難さを克服する方策が整理できることにより、前向きに行動に移そうとできる。

#### 本人・保護者・教師の願い

- 【本人】困っていることを解決したい。
- 【保護者】勉強を頑張ってもらいたい。
- 【学級担任】担任に意思を伝えてほしい。
- 【通級教室担当】自分の困っていることを理解し、解決する方策を身につけてほしい。

#### 教育課題

- ① 自分の得意不得意を理解し、不得意な部分を補う方策を身につける。〔人間関係の形成（3）〕〔コミュニケーション（5）〕
- ② 場所や場面の状況を理解して心理的抵抗を軽減できるようにする。  
〔心理的な安定（2）〕

#### 指導・支援の方向

- ・心の状況（自分の気持ちや不安感、抱えている問題）を把握や整理するために、「心の温度計」を使って表す。
- ・困り感を解決するために、教師と相談しながら黒板に場所や場面、解決方法を示し、解決方法を整理する（心の地図）。
- ・解決する方法を実行できるように、SSTを行う。担任や教科担任とも連携をして、ヒカルさんが不安を伝えたときには、すぐに受け入れ対応する。

この個別の指導計画は、在籍学級の担任と相談しながら一緒に作成をします。定期的に指導・支援の方向や評価についても共有します。

## 2 学習指導案（本時案）

### （1）本時の主眼

自分の不安や困り感などの気持ちを整理し、解決方法を見つけ出したり、解決に向けて行動の仕方を学んだりする。

### （2）指導上の留意点

- ・話しやすい雰囲気をつくるために、本人の気持ちに共感する声かけやうなずきをする。
- ・本人が選択や判断がしやすいように、黒板や紙等に本人の状況を絵や図で示す。

### （3）展開

	学習活動	○予想される反応 △支援 ☆評価	時間	備考
導入	1 挨拶 今日の学習内容の確認	△見通しがもてるように、毎回同一形態のプリントを渡し、学習内容を確認する。	4	プリント
展開	2 気持ちを整理してみよう 心の温度計 (資料1参照)  【人間関係の形成】 (3) 自己の理解と行動の調整に関すること	○今の気持ちの状況やその原因をプリントに書き込むだろう。 △気持ちに共感する声かけをしながら、ヒカルさんがプリントに書いた内容を一緒に確認する。 ☆自分の今の気持ちの状況が把握できたか。 ☆不安や困り感が起こっている原因がわかったか。	13	心の温度計シート
	3 どうすれば解決できるかな 心の地図 (資料2参照)  【心理的な安定】 (2) 状況の理解と変化への対応に関すること	○「放課後に保健の先生や担任の先生に相談しようかな」 △「誰に相談する?」「いつ相談する?」と問いながら、不安の解決に向け、方策を具体的にしていく。 ☆状況を理解しながら、納得できる具体的な解決法を見つけられたか。	13	黒板
	4 実際にやってみよう (資料3, 4参照)  【コミュニケーション】 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること	○場面を想定して、話し方や相手に伝える内容を工夫するだろう。 △困り感に即した場面や状況を設定する。 ☆状況に応じた話し方、説明の仕方ができているか。	13	シナリオの台本
まとめ	5 学習の振り返り ※ 教師が板書した内容をプリントにまとめる	○これからできそうなことに見通しをもち、行動しようとするだろう △今日学んだことを板書する。	7	振り返り用紙

該当する自立活動の項目を押さえ、目的を明確にして指導します。  
「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」

生徒の指導や支援については、学級担任や校内の先生方と支援会議等で共通理解を図っておきます。

場面や状況を設定する時には、通級教室の担当だけでなく、学級担任にも授業参加してもらい、より具体的な状況を設定します。

\* 通級教室でヒカルさんが自分の気持ちを整理したり、解決に向けて学んだりしたことは、すぐに在籍学級の担任や教科担任等の関係者に伝えます。在籍学級等の中で、自分の気持ちを受け止めてもらえることや学んだことが成功することは、別の場や状況においても使っていこうという気持ちを高め、スキルを身につけることにつながります。

### 3 通級教室で行った学習の主な内容

通級教室では主に、

- ① 自分の気持ちや課題を把握します。【資料1】
- ② どのような方法で気持ちの整理や課題を解決していけばよいかを考えます。【資料2】
- ③ 実際にどうするか計画し・リハーサルして・実行する活動します。【資料3】 【資料4】

#### 【資料1 心の温度計(今の自分はどんな状態?)】

喜び・情熱 自信 感謝・幸せ 熱意・やる気 信念 楽しみ 期待・希望 満足 平温(普通) 退屈 不安・心配 いらだち 悲観 失望 怒り・嫉妬 罪悪感・苦悩 絶望・無気力	学校名	年 組	その原因は何だろう？		
	氏名		その原因は？		
	+10℃ 0℃ -10℃	温度計の図 -7℃位	-3℃	+10℃	+10℃
			部活動	釣りをする	海に行く
			その原因は？		
			-8℃	-10℃	-10℃
			授業の授業	勉強やだ	学校やだ
	気持ちは+-何度かな？				

『楽しみ』が強ければその要因を、『不安』ならば不安の要因を考えます。

不安だけではなく、良いことの要因もあれば書いていきます。

原因ごとに今の心の状態は、何度なのかを想像して記入します。

自分の今の気持ちを枠で囲みます。あてはまるものすべてを囲みます。

全体的な今の心の状態を、何度なのか想像して記入します。

これは『今の自分の気持ちは平温か、+（調子が良い）か、-（不調）か、自分で知ろう！』という学習と、現在の心の状態の原因や要因は何かを自分自身に聴く方法、心理療法のフォーカシング（自分の「こころの声」を聴く方法）、自分が気がかりなこと、自分の抱えている問題を一つ一つ思い浮かべながら図にしていって心を整えていく活動、この二つを合わせたものがここで言う『心の温度計』となります。

コミュニケーションが苦手な子どもが不安や困りを示した時には、この「心の温度計」があることで、すぐに言葉にしなくても気持ちが伝えられることの安心感をもつことができます。

(1) 「心の温度計」の使い方（ヒカルさんの例）

- ①本人が落ち着いたところを見計らって、資料1のプリントを出し、静かに「今の自分はどんな気持ちかな？自分に静かに話しかけてみよう」と提示しました。
- ②「書いてある気持ちの中で、自分にあてはまるものがあったら、囲んでみよう」「難しい言葉もあるので、少し説明するよ」そう言って一つ一つ読みながら説明していく中で、本人が「これ。これも」と囲みました。
- ③「次は、その右の小さな温度計に、ヒカルさんが今、楽しみにしていること、気になっていることや、心配していることや、困っていることは何なのか、自分に優しく聞きながら書いてみよう」と言って、少し考える時間をとりました。

(2) ヒカルさんの様子と変化

不安や心配の要因として出てきたものは以下のものでした。

英語の読みの授業 - 7℃	教科担任制に慣れない - 7℃	中間テスト - 9℃	GとG、JとJ (書体の違い)でどちらが正しいか分からない。 - 7℃
友だちのこと - 6℃	部活動のこと - 3℃	今日がA日課なのかB日課なのか分からないのが不安 - 7℃	

一般的な要因の他、しばらく考えてから出た不安が、今日がA日課なのかB日課なのか分からない。「G」か「G」か、「J」か「J」か（小さな横棒が着くのか着かないのか）分からないというものでした。この二つはそれまで本人も意識していなかった不安だった様子で、自分でも驚いていました。そしてその場でA・B日課は教室に貼ってある週歴に書いてあること、大文字のGもGもどちらも正しいことを伝えました。

その結果、自分の不安の原因が明らかとなり、整理されたこともあって安心したのか「もう教室の授業に参加する」と言って通級教室を後にしました。

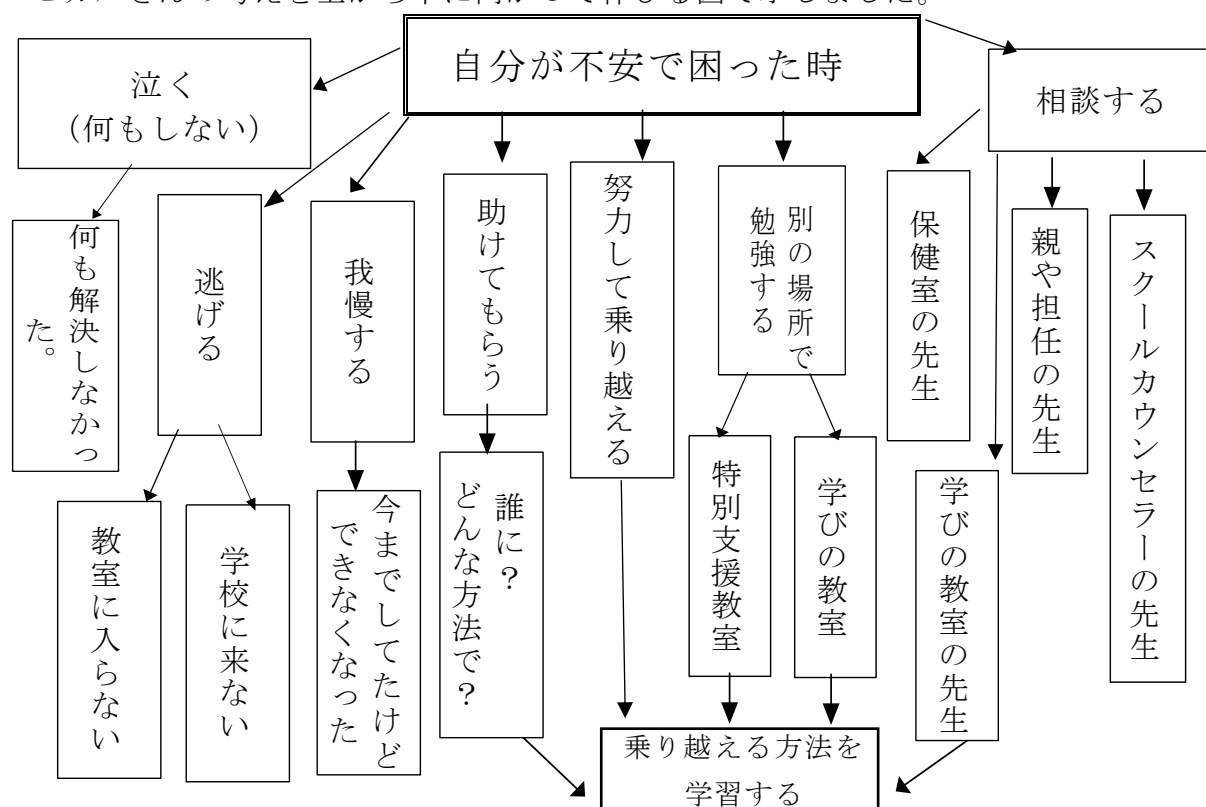
このように、自分の気持ちや課題を整理することで、今自分が抱えている困り感を言葉にすることができました。言葉にして伝えることで、自分を理解してもらえることが多くなり、学校生活の安心感にもつながっていきました。

【資料2 黒板を使って考えを図に書いていく授業】—心の地図—

本人の課題・事象等を中心に置き、そこから本人が考えたことを枝葉のように伸ばしていく図を書いていき、何をどう考えているか、何処に課題があるのか、この先何をどうすればよいか、解決の方法は何処にあるのかといったことを、頭の中だけで考えるのではなく、視覚も使いながら考える方法として行っていました。

(1) 心の地図の使い方 (ヒカルさんの例)

ヒカルさんの考えを上から下に向かって伸びる図で示しました。



(2) ヒカルさんの様子と変化

授業では、ヒカルさんから『自分に合った場所を探す』(別の場所で学習する)という言葉や『色々な人に相談する』という考えが何度も出されました。また、今やっているこの授業自体が、『他の人に、乗り越える方法を教わって練習している』ということを話しました。授業を通して、どのような方法で気持ちの整理や課題を解決していけばよいかを考えていくことにより、自分なりに納得をしながら解決方法を見つけ出すことができるようになりました。何より解決方法が具体的になることで、ヒカルさんの前向きな気持ちが大きくなっていきました。

【資料3 解決方法を考え・計画し・リハーサルして・実行する活動】

主に自分の課題をどんな方法でどうやっていけば解決するのかを、考え・計画し・リハーサルして・実行する活動を繰り返しました。

(1) 実際にやってみよう (ヒカルさんの英語の授業の事例 (先生に質問しよう))

- ① 自分の課題を確認する : [英語の授業で教科書を読むことが不安]
- ② どうやったら解決するか考える : [解決方法を英語の先生に聞いてみる]
- ③ 具体的な活動を考える : [英語のK先生に、休み時間に聞きに行く]
- ④ 方法や言葉を考える : [台本を作って練習する]
- ⑤ リハーサルする : [通級担当や、学級担任の先生に相手役になってもらい練習する]
- ⑥ 実施する : [実際にお願いしてみる]
- ⑦ 見返し : [うまくできた所、うまくいかなかった所を確認し、次にいかす]

【資料4 授業で作成した台本の一部（抜粋）】 《休み時間・英語科の研究室で》

① 入室時、

自分 「失礼します。1年〇組の〇〇です。K先生に用事があって来ました」

パターン1 先生から「はい、どうぞ」と返事があつたら入室しよう。

パターン2 先生から「K先生はいません」とか「今は入室はダメです」と言った時は、自分から「また来ます」と言って出直そう。

② 入室したら、

自分 「K先生。今、話しかけてもいいですか」

パターン1 K先生から「はい」と言った時は、質問をしてみよう。

「教科書に鉛筆書きで読み仮名を書いてもいいですか」と質問する。

パターン2 K先生が「今はダメです」と言った時は、自分から「分かりました。また来ます」と言って研究室を出よう。

《K先生からのアドバイス》

ヒカルさんは実際にK先生から二つのアドバイスをもらうことができました。

一つ目は、「教科書に鉛筆書きで読み仮名を書いていいですよ。そして、読み仮名が無くても読めるようになったものは、書いた読み仮名をどんどん消していきましょう。ただし、読み仮名は自分で調べて自分で書きましょう」でした。

二つ目は、「授業で教科書を読む自信ができたなら先生に言って来てください。それまでは指名しないようにしますね」でした。

【事例を振り返って】

本校の通級指導教室の開設に向けて、以下の文面を再確認しました。

《特別支援学校小学部・中学部学指導要領 第7章自立活動 第1目標》

「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う」

この目標を基に、教師がヒカルさんの気持ちに寄り添うことやヒカルさんが自分の言葉で気持ちや状況を伝えやすい環境をつくっていくことを大切にしました。そうすることで、本人が自分の状況を理解し、自ら困難さに対する解決方法を考えたり解決するための手段を身につけたりする姿が見られるようになりました。成功体験を積み重ねる中で、「困ったときには自分から助けを求める」ことができるようになってきています。

これからも、通級指導教室を利用している多くの生徒の気持ちに寄り添い、「生徒が自立を目指し、主体的に取り組む姿」を常に中心におきながら、指導・支援を組み立てていきたいと考えています。





# 実態把握とねらいの決めだしの工夫（国語）

## 1 単元名 「一年生に伝えよう【A話すこと・聞くこと】」

## 2 単元設定の理由

本学級には、3学年1名、5学年3名、6学年3名、合計7名の児童が在籍している。特別支援学級では学習や活動に前向きに取り組む、友だちと仲良く関わりながら生活しているが、一方で原学級など大きな集団での活動や初めて会う人と話すこと、話を最後まで聞いて自分でどうすればいいかを考えること等に困難さがある。

5年生のコウジさん、ツトムさん、サトルさん3人は、これまでの国語で、自分で書いた日記を互いに伝え合う学習を行った。繰り返し伝え合う場面を設けたことで相手に伝わるように姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりと話す姿が増えてきた。これまで1年生と交流活動をしており、5年生の3人は、仲良くなった1年生と生活単元学習で行ったクッキー作りを一緒にやってみたくて意欲をもち、準備に取り組み始めた。

1年生にクッキーの作り方を伝える活動で、写真などの資料を示しながら説明する、相手や目的に応じて筋道を立てて適切な言葉遣いで話す、言葉の抑揚や強弱・間の取り方などに注意して話すなどの力がついたらと児童が実感できることを願い、本単元を設定した。

## 3 児童の実態と単元の目標（下線部：困難さ マーカー：支援）

### （1）コウジさん（5年）

#### 児童の実態【国語「聞くこと・話すこと」、興味・関心等】

- ・自ら話すことは少ないが、特別支援学級では**具体物や写真**を見て友だちや担任にその時の様子や気持ちを話す。
- ・質問をされると、語彙数が少ないために自分の言葉として表現することが少ない。
- ・話し方に困った時に**具体的に話し方を伝える**と安心して話す。
- ・パソコンやタブレットに興味がある。

#### 可能性の芽

- ・具体的に話し方を伝えたり繰り返し練習すれば自分から話そうとする姿が見られるだろう。
- ・タブレットを使うと意欲的に話す活動に取り組みそうだ。

#### 単元の目標 **特別支援学校学習指導要領 小学部3段階**

- ①姿勢や口の形に気をつけてはっきりした言葉で話すことができる【ア（イ）】

この単元では、5年生3名の国語について考えます。

5年生3名だけで国語の授業ができるよう、時間割の調整をしておくことが大切です。

本単元に関する一人一人の実態を把握することが、本単元でつきたい力や単元展開の構想につながります。

可能性の芽をつかむことで、支援につなげることができます。

特別支援学校  
学習指導要領解説  
各教科等 P93～

②クッキーの作り方の手順を、写真を基に考えることができる。

【Aーウ】

③クッキーの作り方を1年生に伝えようと、話す内容や話し方を進んで考えることができる。【Aーオ】

#### 単元における支援とその意図

- ・クッキーの作り方を思い出せるように、**写真を提示**しておく。
- ・**タブレット**を使い、自分の姿を視覚的に確かめるようにする。
- ・**友だちと聞き合う場面**を設け、できるようになったことを認め合えるようにする。

(2) ツトムさん (5年)

#### 児童の実態【国語「聞くこと・話すこと」、興味・関心等】

- ・慣れた友だちとは大きな声で自分の気持ちを話すが、大勢の前や慣れていない人の前で話す時は緊張して声小さくなる。
- ・指示や内容を聞くだけでなく、**文字や絵で目に見えるようにする**と内容が分かり、自分から取り組もうとする。
- ・**自分の伝えたいことを日記や作文にする**ことで自信をもって伝えることができる。

#### 可能性の芽

- ・話すことを文章に書いたり、発表したりしことを友だちに認められると、自信をもって話すことができるようになるだろう。
- ・声の大きさを視覚化することで、自分の声の大きさを意識して話すことができるだろう。

#### 単元の目標 **小学校学習指導要領 国語 1・2年**

①略【(1)イ】②略【A(1)ウ】③略

#### 単元における支援とその意図

- ・安心して練習できるように、発表する内容を考え、**文章に書く**。
- ・**友だちに認めてもらう場を設定**して、話すことに自信をもてるようにする。
- ・**ボイスルーラー**を使って自分や友だちの声の大きさを視覚的に確認できるようにする。

(3) サトルさん (5年)

#### 児童の実態【国語「聞くこと・話すこと」、興味・関心等】

- ・人前で話すことに抵抗感がなく、意欲的に発言できる。
- ・体験したことを時系列に沿って書いたり話したりする。
- ・どんなことを話したり書いたりすればいいかを**具体的に伝える**と自分の知っている言葉を使って書いたり話したりする。
- ・いろいろな先生と関わるのが好きで新しいことに興味をもって取り組むことができる。

児童の実態がどの段階にあたるかを捉え、段階表を基にして具体的な姿で目標を設定します。

- ①知識及び技能
- ②思考力・判断力・表現力等
- ③学びに向かう力・人間性等

小学校学習指導要領  
解説 国語編 P39~

5学年の児童でも、実態により、下学年の目標を設定することがあります。



ボイスルーラー

**可能性の芽**

- ・具体的な話題がはっきりしていると、伝えたいことを考えたり、話したりすることができるだろう。
- ・学習カードにどうなればいいのか具体的な姿が示されていると、自分で考えてめあてを決めることができるだろう。

**単元の目標** 小学校学習指導要領 国語 3・4年

①略【(1)イ】②略【A(1)ウ】③略

小学校学習指導要領  
解説 国語編 P15~

**単元における支援とその意図**

- ・より詳しく説明できるように手順表や写真を提示しておく。
- ・めあてをもって取り組めるように、何について伝えたいか一緒に確認し、学習カードに記入して提示しておく。
- ・具体的な姿のキーワードを学習カードに提示することで自分のめあてを自己決定できるようにする。

**4 単元の展開** 学習活動 ○児童の姿 △支援 ☆評価

	コウジさん	ツトムさん	サトルさん
第1時	一年生としたいことや伝えたいことを考える。		
第2時	分担を決め、自分の担当の部分を思い出して、文章を書く。		
	△手順表や写真で手順を確認する。 △話した言葉を書き留めておく。 ○そうだ。こうやって作ったなあ。	△手順表や写真で気をつけることを確認する。 ○ここは上手にできたなあ。	△手順表で作り方のコツを確認する。 ○こうやればうまくできるね。
第3時	1年生の先生に聞いてきたアドバイスを基に説明原稿を書く。		
	△一年生にもわかる言葉かどうかを一緒に考える。 ○クッキーの作り方がわかるかなあ。 ☆【Aウ】	△使用した道具の名前や接続詞などを用意する。 ○順番や作り方が分かりやすく書けたかな。 ☆【A(1)イ】	△具体的に書くように声がけする。 ○順番や材料、量も詳しく書いた方がいいね。 ☆【A(1)】
第4時	友だちと聞き合って写真や動画を使うか考え、必要な写真や動画を撮影する。		
第5時	○全部写真があった方が分かりやすいと思うな。	○こねるところは動画の方が分かりやすいよ。	○材料を量るところも動画だとやり方が分かりやすい。

実際に使用した手順表や写真を提示することで、作り方を思い出すことができます。

文章を書くことが苦手な児童には、聞き取って書いておくことも大切な支援です。

言葉が出てこない時には具体的な言葉を用意しておき、自分で選べるようにしておきます。

第 6 時	アナウンスのプロの先生に話し方のコツを聞く。		
	△背中をまっすぐにして話すことで声が大きくはっきり聞こえることを確認する。 ○背中がまっすぐになると声ははっきり聞こえるなあ。	△大事な言葉をゆっくり大きな声で話すことが伝わることを確認する。 ○大事な言葉を大きな声で言えるようになるというんだな。	△話す時に間をゆっくり取ることで分かりやすい話し方になることを確認する。 ○ゆっくりはっきり話すと相手に分かりやすくなるんだな。
	自分で作った原稿の読む練習をして、原稿を読む姿を撮影し、友だちと一緒に見合う。(本時案参照)		
第 7 ・ 8 時	画像や写真を入れ、本番のように発表の練習をする。		
	△タブレットを使って姿勢や声の大きさを確かめられるようにする。 ○前より大きな声で話せるようになってきたな。 ☆【ア(イ)】	△ボイスルーラーを使って声の大きさを意識できるようにする。 ○大事な言葉は明かりがたくさんつくようになってきたよ。 ☆【(1)イ】	△目標の姿を明示することで自分の目標を見つけて取り組めるようにする。 ○これで1年生が分かるぞ。 ☆【A(1)イ】
第 11 ~ 14 時	1年生にクッキーの作り方を説明して、一緒にクッキーを作る。		
	○写真があるから分かりやすかった。 ☆【A-オ】	○動画を撮っておいてよかったな。 ☆【A(1)ウ】	○コツも分かってくれたみたいでよかった。 ☆【A(1)ウ】
第 15 時	1年生からの感想を聞き、活動の振り返りをする。		
	△一年生の写真を見せて手紙を読む。 ○緊張したけど大きな声で話せてよかった。また一年生と一緒に何かしたいな。	△一年生からの手紙を渡す。 ○大事な言葉を大きな声で話せてよかった。一年生が喜んでくれてうれしかった。	△一年生の手紙と一年生の先生からの手紙を渡す。 ○アドバイス通りコツを入れて説明できてよかった。一年生にまた何か教えてあげたいな。

見本となる専門家と交流し、具体的な姿で伝えることで、理解しやすくなります。



撮影した動画で確認する児童

自分のめあてを達成できたかどうか確かめられるような支援を考えます。やればできるという成果を得られると、次への活動のステップになります。

## 5 本時案

### (1) 主眼

#### 【全体】

3人の友だちとの発表に慣れ「もっと分かりやすく話すために練習したい」「もっと分かりやすく伝えたい」と願いを持った子どもたちが、分かりやすく伝えるためのポイントを意識しながら自分の話し方を振り返ったり、友だちとアドバイスしあったりすることを通して、より分かりやすく話せた手ごたえを実感することができる。

#### 【個人の目標】

コウジさん：口の形に気をつけて、はっきりした言葉で話すことができる。【ア(イ)】

ツトムさん：一年生に分かるように、ゆっくり大きな声で話すことができる。【A(1)ウ】

サトルさん：一年生に分かりやすく手順を考えながら詳しく話することができる。【A(1)ウ】

### (2) 本時の位置 (15時間中8時間目) 《省略》

### (3) 指導上の留意点

- ・大事な言葉に赤丸をして、ポイントを意識できるようにする。
- ・自分たちで振り返りができるよう、タブレットやボイスルーラーを使って録音するとともに、振り返りの観点をはっきり示した学習カードを用意する。

### (4) 展開 **学習活動** ○児童の姿 △支援 ☆評価

	コウジさん	ツトムさん	サトルさん
導入 10分	<b>1 学習内容を確認し、今日のめあてを確認する。</b>		
	○大きな口を開けて大きな声で話したい。	○1年生にわかりやすく話せるようにがんばりたい。	○大事な言葉に強弱をつけて、ゆっくり間を開けて話したい。
展開 20分	<b>2 タブレットやボイスルーラーを使って個人練習をする。</b>		
	△自分の声の大きさを確認するためにタブレットで録画する。 ○はっきり声が聞こえるかなあ。	△話し方を確認するためにタブレットで録画する。 ○大事な言葉のところでランプがつくようになったぞ。	△何に気をつけたいか学習カードと一緒に確認する。 ○ゆっくり話せているかなあ。
	<b>3 一人ずつ友だちの前で発表し、その様子を撮影する。</b>		
	○緊張するけれどがんばろう。	○今日はぼくが一番にやるよ。	○ビデオを見るのが楽しみだな。

本時において、一人一人のつきたい力をはっきりさせます。

自分のめあてをはっきりもてるように提示するとともに、学習カードも自分のめあてを明確する大切な支援ですので、個に応じて準備しておきます。

意見を言いやすくするために、発表している姿とともにボイスルーラーも録画しておきます。





	<b>4 ビデオを見て友だちの話し方について意見を言い合う。</b>		
	<p>○ツトムさんは、前よりも声がはっきり大きく聞こえたよ。</p> <p>○サトルさんに、前より声が大きいと言ってもらえてよかった。</p> <p>○先生に姿勢もよくなったと言われて嬉しいな。</p> <p>☆口の形に気を付けてははっきりした言葉で話すことができたか。</p>	<p>○サトルさんは、大事な言葉がゆっくりではっきり聞こえた。</p> <p>○コウジさんに、前よりはっきりしていてよかったと言ってもらえて嬉しい。</p> <p>☆ゆっくり大きな声で話すことができたか。</p>	<p>○コウジさんは、前の時間よりも声が大きく聞きやすかったよ。</p> <p>○ツトムさんに、前の時間よりゆっくりははっきり聞こえたと言ってもらえて嬉しいな。</p> <p>☆手順を考えながら詳しく話をすることができたか。</p>
まとめ 15分	<b>5 今日がんばったことや次にがんばりたいことを確認する。</b>		
	<p>○一年生の前でも大きな声で話せそう。今度は写真も使って練習したいな。</p>	<p>○一年生に分かりやすく大きな声で話せそう。動画も使うともっと分かりやすくなりそうだね。</p>	<p>○説明が分かりやすくなってきてよかった。一年生も喜んで作ってくれるといいな。</p>



教師もともに話し合いに参加し、子どもが気づかない良い姿を伝えることも大事です。



よくなってきたことが実感できるように前時の学習カードを基に振り返りができるように、用意しておきます。

**【事例を振り返って】**

知的障がいのある子どもたちは、定着に時間がかかったり難しかったりしますが、繰り返し経験したり成果を褒められたりすることによって、学習したことを身につけていくことができます。また、子どもたちが苦手な学習でも、安心できる小集団である特別支援学級だからこそ実態に沿った単元設定をして、やればできる経験を積めるような授業づくりをしていくことが必要です。まずは安心できる小さな集団から始め、次に仲良くなった少し大きな集団へとスモールステップしながら自信をつけていくことも大事です。

本単元では、自分たちの生活の中の「やりたい」と願っている「クッキー作り」を基に単元を構想しました。そして、子どもたちの発達段階に応じた単元の目標を決め出し、実態に沿った可能性の芽を大事にした支援を行うことにより、子どもたちは意欲的に活動に取り組み、国語の「話すこと・聞くこと」を学んでいくことができました。

# 単元の系統性を踏まえ、1時間に「わたり」と「ずらし」を入れた指導の工夫（算数）

## 1 単元名「分数」

## 2 単元設定の理由

本学級には、2年生1名、3年生1名、合計2名の生徒が在籍している。2人とも集団の中に入ることに不安を感じていて、興味関心のある内容以外は、ほぼ特別支援学級で授業を受けている。算数の授業では、各学年の教科書等を使用し、準じた内容を行っている。学年ごと学習内容が違うため、個人追究はできても友だちの考えを聞いて自分の考えを広げ深めていく共同追究の場が設けにくい。

本単元「分数」は、2年生で初めて扱う内容のため1年生での学習状況の影響が少ない、学んだことを日常生活に使いやすい等のよさがある。2年生と3年生では学習する時期は異なっているが、一緒に学習することで、3年生にとっては既習の学習を思い出しやすく、2年生にとっては学習内容の系統性が見通せるため、児童同士が関わり合いながら課題を解決していくことができるのではないかと考え、本単元を設定した。

## 3 児童の実態（下線部：困難さの背景、**マーカー**：支援）

### (1) ハルさん（2年）

#### 可能性の芽（教育課題個人表Aより抜粋）

- ・制作や行事など興味のある活動は、集団ルールを守ろうとする。

#### 教育課題

- ・特別支援学級で学習の楽しさやできる喜びを感じ、学習への自信をつけていく。
- ・友だちと楽しく関わる中で、集団活動に参加しようとするが増える。【自立活動 2-（1） 3-（3）（4）】

#### 算数の実態・支援（個別の指導計画より抜粋 ○：実態 △支援）

○新しい単元や分からないと感じた時はイライラして学習に取りかかろうとしないが、**友だちが学習している姿を見たり、具体物の操作があったりする**と、自分から取り組もうとすることがある。

「わたり」と「ずらし」のイメージ図  
(→は教師の動き)

2年	3年
課題把握	一般化復習
追究	課題把握
一般化まとめ	追究
一般化練習	一般化まとめ

教師が児童を「わたり」ながら必要な支援を行えるように、児童が一人で学習する場面と、教師と一緒に学習する場面を意図的に「ずらし」て設定します。

「特別支援学級  
ガイドライン」  
P30

2年生は3年生の学習内容を見聞きすることで、今学んでいる簡単な分数を知る学習が、次の3学年で学ぶ分数の意味を考える学習につながることを知ります。

「特別支援学校  
幼稚部教育要領  
小学部・中学部  
学習指導要領」  
第7章 自立活動  
P199～

△安心して問題に取り組めるように友だちの姿を見る、具体物を操作する、答えの選択肢を用意するなどの場面を設ける。④⑥⑧⑨

数 は、本時案とつながる支援です。

#### 本単元における支援とその意図

- ・分数を具体的にイメージできるように、**工作や調理等興味のある題材**を取り入れていく。
- ・興味が持続するように、**操作活動**を多く取り入れていく。③⑤
- ・分数への自信や次年次以降の学習のつながりがもてるように、3学年の**学習内容を見聞きする機会**を設ける。⑥

#### (2) ダイキさん (3年)

##### 可能性の芽 (教育課題個人表 A より抜粋)

- ・特別支援学級の**友だちが活動している姿**を見て、運動や工作等、躊躇していた活動にも取り組もうとする。

##### 教育課題

- ・実体験を通して知識を経験と照らし合わせ、教科学習に興味をもって取り組む。
- ・少人数の中で体験をしたり、集団とのつながりを意識したりしながら学ぶことで、人との関わりの楽しさを感じられるようにする。【自立活動 2-(1) 3-(2)(3)】

##### 算数の実態・支援 (個別の指導計画より抜粋 ○: 実態 △支援)

- 理解力が高く問題を短時間で解くことはできるが、いろいろな考え方を聞いたり実生活に結び付けて考えたりする経験が少ない。問題を解いた後、教師がどうしてそうなったか詳細に質問すると、解き方を説明する。
- 文字を書くことに時間がかかるため、ノートに計算式等を書くことを嫌がる。
- △体験を通じた学習ができるように、**具体物を操作したり日常の事象を観察したりする**学習は、特別支援学級の友だちと一緒にやる場を設ける。④
- △いくつか考え方が分かるように、**本児の考えと異なる考え方を提示してやり取りする場**を設ける。また、プリントを用意したり黒板を使ったりする。⑫⑬⑭⑮

#### 本単元における支援とその意図

- ・分数に親しみがもてるように、**料理のレシピや楽譜を見たり雑学を調べたりする場**を設ける。
- ・学んだことが活用できるように、**実際に食物を切り分ける機会**を設ける。

#### 4 単元の目標・単元の展開

(1) 2年 (全3時間 第3時以降は省略)

◎  $1/2$ ,  $1/3$  など簡単な分数について知ること。

学習場面	学習支援	ねらい	時
いろいろな形の折り紙や食物を使って半分の大きさをつくる場面	分数量の学習の動機づけに、紙を半分に折ったり切ったりして、いろんな $1/2$ をつくる。	いろいろな形の半分の大きさをつくり、その表し方を調べようとしている。① 折り紙や食物などを使い、もとにする大きさの半分の大きさをつくることができる。②	1
テープを折って半分の大きさをつくり、表し方を調べる場面	$1/2$ の定義を知るために、何の半分か、テープを折って大きさを調べる。	$1/2$ の意味の表し方を知る。①②	2 本時
第3時, 略			

評価の記号

- ①: 知識及び技能
- ②: 思考力・判断力・表現力等
- ③: 学びに向かう力・人間性等

興味をもって取り組めるように、ハルさんが好きで調理の機会も多いホットケーキ(きれいな円が必要なため、今回は市販のもの)を半分の大きさにします。



(2) 3年 (全10時間 第3時以降は省略)

◎分数の意味や表し方について理解できるようにする。

◎等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに、分数を用いること。また、分数の表し方について知ること。

◎分数は、単位分数のいくつ分かで表せることを知ること。

◎簡単な場合について、分数の加法及び減法の意味について理解し、計算の仕方を考えること。

学習場面	学習活動	ねらい	時
日常生活で使われている分数を考える場面	分数量の学習の動機づけに、料理のレシピや楽譜を見たり、カステラを切り分けたりする。	身近なものから分数を見つけたり、分けたりして分数で表現しようとしている。③	1

3学年では長さについて扱うため、円形ではないものにします。



はしたの大きさの表し方を考える場面	1 mのテープを折って測り、はしたの長さの表し方を考える。	分割による「1/〇」(単位分数)の表し方について理解する。①	
1 mのテープを3等分した長さの表し方を考える場面	1/3の長さのテープのいくつ分かを考える。	単位分数(1/3)のいくつ分という分数の意味と表し方を知る。①②	2 本 時
第3時, 略			

## 5 本時案

### (1) 主眼

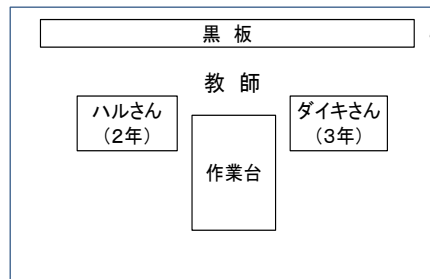
【2学年】テープを折って半分の大きさをつくる場面で、長さの違うテープを数本折ったり、もとの大きさの1/2を探してその理由を説明したりすることを通して、1/2の意味と、表し方が分かる。

【3学年】1 mのテープを3等分した長さを調べる場面で、1個分の長さの表し方を考えることを通して、単位分数のいくつ分という分数の意味と表し方を知る。

### (2) 本時の位置 (単元展開参照)

### (3) 指導上の留意点

- 学習活動のしやすさや気持ちの切り替えがしやすいように、作業台を2人の机の間に置く。



「道具の操作の困難さ」や、「注意の集中を継続することが苦手であること」への支援です。

小学校学習指導要領  
解説 算数編 P37  
(5) 障害のある児童  
への指導

### (4) 展開 (数：学習活動 ○：予想される児童の反応)

△一〇：教師の支援 ☆：評価 ■：直接指導

ハルさん (2年)	段階	ダイキさん (3年)
△話に集中できるように、黒板に学習の手順を書き、机上に何も無い状態で話を する。□	課題把握 一般化・復習	△やる事が分かるように、黒板に学習の手順を書き、机上に復習問題のプリントを置いておく。□

「直接指導」とは、教師が子どもと直接かわりながら進める指導のこと、その間他方の学年が子どもだけで学習を進めることを「間接指導」と言います。



<p>1 今日の問題を知る。</p> <p><b>【学習問題】</b> テープを折って、半分の大きさを作ろう。</p> <p>○前にやったから、半分にできるよ。</p> <p><b>【学習課題】</b> いろいろな長さのテープの半分を調べてみよう。</p>	<p>課題把握</p>	<p>1 復習問題を解く。</p> <p>○問題を解き始めるだろう。 △すぐ終わったときのために、教科書の発展問題の他に多めの問題を記入したプリントを用意しておく。 ㊲</p> <p>△一人で答え合わせまでできるように、大机に答えを用意しておく。 ㊳</p>
<p>2 半分の大きさを作る。</p> <p>△テープを操作しやすいように、作業台に移動する。 ㊲</p> <p>○端をぴったり合わせればいいんだよね。</p> <p>△一人でも繰り返し操作できるように、様々な長さのテープを用意しておく。 ㊳</p> <p>○先生、これでいいかな。</p> <p>△自信をもって作業できるように、確認してきた1度目は顔を見て応える。 ㊴</p>		<p>追究</p>
<p>3 半分の大きさのテープから元の大きさのテープを探し、理由を話す。</p> <p>△操作できるように、3つの長さの半分のテープを用意する。 ㊵</p> <p>△考えに自信をつけるために、ダイキさんと相談する場を設ける。 ㊶</p> <p>○折ったテープと同じ大きさを探せばよさそうだ。</p> <p>☆元の長さを二つに等分した大きさを選んだり、1 / 2と表したりすることができたか。</p>	<p>追究</p>	<p>3 1 mのテープを3等分し、1個分の長さの表し方を考える。</p> <p>○やらなくても分かるよ。 1 / 3だね。</p> <p>△作業意欲をもつために作業机へ移動し、1 / 3の前にハルさんと同じ1 / 2を作る。 ㊶</p> <p>△操作しやすいように、ロールつ箋紙を使う。 ㊷</p>

共通の活動を用意することは、安心感や作業意欲をもつだけでなく、やりとりする中で、「3人間関係の形成」や「6コミュニケーション」等の自立活動の内容についても学べる機会になります。

特別支援学校教育要領  
解説 自立活動編  
P68. P92



テープが長いと操作しにくいので、ロール付箋紙を作業台に貼りつくと、操作しやすいです。

<p>4 教科書を見て、<math>1/2</math>の書き方を知る。 △教科書に集中しやすいように自分の机に移動する。 ㉗ △書きやすいように、なぞり書きのプリントを用意したり、黒板に書くようにしたりする。㉘ ○数字は下から書くんだね。</p>	追	追	<p>4 <math>1/3</math> mのテープを <math>2/3</math> mのテープの上に貼り、<math>2/3</math> mを説明する。 ○<math>1/3</math>が2個分だから、<math>2/3</math>だよ。 △2年生と異なり長さを表すことに気づくように、元の長さを質問する。㉙ ○<math>1/3</math> mの2個分だったから、<math>2/3</math> mだ。 ☆<math>1/3</math> mのいくつ分とみて言葉や数字で表すことができたか。</p>
<p>5 練習問題を解く。 △安心して取り組めるように、口頭で答えを確認してから書くようにする。㉚</p>	一	般	<p>5 教科書を見て、分数の表し方や用語を確認する。</p>
<p>6 まとめと振り返りをする。 △負担感を減らすために、口頭で振り返るようにする。㉛</p>	一	般	<p>6 まとめと振り返り △書く抵抗感を減らすために、子どもが黒板に書いて振り返るようにする。㉜</p>

### 《板書計画》

<p>2年生 ①半分の大きさをたくさん作る。 ②元の長さを探す。 ③分数を書く。 ④問題を解く。 ⑤終わり</p> <p><math>\frac{1}{2}</math> 二分の一</p>	<p>児童書き込み用スペース</p> 	<p>3年生 ①復習問題を解く。 ②テープを分割する。 ③長さの説明をする。 ④教科書を見る。 ⑤終わり</p> <p>まとめ <math>\frac{2}{3}</math> mは<math>\frac{1}{3}</math> mの2こ</p>
--	--	--

詳しく書くと学習への抵抗が大きくなるため、黒板にやる事を端的に書き、余白は児童がノート代わりに使うように工夫します。

### 【事例を振り返って】

自閉症・情緒障害特別支援学級の教科指導では自立活動の視点を持ち、個々の可能性の芽や教育課題と関連付けて学習活動や支援を考えることが大切です。障がい特性から「小集団の中で人を意識したり、やり取りしたりできる場を設定する」「児童が自分に合った学習方法を考えて、できる・分かる手立てを学習場面で用意する」「教科で学んだことを生活とつなげて考えたり、使ったりする学習場面を設定する」「安定した気もちで学習に取り組めるように環境調整の手立てを考える」等を意識した授業づくりは、教科学習を通して課題解決に向かおうとする力を培っていくことができます。

本事例は1時間に「わたり」と「ずらし」を入れ、さらに系統性のある単元を同じ時間に指導したことで、教師が教えるだけでなく、共通の話題を話し合う場面も設けられ、異学年でも友だちの考えに触れながら自分の考えを確かにしていく学習ができます。

# 単元展開に「わたり」を入れた指導の工夫 (外国語)

- 1 単元名 1 学年 Unit 4 “Let’ s ~” (5 時間)「話すこと [やり取り]」  
 2 学年 Let’ s Read 1 “Old story” (5 時間)「読むこと」  
 3 学年 Presentation 2 “School trip” (6 時間)「話すこと [発表]」

## 2 単元設定の理由

本学級には、1 学年 1 名、2 学年 1 名、3 学年 3 名、計 5 名の生徒が在籍している。個別の指導計画を基に原学級で学ぶ教科（体育や美術等）と、特別支援学級で学ぶ教科（数学や国語等）を決め出して指導をしている。特別支援学級で教科担任が 1 人で複数学年の生徒を指導できるよう、全員が同じ教科になるように時間割を工夫したり、教室環境を整えたりすることで、一人一人が落ち着いて学習できている。また、学年を越えて関わる場面を設けることで互いのよさを感じながら学ぶことができるようになってきている。

外国語の授業では、学年に準じた教科書で進度も合わせて学習を行っている。本格的に英語の学習を始めた 1 学年のハルキさんは、英語に興味をもって進んで読んだり書いたりしている。2 学年のヒビキさんは英語に苦手意識はあるが、教師とやり取りを楽しみながら根気強く取り組んでいる。3 学年のスグルさん、タクヤさん、シンジさんは、学力に差があるものの、ともに学ぶ楽しさを感じながら、それぞれ目標とする高校進学に向けて準備を進めている。


本単元では、それぞれの学年の進度に合わせた単元設定であり、「読むこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」と領域も異なっている。また、生徒の特性や学力に応じた支援をする必要がある。そこで、単元や授業の展開の中に個人追究の時間、教師とともに学習する時間、友だちと追究する時間を位置づけるとともに、生徒の実態に応じた指導を行うことで、外国語の資質・能力を育む授業が行えると考えた。また先生や友だちと関わりながら学ぶことで、外国語でコミュニケーションをとる楽しさや友だちと学ぶ喜びを感じてほしいと願い、本単元を設定した。

## 3 単元の目標（本単元で育成する資質・能力）

### 【1 学年】


- ①省略【2（1）ア(エ), 2（1）エ(ア) b 命令文】
- ②省略【(4) 話すこと [やりとり] (ア)】
- ③省略

複数の学年の生徒が在籍している特別支援学級では、1 時間の授業で同じ教科が指導できるように、時間割を工夫することが大切です。そのためには年度初めの時間割やスライドを作成するときに、特別支援学級から作成すると、教科担任制でも指導がしやすくなります。

 **特別支援学級  
ガイドライン  
P28. 29**

単元の目標は、それぞれの学年に準じて設定します。生徒の具体の姿で設定することで、単元展開や必要な支援が明確になります。

- ①知識・技能
- ②思考力・判断力・表現力等
- ③学びに向かう力・人間性等

 **【1 学年】  
中学校学習指導要領解説  
外国語編 P31. 39. 61**

## 【2 学年】

- ①省略【2（1）エ(ウ) a 代名詞】
- ②省略【2（3）ウ読むこと（ア）】
- ③省略

## 【3 学年】

- ①省略【2（1）エ】  
小学校学習指導要領第2章第10節外国語第2の2の（1）のエ
- ②省略【2（4）話すこと〔発表〕（イ）】
- ③省略



【2学年】  
中学校学習指導要領解説  
外国語編 P44, 58



【3学年】  
中学校学習指導要領解説  
外国語編 P54, 64

## 4 生徒の実態に応じた支援（下線部：困難さ マーカー：支援）

### ①ハルキさん（1年生）

#### 【実態】

- ・ ASDの診断を受けており、自分のペースで学習に取り組む。
- ・ 学習の定着に時間がかかるが、じっくり取り組むと理解できる。
- ・ 自分の考えを伝えたり、書いたりすることに時間がかかる。



#### 【困難さの背景】

- ・ 単語や文章を読むだけでは、意味や内容を理解することが難しい。
- ・ 自分の考えを伝えるための言葉や文章を思い出したり、文章を書いたりすることに時間がかかる。



#### 【本单元における支援とその意図】

- 単語や文章の意味や内容がイメージできるように、物や場面の絵を提示しながら会話ができるようにする。
- 自分の考えを伝えるために使う単語やフレーズの例を文字で提示し、伝えたり書いたりする時間を確保する。

生徒の【実態】から、外国語を学習する際の【困難さの背景】を探ることで、必要な支援を考えることにつながります。

必要な支援は、単元を通して行うことで、生徒の主体的な学びの姿につながります。

### ②ヒビキさん（2 学年）

#### 【実態】

- ・ ADHD傾向があり、集中して取り組むことが苦手。
- ・ 自分から話すことは少ないが、聞かれたことや自分の興味のあることは素直に話したり、書いたりすることができる。
- ・ パソコンやCDラジカセなど、機械を操作することが好き。



#### 【困難さの背景】

- ・ 周囲の音や会話が気になり、集中が途切れることがある。
- ・ 自分から友だちにかかわる経験が少ないため、適切なかかわり方や会話の仕方が分からずに、トラブルになることがある。



【本单元における支援とその意図】

- 周囲の音や会話などが気にならないで集中して取り組めるように、CDラジカセをヘッドフォンで聞く、視界に友だちが入らないように座席の配慮をする。
- 会話の仕方を学べるように、教師や友だちと繰り返し学んだフレーズを使う場面を設ける。

③シンジさん（3年生）

【実態】

- ・自分の好きなことや経験したことなどを絵や写真などを基にして自分から話をする事が多く、学習に向かえないことがある。
- ・整理整頓が苦手で、授業中は机上のものをいじっている。
- ・板書をノートに書く、プリントにまとめることを嫌がる。



【困難さの背景】

- ・何をどこに書くのか注意して見たり、聞いたりすることが苦手なため、プリント学習や板書を写したりすることが難しい。
- ・言葉だけの指示で理解したり、やり取りしたりすることが苦手なので、絵や写真を基に話をする事が多い。



【本单元における支援とその意図】

- 書いたり学んだりすることのポイントを明確になるように、個人用のホワイトボードを用意し、机の上において文字で示すようにする。
- 自分の考えを具体的に伝えられるように、絵や写真などの資料を用意して、使用しながら英語を使ってやり取りできるようにする。

5 単元展開の概要【(●)は単元の時数, ○生徒の姿, △支援

■ : 教師が重点的にかかわる時間】

日	1 学年	2 学年	3 学年
1	<p>①オリエンテーション</p> <p>教師の範読を聞き、本単元の見通しをもつ。</p> <p>LG: やりたいことを友だちに提案しよう。</p>	<p>①オリエンテーション</p> <p>教師の範読を聞き、本単元の見通しをもつ。</p> <p>LG: 英語で日本の昔話を読もう。</p>	<p>【前単元】まとめ小テスト</p>

外国語の授業では単元導入時にLesson Goal (LG)を設定することで、単元で学習する内容が分かり、見通しをもって学習に取り組むことができます。そのため、導入時に重点的に教師がかかわられるようにします。



2	<p>②③</p> <p>○教科書の絵を見ながら教師の範読を聞く,音読する,ノートに書くなどしながら,やり取りする内容を捉える。</p> <p>△教科書の絵を拡大し,机上に置く。</p> <p>○役割分担をして,提案したり,答えたりしてやり取りをする。</p> <p>△役割が分かる学習カードを用意する。</p>	<p>②③④</p> <p>○場面ごとCDを聞く,音読する,分からない語句を調べるなどして,話の内容を捉える。</p> <p>△範読を録音したCDを用意しておく。</p>	<p>①オリエンテーション</p> <p>○修学旅行の写真を見ながら教師の演示を聞き,本単元の見通しをもつ。</p> <p>LG:自分の修学旅行の思い出を,英語を使って,A L Tや友だちに発表しよう。</p>
3	<p>④</p> <p>○英語を使って提案したり,相手の提案に英語で答えたりする。</p>	<p>○本文の叙述に基づき,教師の質問に答える。</p> <p>△授業の最後に教師とやり取りする場面を設ける。</p>	<p>②</p> <p>○紹介文に使われる語彙や文の理解と練習を行う。</p> <p>△分からない語句を友だちと調べたり,音読したりする。</p>
4	<p>⑤まとめ</p> <p>○小テスト</p>	<p>⑤</p> <p>○全文を通して,心に残った場面について教師とやり取りする。</p> <p>△教師や友だちの質問に答えたり,質問をしたりする場面を設ける。</p>	<p>③④⑤</p> <p>○発表に必要な原稿を作成する。</p> <p>△修学旅行のしおりや写真などを使って,伝えたいことを学習カードに整理する。</p>
5	<p>⑥次の単元の導入</p>	<p>⑥小テスト,まとめ</p>	

単元配列を「ずらす」だけではなく,1時間の授業の中にも「ずらし」を位置づけることにより,教師が生徒一人一人に支援をする時間を確保することができます。



「わたり」と「ずらし」については,本書P86~

単元展開に友だちや先生と関わる時間を位置づけることが大切です。特別な支援が必要な生徒が安心して過ごせる特別支援学級や人間関係の中で,外国語を使ったやり取りを学んだり,自立活動の指導としたりする活動として必要だからです。

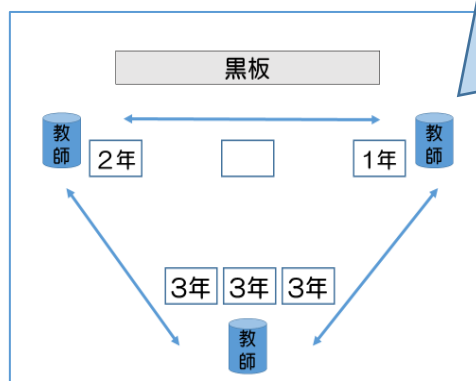
7	○次の単元の導入	⑥修学旅行の思い出をスピーチする。 △スピーチを聞き合い、英語を使って質問したり、質問に答えたりする。
---	----------	--

生徒が集中して学習に取り組み、一人で進められるように状況を整えたり、1時間の授業に位置づけていたりすることで、教師が個別支援できる時間を確保します。(例)

- ・必要なものを配っておく
- ・流れをパターン化したり提示したりしておく
- ・CDやICT機器の活用
- ・ミニテスト等の復習
- ・既習事項の掲示

## 6 指導上の留意点

- ・座席を右図のように配置して、生徒が集中して取り組めるように配慮するとともに、教師が全体の様子を把握できるよう工夫する。
- ・既習事項を教室内に掲示して、確認できるようにしておく。



## 7 本時案

### (1) 主眼

- 【1学年】(略)
- 【2学年】(略)
- 【3学年】(略)

### (2) 本時の位置

- 【1学年】(第3時)    【2学年】(第2時)    【3学年】(第1時)

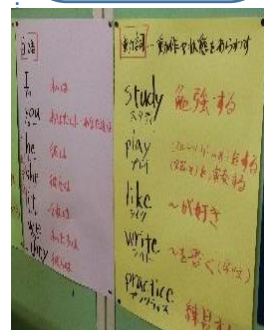
### (3) 指導上の留意点

- ・見通しをもって取り組めるように、授業の最初に本時の流れを確認し、必要な教材はあらかじめ配布しておく。
- ・一人一人に個人用ホワイトボードを用意しておき、個別支援したことを文字で残しておき、自分で確認できるようにする。

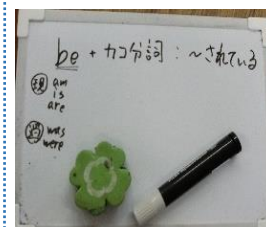
### (4) 展開

⑥学習活動    ○予想される生徒の反応    △教師の支援    ◇直接支援

	1 学年	2 学年	3 学年
導入	1 学習内容を確認する。 ◇生徒とやり取りしてTGを設定し、学習の流れを確認する。	1 学習内容を確認する。 △あらかじめミニテストやプリントを配布し、本時の流れを板書に掲示しておく。	1 準備をする △本時必要なもの(修学旅行ファイル、教科書等)を掲示しておく。 ○座席を移動し、準備する。



既習事項の教室掲示



個人用ホワイトボード

追 究	<p>T G :教科書の例文を使って,先生に提案してみよう。</p>	<p>○板書の流れに沿って,自ら学習に取り組む。</p>	
	<p>② C D を聞きながら,音読する。 ○ C D の範読を聞きながら音読をするだろう。 △決められた回数音読ができるように,教科書に数字を書きながら音読するように伝えておく。</p>	<p>② 既習単語のミニテストを行う。 ○ 答え合わせまで一人でできるだろう。 △ 答えは教卓の上に置いておき,できたら取りに行くように声をかけておく。</p>	<p>② L G を設定する。 ◇教科書を範読し,修学旅行の思い出について発表することを提案する。</p>
	<p>③ 教科書の英語表現と和訳をワークシートに書く。 ○ 英文を丁寧にノートに視写し,教科書の絵や既習単語からおおよそ和訳できるだろう。</p>	<p>③ 教師の範読を聞く。 ◇ 第2場面を範読し, T G を設定する。</p>	<p>L G : 修学旅行の思い出を,英語を使って A L T や友だちに発表しよう。</p> <p>③ 修学旅行ファイルを読みかえし,心に残っていることや伝えたいことを考える。 ○ 3人でファイルを見ながら,どこに行ったか,何をしたのか思い出すだろう。</p>
終 末	【以下,略】		

外国語の授業は Today' s Goal (TG) や Today' s Pint (TP) を設定することで,生徒が見通しをもって追究できるように工夫します。

教師が生徒を「わたり」ながら必要な支援を行えるように,1時間の授業の中に生徒が1人で学習する場面と,教師と一緒に学習する場面を意図的に「ずらし」て設定します。

1時間の授業における「わたり」と「ずらし」について 本書P86~

【事例を振り返って】

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍している生徒は,人と関わることに困難さがあったり,初めての活動へ不安感があったりして,自らコミュニケーションをとったり,学習に取り組んだりすることが難しいことがあります。しかし,少人数で安心できる特別支援学級だからこそ,主体的に外国語を学んだり,先生や友だち, A L T と外国語を伝えあったりすることを目指すことができます。

この事例では,困難さから導き出した支援を継続することで,生徒は見通しをもって自ら学習に取り組む姿が見られました。また単元展開に「わたり」と「ずらし」を位置づけることで,外国語の学習で大切な言語活動や,個別支援を位置づけることができました。生徒の実態や学習内容に応じた指導を充実させるには,1時間の授業だけではなく,単元にも「わたり」と「ずらし」を位置づけることが必要です。

## 多様な生徒が、共通のテーマで主体的に取り組む学習 (生活単元学習)

### 1 単元名 「3Aの手作りカレンダーを作ろう！」

ーカレンダーを作って、友だちや先生、お世話になった人にプレゼントしようー

### 2 単元設定の理由

中学部3年A組は生徒5名と担任2名のクラス。毎年この時期にカレンダー作りを行い、昨年は、中学部の他学年や職員室、校長室にプレゼントした。ある日の休み時間、「ミチコさん(2年生の友だち)が、Aのカレンダー楽しみ』って言ってたよ。」と言うハルカさん。教師が、教室に掲示してあるカレンダーを指さして「去年喜んでくれたよね」と言うと、それを聞いていたカナタさんは、うなずいて手をぐるぐる回して絵を描く動作をした。

翌日教師が、昨年の活動場面の写真と実物のカレンダーを提示すると、ミライさんは、自分が教頭先生に手渡している写真を笑顔で指差し、ノゾミさんは、自分が制作したページを広げて「頑張ったんだよ」と今年から担任になったヒロカ先生に伝えた。「今年も作って、プレゼントしようよ」とハルカさんが提案すると、「やろう」という声があがった。「ぼく、マキさん(蕎麦作りでお世話になった近所の方)にもあげたい」とつぶやくユウキさんに、ミライさんはグーサインを出した。

教師が、今年の学級活動の写真、様々なカレンダー見本、制作用の材料を用意すると、ハルカさんは写真カレンダーに興味を示し、「(個別学習でやった)デジカメで作れそう」と言う。タンポで色をつける教師の姿を見たカナタさんは、同じように色をつけ、にこにこする。ノゾミさんは、簡易印刷機の使い方をヒロカ先生に質問して試し刷りめる。修学旅行で乗った新幹線の写真を見つけ、クレパスで描き始めるミライさんに、ハルカさんは「それ5月(修学旅行に行った月)のカレンダーにしたら」と言った。教師が、パソコンでカレンダーの数字を作る作業があることを伝えると、「ぼく、やりたいです」とユウキさんが手を挙げた。

カレンダー作りは、これまでの経験から見通しが持ちやすく、昨年度、プレゼントして身近な人に喜んでもらった経験は、よりよい物を作ろうと、新たな制作方法やより複雑な工程に挑戦する活動意欲につながる事が期待できる。繰り返し作る中で、楽しみながら工夫や上達を実感し達成感を味わえるだろう。また、出来上がったカレンダーをプレゼントする活動は人との関わりの広がりや深まりにつながると思う。

こうして、「手作りカレンダーを作ってプレゼントをする活動を通して、身近な友だちや教師に喜んでもらいたい」というめあてが子どもたちに据わると考え、本単元を設定した。

クラス全体の学習テーマを示す。

#### 【学習の発端】

事前に把握した実態を基に、児童生徒のその時期の興味・関心を捉え、学習のテーマになりそうなきっかけを記述する。

#### 【興味関心の広がり】

##### 醸成活動①

集団として共通の目的意識が芽生えていく様子を記述する。

#### 【意欲の高まりと活動の始まり】

##### 醸成活動②

教師の支援と、児童生徒が活動に見通しを持ち、主体的に動き始める様子を記述する。

#### 【本単元の価値】

教師が捉えた、本単元の教育的意義と、主体的な活動の見通しについて記述する。

単元設定の理由、きっかけから成立までの課程を児童生徒の姿や言葉等で記述します。計画段階では想像して書くことになりませんが、箇条書きでもよいので、事前に把握した児童生徒の実態から、児童生徒が自然な流れで単元に入っていきイメージを可能な限り想像することが重要です。単元が成立した段階で、改めて醸成の段階で実際にあった児童生徒の姿や言葉で修正すると、児童生徒の意欲の高まりや本単元を設定した理由を明確に表現することができます。(上記2は、単元成立時に制作したものです。)



### 3 単元の目標

#### (1) 全体の目標

- ・クラスの友だちや教師と協力して3Aカレンダーを作る。
- ・自分のやりたい方法や得意な方法で、材料や道具を使い、カレンダーの絵を描く、数字を入力する、製本する等する。
- ・自分の気持ちを手紙に書く、直接言葉で伝える、手渡す等、自分なりの方法でカレンダーを中学部の友だちや校内の先生方、お世話になった外部の方にプレゼントする。

テーマに寄せたクラス全体の願いを記述する。

#### (2) 個人の目標 (※学級全員の個人の目標を記述する)

##### 【カナタさん】

- ・画用紙にクレヨンで丸をかく、タンポやスポンジで色をつける、周りに丸いシール貼る等してカレンダーの絵を描く。
- ・プレゼントしたい人の写真を指で差して教師に伝える。完成したカレンダーを相手に直接手渡す。

テーマに寄せた個人の願いを記述する。

##### 【ハルカさん】

- ・個別学習で行っているデジカメを使った写真撮影や写真データの加工技術をいかして、今年のクラス活動や自分で撮った写真データを加工してカレンダーを制作する。
- ・プレゼントする際は、自分や友だちがどんな気持ちでどのようにカレンダーを作ったのか等を書いた手紙をパソコンで作って相手に手渡す。

(以下 3名分記述)

単元の目標は、テーマに対して、児童生徒が、(クラス全体・個人として)どのような活動をするのか(したいのか)を授業者が推察して記述します。児童生徒の活動が主体的なものとなるためには、児童生徒の「思いや願い」に沿った目標であることが大切です。授業者は、個別の指導計画の制作や日々の生活における関わりを通して、児童生徒の姿の背景にある「思いや願い」の理解に努めましょう。



### 4 指導上の留意点

- ・各自が、得意なことや好きなことをいかして制作ができそうなカレンダーの見本を提示したり、制作方法の演示をしたりする。
- ・制作するにあたり、刃物などを使用する場合は、教師が声をかけて安全に十分な配慮をする。

主体的な活動につながる留意事項や危険防止、衛生上の注意事項等について記述する。



5 単元の展開（40 時間）※ 醸成を単元の大要に示した記述例

児童生徒の目標（全体・個別）が実現するような展開を考えましょう。  
 実際に授業を行っていく中で、児童生徒の姿や思いに応じて臨機応変に変更しましょう。

段階	活動内容…◇	生徒の思い…「 」 教師の支援…
醸成の段階	◇去年のカレンダー作りを振り返る。 ◇見本や教師の演示を参考に自分のやってみよう制作方法を試す。	「がんばって作って楽しかったな」 「〇〇さんに喜んでもらってうれしかった」 ・昨年度の活動の写真、カレンダー見本、制作用の材料や道具を提示する。 「おもしろそう。今年もやろうよ」 「わたしは、この方法がいいな」 「今年は〇〇さんにもプレゼントしたい」
<b>3 Aの手作りカレンダーを作ろう！</b> -カレンダーを作って、友だちや先生、お世話になった人にプレゼントしよう-		
単元の前半～単元の中盤	◇誰にプレゼントするか相談する。 ◇各自得意な方法で繰り返しカレンダー作りに取り組む。 ◇新たな制作手法や手順の追加に挑戦する。(実態に合わせて対応) <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">完 成</div>	・関わりのある先生方や学習でお世話になった外部の方の写真を提示する。 「〇〇先生によろこんでほしいな」 ・一人一人の制作スペースを用意し、各自の実態に応じた「できる状況づくり」を行う。 ・プレゼントする相手の写真や相手からのメッセージ（「楽しみです」等）、各自の目標枚数や完成枚数等が視覚的に確認できる掲示を用意する。 「〇枚できたぞ。今日は目標たっせいだ」 ・完成した作品を教室内に飾る。 「〇〇さんすごい。わたしもがんばる」 ・新たな制作手法による作品を紹介し、試しの活動をする機会を設定する。 「この方法楽しい。やってみよう」 「やった、かんせいだ。プレゼントに行こう」
単元の終末	◇プレゼントする相手を確認する。 ◇出来上がったカレンダーを届ける。 ◇活動を振り返る。	・生徒の希望を確認しながら、誰に届けるかを視覚的に表示した計画表を用意する。 ・届ける相手の写真カードを提示する。 ・渡し方の演示をする。 「ドキドキする。喜んでくれるかな」 「手紙もつけて渡したい」 ・相手からもらったお礼の手紙やメッセージビデオ、自分たちの活動ビデオ等見ながら、活動を振り返る。 「〇〇さんが『ありがとう』って言っていたよ。うれしいな。」 「みんながんばったよね。楽しかったな。」

単元の成立に向けて、児童生徒の活動意欲が高まり、めあてと見通しが確かになっていく時期

単元開始後、児童生徒の思いがさらに高まり、達成感や成就感を味わう姿をイメージしながら、展開や支援を考える。

児童生徒が、やりたい活動を、繰り返してできる場と時間を保障する。

友だちと協力して解決できる場を設ける。

自分がかんばったことや、友だちのかんばったことを振り返ることができるような展開や支援を考える。

## 6 本単元で期待できる教科の育ち

### 【カナタさん】

〈図画工作科〉 小学部 知識及び技能 第1段階

- ・タンポやスポンジ等の棒部分を握り、先端部分に皿に溶いてある絵の具をつけ、叩く、横に引く、円を描く等してカレンダー用の紙に繰り返し着色する。

〈国語科〉 小学部 思考力・判断力・表現力 第1段階

- ・「どの先生にプレゼントしたい」という教師の声がけを聞いて、机の上の10枚程度の写真の中から1枚を指さす。
- ・指さした写真の先生の前に立ち、隣に立つ担任の「〇〇先生、カレンダーです。どうぞ」という声がけをきっかけにカレンダーを手渡す。

(以下 4名分記述)

育成を目指す資質・能力の3つの柱、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等の涵養」の育成を図ることを意識して記述する。

## 7 本時案

- (1) 主眼 各自が、自分の力を精いっぱい発揮しながら、得意な方法で主体的に3Aのカレンダー作りを行う。
- (2) 本時の位置 40時間中第28時
- (3) 指導上の留意点
  - ・ハサミを出したままにしないように、所定の位置に専用の箱を用意する。
- (4) 展開

段階	学習活動	予想される生徒の動き…○ 教師の支援…・ 評価…☆	時間	備考
導入	1 活動の準備をする  【CTの役割】 ・授業の流れに気を配る ・全体への指示 ・個別の支援	○自分の活動スペースに移動する。 ・各自の活動スペースの状況を整えておく。 ○自分が使う材料や道具を ・所定の位置(道具コーナー)に材料や道具を前時と同じ形で種類ごとに置いておく。	5	材料 道具 道具コーナー
展開	2 カレンダーを作る  【STの役割】 ・状況の準備 ・個別の支援 ・CTの声がけに対する呼応	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     (ハルカさん) ○運動会の写真に登場する人物の吹き出しのセリフを考えて、パソコンの編集ソフトを使い入力する。 ・教師が作った吹き出し入りの写真を提示する。(CT)                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     (カナタさん) ○紙いっぱいにタンポで自分の選んだ色をつける。 ・紙の周りを紺色の画用紙で囲む。絵の具を溶いたお皿の中にタンポを入れておく。3色分用意する。(ST)                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     (ミライさん) ○修学旅行で行った鉄道博物館で見た電車の中から描きたい電車を選びクレパスで紙に描く。 ・鉄道博物館の電車の写真カードを用意する。(CT)                 </div>	37	スケジュール表(日程・完成数・目標数を記した物)
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     児童が、主体的、意欲的に取り組めるように、立ち位置・声かけ・指さし・教材を提示するタイミング・称賛の仕方等、一人一人に応じた支援を工夫する。                 </div>				

展 開		<p>(ノゾミさん)</p> <p>○簡易印刷機にインクをつけ、紅葉の絵を繰り返し印刷する。 ・ノゾミさんがインクの色を選ぶ際の参考用に、複数の着色見本を用意する。(ST)</p>		
		<p>(ユウキさん)</p> <p>○フォントと枠を選び、土日祝祭日の色と数字の配列を正しく入力して10月の日付を印刷する。 ・フォントと枠を選択する手順表と10月の日付チェック表を用意する。(CT)</p> <p>☆各自の願いが達成され、成就感や達成感を味わうことができたか。</p>		
ま と め	<p>3 活動を振り返る</p> <p>4 片付ける</p>	<p>○活動したことを発表する。 ・全体進行をする。(CT) ・各自が制作した作品を本人の前に用意し、各自の発表に合わせて全体に紹介する。(ST)</p> <p>○道具や材料を所定の場所へ運ぶ。 ・道具コーナーで、必要に応じて声をかける。(CT) ・必要に応じて個別に声かけや指さしをする。(ST)</p> <p>☆完成に向けて、次時も頑張ろうという意欲がもてたか。</p>	8	本時に作った作品

## 8 評価 ※ 単元終了後には…

### 【児童生徒の育ちをとらえる】

- ・単元の中の児童生徒の変化を個別の指導計画の「教育課題」などに照らし合わせて「育ち」としてとらえ、個別の指導計画の見直し・修正につなげる。

### 【教師の支援を評価する】

- ・活動がよりよく展開する状況を十分に作り得たかどうかを評価するとともに、個々の児童生徒の育ちにつながった指導・支援を評価する。

### 【何が身に付いたか】

- ・育成を目指す資質・能力について、児童生徒に「どういった教科の力が身に付いたか」という学習成果を的確にとらえる。

### 【カナタさん】

#### (1) 単元で見られた姿

タンポを握り、紙をじっと見つめながら手首を上下に動かして紙いっぱいにつけた。誰にプレゼントするか選ぶ場面では、にこにこしながら校長先生の写真を手に取った。校長室に行き、校長先生の姿を見かけると、自分から校長先生に近づき、カレンダーを手渡した。

#### (2) 姿の分析と教師の支援の評価

カナタさんは、隣でタンポを使って色をつける教師の姿を見て、自分からタンポを握り同じように色をつけ始めた。教師の演示がきっかけとなり、実際にやってみたときの感じ（色がついていく様子や跳ね返る感覚等）が心地よかったのだと思われる。

また、持ち手の部分を太くし凸凹を付けたことは、握りやすくカナタさんが繰り返してスタンプを振る姿につながったと考える。

白い画用紙の周りを紺の色画用紙で囲いカナタさんに提示した。これにより、自分が着色した部分が明確に分かり、紙いっぱいの色をつける姿につながったと考える。

プレゼント相手を選ぶ写真の中に校長先生の写真があったことにより、校長先生が大好きなカナタさんは、手に取って自分の思いを教師と友だちに伝えたのだと考える。

教師の声がけがなくても、自分から校長先生に手渡した姿は、カナタさんの自分から自分で精いっぱいの姿であると考えられる。

### (3) 単元を通して見られた教科の育ち

〈国語科〉小学部 思考力・判断力・表現力 第1段階

○言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力

・「どの先生にプレゼントしたい」という教師の声がけを聞いて、黒板に貼ってある10枚の顔写真の中から、校長先生の写真を手に取ることができた。

○人との関わりの中で伝えあい、自分の思いをもつ力

・カレンダーを持って校長室に行き、自分から両手で手渡すことができた。

(以下 4名に記述)

#### 【事例を振り返って】

生活単元学習では、自分たちの学校生活を主体的に充実・発展できるように学習活動を整えることが大切です。そのためには、児童生徒の興味・関心や得意なことから活動を決め出すことと、首尾よく活動できるように「できる状況」を整えることが欠かせません。また、生活単元学習においても、学習指導要領の「知的障害である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科」等の目標を達成していくこととなりますので、単元に入る前には、個々の児童生徒についても明確にしておきましょう。

単元終了後には、まず児童生徒が願いを達成できたのかを評価し、その上で将来の自立と社会参加に向けて、個別の指導計画の教育課題に関わる評価とともに教科の力についても評価し、教師の支援のあり方を見返しましょう。

本事例では、生徒が、「カレンダーを作ってプレゼントしよう」という共通のテーマに沿って主体的に取り組みました。教師が構想した醸成活動により、生徒たちの活動意欲が高まり、自然な流れで単元がスタートしました。教師は、一人一人の生徒の本単元に寄せる願いを推察し、願い実現に向けて存分に力を発揮できる状況を整えることにより、主体的な活動を支援しています。生徒が、前年とは違う新たな制作手法に挑戦した姿は、高い意欲の表れであり、教師の確かな生徒理解に支えられたものであったと考えます。また、このように生徒が自分から自分で精いっぱい活動する中で、期待した教科の力も育まれ、単元終了時には具体的な姿で評価が行われています。

単元終了時の評価については、保護者とも共有し、個別の指導計画の改善や次の単元計画の制作にいかしましょう。

# 触察教材とタブレットによる拡大教材での 指導の工夫（理科）

## 1 単元名 「卵の中をみてみよう」

### 2 単元設定の理由

本学級は5年生の2名が在籍しており、ルイさんは全盲で点字教科書を使用し、ヘレンさんは弱視で墨字の拡大教科書を使用して学習している。4年生でヘレンさんが転入して2人のクラスとなり、互いに切磋琢磨しながら明るく元気な学校生活を送っている。理科は2人とも好きな教科の1つであり、色についてはヘレンさんが、触察で分かる情報はルイさんが発言して、互いに情報を補い合っている。また、ルイさんは低学年からリクガメを飼い、ヘレンさんは家で犬やにわとりなどを飼っており、生き物に対する興味関心が高い。さらに、近くを流れる川で巻き貝を見つけ教室で飼ったり、葉の裏についた卵から何が出てくるか観察したりしている。4年生「生き物のくらし」の単元では、立体コピーで作った校内地図にシールを貼って季節ごとの生き物の数を表すことができた。5年「天気の変化」の単元では、綿を使って雲を表現し、日本上空の雲のかたまりが西から東へ動いていくことを確かめた。

本単元は、メダカの卵の中の変化が全盲児には分かりにくいいため、点字教科書ではカエルの卵を触って観察し、メダカの卵の変化は言葉と点図の説明にとどまっている。逆に墨字の教科書ではカエルの成長については扱われていないが、弱視児もオタマジャクシになるまでの変化の様子は見る機会が少ないと思われる。そこで、メダカとカエルの両方の変化の仕方を扱うことにした。そうすることによって情報の少ない視覚障がい児の知識を広げることにつながるであろう。

顕微鏡の使い方については、全盲児は知識として知っておく必要があるため2人共通の学習を行う。全盲児は、卵の中の変化について各段階の様子を米粉粘土で作ったモデルで観察して、点図などの2次元のものを立体的な3次元で理解できるようにしたい。弱視児も見えにくさを補うために、顕微鏡とタブレット端末でさらに画面を大きくして、映像を教師と共有し、見る観点をはっきりさせて観察できるようにしたい。

これらの活動を通して、卵と子どもの成長に興味をもち、メダカを愛情を持って飼いながら、卵から子メダカになるまでの様子を観察することで、動物の発生や成長についての理解を深めるとともに、生命を尊重する態度を育てたいと考え、本単元を設定した。

使用文字などの児童の実態や、これまでの理科学習の様子について書きます。

本単元や授業を構想する際の留意点や工夫したことについて書きます。

視覚を有効に使う方法や視覚以外の感覚を発揮するために、どのような教材を活用するかを書きます。



### 3 単元の目標（本単元で育成する資質・能力）

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
<p>B (2)ア(ア) 解剖顕微鏡のつくりや働きを理解し，正しく操作して，卵の中の様子を観察し，記録することができる。</p> <p>B (2)ア(ア) 卵の中の様子を観察し，成長の目立った変化を捉えることができる。</p> <p>B (2)ア(ア) 魚には雄雌があり，生まれた卵は少しずつ変化し，やがて小魚に成長してかえることが分かる。</p>	<p>B (2)イ メダカが産卵するには，雄と雌を一緒に飼う必要があると考え，説明することができる。</p> <p>B (2)イ 観察記録や触察教材をもとに子メダカは，卵の中で少しずつ体ができてきて，卵の中の養分を使って成長したと考え表現することができる。</p>	<p>B (2) メダカの卵と子メダカの生まれ方に興味をもち，進んで飼育したり，卵からかえっているか気にかけたたり，大切に扱ったりしようとしている。</p> <p>B (2) 卵の中の変化に興味をもち，どのように変化するかを予想したり，進んで観察したりしようとしている。</p>

本単元で育成する資質・能力を明確にすることによって，必要な支援や単元展開を構想することにつながります。

### 4 児童の実態に応じた支援（下線部：困難さ マーカー：支援）

#### ① ルイさん（全盲児）

<p>【実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚以外の感覚を使って事物を観察している。</li> <li>・実物と言葉が一致していないことがある。</li> <li>・一部分の観察で終わってしまうことがある。</li> </ul>
<p>【困難さの背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全盲のため耳から入る言葉の情報が多くなるので，言葉との認識にずれがおきている場合がある。</li> <li>・直接触っているものの情報がすべてとなるので，部分と全体の関係を意識して捉えるようにする必要がある。</li> </ul>
<p>【本単元における支援とその意図】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小さすぎるものや，直接触れないものは<b>模型やモデルで観察</b>できるようにする。</li> <li>○ルイさんが触れるように教師がルイさんの手を添えて一緒に触る。ルイさんの手をとって<b>全体に触れてから細部に触れて観察</b>できるようにする。</li> </ul>

【自立活動】  
4 環境の把握  
(1) 保有する感覚の活用に関すること  
(5) 認知や行動の手がかりとなる概念の形成に関すること

## ② ヘレンさん（弱視児）

### 【実態】

- ・眼振があるため網目状のものやグラフ用紙などは読み取りにくい。
- ・単眼鏡やルーペなどの視覚補助具を使い慣れていない。
- ・自分の見やすい環境がどのようなものか、表現することが難しい。

### 【困難さの背景】

- ・眼振があり，注視しようとする余計に目が揺れてしまうので，規則正しく繰り返される図やコントラストの低い画像などは見えにくい。
- ・盲学校へ転校した後は，教室内の授業場面で単眼鏡やルーペを使わなくても見えることが増えたため，使用頻度が減っている。

### 【本単元における支援とその意図】

- 情報を得るためには，肉眼→ルーペ→顕微鏡，と広い範囲から狭い範囲へと補助具を使い分けられるようにする。部屋の明るさや背景について，いくつか試して見やすい環境を意識づけていく。
- 視覚的に得た平面の情報をさらにより深く理解するために，ヘレンさんもモデルを触って立体的な情報も得られるようにする。

### 【自立活動】


- 4 環境の把握
- (1) 保有する感覚の活用に関すること
- (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること

## 5 単元の展開（全8時間）

時	学習活動	支援・指導
第1次 メダカを飼ってみよう（2時間）		
1	メダカの雌雄の見分け方を知り，雌雄の役割について考える。	教科書で比べたり模型を触ったりして，雌雄の区別だけでなく，魚全体の形も捉えられるようにする。全盲児には手のひらにメダカを載せてやり，実際の大きさを感じられるようにするが，できるだけ優しく短時間で行うようにする。
2	メダカを飼育して卵を産ませる準備をする。	児童だけで世話ができるように，エサの入れ物や卵を入れる容器などは決まった場所に置く。餌やりや水替えも教師がやり方を示す。
第2次 卵の中の様子を観察しよう（5時間）		
1	生まれた卵の実物を触って観察し，メダカの卵はどのように変化して魚の形になるか予想する。	チョウの幼虫はさなぎになり，全く違う形の成虫になることを思い出せるようにし，多面的に考えられるようにする。受精卵は卵膜が硬いので親指と人差し指の腹ではさんで転がし，大きさや硬さを実感できるようにする。
2	メダカの卵をよく見るために顕微鏡の使い方を覚える。	解剖顕微鏡の各部分の名称と働き・操作手順・注意事項を確認する。全盲児にはどのくらいの大きさの物を観察するときを使う道具か伝える。

弱視児は日常的に拡大したものを見ており，実際の大きさを理解しないままになることがあるので，画像や模型などが実物と比べて何倍になっているかを確認する必要があります。全盲児も同様です。

主体的に取り組めるようにするために，空間的な環境を整えましょう。

3 4	メダカの卵の中の変 化を解剖顕微鏡やモ デルで観察し、記録 する。	解剖顕微鏡とタブレットのカメラのレンズの 光軸を合わせて、映るようにセットする。映っ たら、まず気づいたことを発表するようにして から教師の見てほしい観点を示す。直接解剖顕 微鏡のレンズをのぞいて、同じ物が見えるか確 認するようにする。全盲児はその段階の卵の中 のモデルを触察する。
5	メダカの卵が育って 子メダカになるまで をまとめる。 <b>本時</b>	母メダカから生まれたばかりの卵から子メダ カに少しずつ変化していく様子を学習カード や写真、粘土のモデルを並べて振り返る。チョ ウのように変態するのではなく、少しずつメダ カの形になっていくことを確認する。 
第3次 カエルはどのように育つのだろう（1時間）		
1	カエルの卵はどのよ うに変化するか考 え、調べる。	粘土で作ったカエルの卵の中の様子モデルを 触察してから、教科書や図書で変化の様子を確 認する。メダカと比較し類似点や相違点を話し 合う。



観察する段階は  
5つ程度とするな  
ど、確実に理解で  
きるよう内容を精  
選しましょう。  
👉 特別支援学校  
学習指導要領解説  
各教科編 P5

## 6 指導上の留意点

- ・心臓の動きやひれの動かし方など、動きが伴うものは弱視児が全盲児に説明するよう声をかけたり、教師が補足したりする。
- ・タブレット端末は、カメラ機能以外は使えないよう機能制限をかけておく。
- ・理科用語は、覚えやすく印象に残る言葉での説明を加えたり、児童が覚え方の語呂合わせを考えたりできるようにする。また、全盲児には使われている漢字の説明を加える。 👉 特別支援学校学習指導要領 P78
- ・「丸い」という言葉は、視覚的には球形も表すが、全盲児は円形と受け取る場合があるので注意する。また、卵の膜はモデルでは省いていることを説明し、その膜から子メダカが出ることを「卵からかえる」ということが理解できるようにする。ニワトリの卵は中の黄身の部分が変化してひよこの形になり、殻を割って出てくることを説明し、言葉の理解を深めるようにする。

👉 特別支援学校学習指導要領 P78

互いのよさを認め  
いかす、学び合い  
となるように配慮  
しましょう。

## 7 本時の学習指導案

(1) 本時の位置 第2次の第5時

前時 卵の中のメダカはひれや目を動かすこと、卵の中では体を丸めていることを観察し、魚の形になってきたことを学習した。

次時 カエルの卵はどのように育つか学習する。


(2) 本時の主眼

メダカの卵の中では、丸い形のもの少しずつ変化していくことを観察してきた児童が、かえった子メダカを観察しこれまでの成長の過程を振り返る場面で、卵は日が経つにつれて少しずつ変化し、やがて小魚に成長して、かえるまでをまとめることができる。

(3) 指導上の留意点

- ① 拡大してしまうと実物の大きさが分かりにくいので、紙粘土で実際の大きさを示しておく。
- ② 様々な器具を使うので、定位置を決めておき自分で動けるようにする。
- ③ タイマーで時間の見通しをもてるようにする。
- ④ 明るさや光軸の調整は、児童が見やすいように本人ができるようにするが、教師も手伝うようにする。

空間や時間の概念を養う活動を入れていきます。

 特別支援学校学習指導要領解説各教科編 P7 1 (5)

(4) 展開

段階	学習活動	○予想される児童の反応	△教師の支援 ☆評価	時間	備考
		ルイさん (全盲児)	ヘレンさん (弱視児)		
課題をつかみ	1 これまでのメダカの様子を出し、本時のねらいを確認する。	○目がタイヤみたいに大きくなっていた。 ○今日の卵はどうなる？ △シャーレに 5mm ほどのすばやく動くものがあることを説明する。	○心臓も動いていた。 ○何か動いてる！ルーペで見よう。子メダカかな？ △肉眼やルーペで、子メダカがとらえられない場合は、タブレットでシャーレ全体を映し出し確認する。	10	学習問題と課題 タブレット アーム スタンド メダカの卵
	2 子メダカを観察し記録する。	○米粉粘土で作った子メダカのモデルを触察する。 ○お、魚の形だ！ ○丸まったのが、伸びて長くなった。 ○気づいたことを点字盤で記録しよう。 △紙粘土で作った実際の大きさを示したものと子メダカのモデルと大きさを比べながら観察するよう声をかける。 △時間があれば拡大した子メダカのモデルと同じも	△子メダカをホールスライドグラスに取り、タブレットのカメラ機能で観察する。 △解剖顕微鏡とタブレットの光軸があうようセットする。 ○かわいい！動きが速い。 ○タブレットを見て記録を書こう。 △見やすい大きさに拡大してみるよう助言する。 △ひれや口の動かし方、色や模様等気づいたことを口に出しながら、観察するよう	20	

適切な触覚教材を提示することで、同じものを作ってみるという主体的な学びにつながり、作る過程で知識を再構築して表現する深い学びとなります。

まとめる		のを粘土で作ってみるよう支援する。	助言する。 △立体のモデルでも観察するよう支援する。			
	3	卵が生まれた日の様子から子メダカにかえるまでの成長をまとめる。	△かえったばかりの子メダカはおなかの袋の養分があるため、2～3日はエサを食べなくてよいことを伝える。 ○卵の中の変化の様子をこれまで観察したモデルを順に並べる。 ○ただの球の形だったのが少しずつ変わってる。 △チョウの成長のように全く違う形に変化するのではなく、球形の物が少しずつ変化して魚の形になっていくことに気づけるようにする。	○これまで観察して記録した学習カードとタブレットで撮った写真を並べる。 ○初めから魚の形をしているわけじゃないんだね。	15	各段階の子メダカのモデル卵の写真
	4	今日の学習を振り返る。	○各段階の卵の様子モデルを触って確認する。 ○今日学習したことについて感想を書き発表する。	○拡大教科書の卵の変化の1ページを見て確認する。		
	5	次時の予告	○すごく小さいのに、ちゃんと魚の形をして泳いでいてすごいと思った。	○卵の形が変わって魚になるんだね。元気に育って、また卵を産んでほしいな。		
	☆これまでの記録をもとに、子メダカは、卵の中で体が少しずつ変化して魚の形になると考え、表現することができたか。					

### 【事例を振り返って】

視覚障がいのある児童生徒は、目で見ている人が当たり前と思っていることを知らなかったり、異なるとらえ方で認識していたりする場合があります。児童の認識をきちんと捉え、そこから授業を組み立てるようにしましょう。また、直接観察したり体験したりできるよう実物を準備したり、空間的なことを丁寧に言語化して伝えたりする必要があります。また、タブレット端末は、カメラ機能による拡大視にとどまらず、視覚障がいに対応したアプリケーションの利用により、辞書をひいたり教科書などを読み込んだりできるようになっています。その他の情報機器も活用して主体的に学習できるようにしましょう。

本事例では、メダカの卵内の変化という直接実物を観察できない物について、モデルや模型を通して観察することで、平面的な図や写真と言葉の説明だけでなく、立体的な情報を取り入れることができ、学びを深めることができました。また、顕微鏡とタブレット端末のカメラ機能を組み合わせ、大きく見やすい画像を児童と教師が共有することにより、観点を絞った観察をすることができました。



## 相手意識をもった関わり方の指導 (技術・家庭科)〔家庭分野〕

### 1 題材名 小さかったわたし 大きくなったわたし (幼児の生活と家族)

#### 2 題材設定の理由

中学部3年のツヨシさんとナオコさんは、幼稚部入学以前の早期支援教室から本校に通っている。

ツヨシさんは補聴器の装用によって音声言語は聞こえるが、高い周波数が聞こえにくかったり、音に歪みがあったりするので、すべてを聞き取るとは難しい。そのため、日常生活では、手話と口話を併用している。ナオコさんは補聴器の装用によって音としては聞こえるが、言葉としては聞き取りにくいので、手話によるコミュニケーションが中心である。授業中は、手話から知っている単語をとらえて推測していることが多いため、きちんと理解しているかどうかを尋ねながら進める必要がある。

本題材は、技術・家庭分野(家庭分野)における「幼児の生活と家族」で、ナオコさんとツヨシさんの生活経験の少なさや発達段階を考慮し、中学部3年生で学習する指導計画を作成した。中学部3年生の10月は卒業に向けてのアルバム製作の時期で、幼稚部や小学部のことを思い出しながら、幼児期の発達や生活の特徴について、より身近に捉えることができる。


本題材は、幼稚部との交流を通して、幼児との関わり方について理解するだけでなく、幼児とのよりよい関わり方について考える学習となっている。最初に「自分の成長と家族との関係」を取り上げることで、家族に支えられ成長した自分を振り返ることができるだろう。

また、幼児との関わり方について考える場面では、ツヨシさんとナオコさんが、年上である自分を意識して話す言葉や接する態度を考える活動を取り入れたい。そうすることによって他者の気持ちを理解したり状況に応じたコミュニケーションをとろうとしたりする姿も見られるのではないかと考え、本題材を設定した。

生徒たちの聞こえの実態を書きます。

指導の工夫として、理解しやすい時期に扱えるよう指導計画を作成しました。

自立活動の視点も含めて考えながら、題材の価値を書きます。

 特別支援教育  
教育課程学習指導  
手引書 特別支援  
学校編(平成22  
年1月 長野県教  
育委員会) P59

### 3 題材の目標（本題材で育成する資質・能力）

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
A(2)ア (ア) 幼児の発達と生活の特徴が分かり、子供が育つ環境としての家族の役割について理解すること。 (イ) 幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解すること。	A(2)イ 幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。	A(4)ア 家族、幼児の生活又は地域の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践できること。

### 4 生徒の実態に応じた支援（下線部：困難さ マーカー：支援）

#### ① ツヨシさん（3年生）

##### 【実態】

- ・補聴器を併用し、口元を見て聞くことで、おおよその内容を聞き取ることができる。
- ・自分の思いを伝えることが苦手ではあるが、人のことを考えて行動することができる。

##### 【困難さの背景】

- ・補聴器を装用しても、聞こえない周波数帯があったり、音が歪んで伝わったりする。
- ・一対一の会話でなければ、ほとんど内容が伝わらないので、他の人の表現にふれたり、気づいたりすることが少なく、感情に合った表現方法を知らないことが多い。

##### 【本題材における支援とその意図】

- 話が伝わるように手話と口話を併用し、読話しやすいように、正対して口をはっきり見せて話す。
- 伝えたい内容を言葉で表現できるように、教師が言語化して示し、口声模倣を促す。

#### ② ナオコさん（3年生）

##### 【実態】

- ・重度難聴のため、主たるコミュニケーション手段は手話である。
- ・自分が思っていることは相手も同じように思っていると考えがちであったが、他者意識が育ちつつあり、相手の立場も考える姿が見られるようになった。

##### 【困難さの背景】

- ・手話でのコミュニケーションを書記言語で確認し直すという経験を十分に積んでいない。
- ・伝え合う経験が少なく、あいまいなコミュニケーションになりがちなので、相手の気持ちや立場に思いが至らない。


##### 【本題材における支援とその意図】

- フラッシュカードを使ったりコミック会話を使ったりして、言葉の意味をきちんと理解しているか確認しながら進める。
- 幼児との具体的な関わり方を考えられるように、幼稚部の教師の姿や妹の日常の様子を想起するような問いかけをする。

##### 【自立活動】

6(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

体験的な活動を通して、学習の基盤となる語句などについての的確な言語概念の形成を図り、生徒の発達に応じた思考力の育成に努めること。

 学習指導要領解説各教科編 P7

##### 【自立活動】

3(2) 他者の意図や感情の理解に関すること

## 5 題材の展開

時	学習活動	指導・支援
1 ・ 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の心身の発達について知る。</li> <li>・ 幼稚部参観に向けて計画をたてる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の成長過程を振り返り，家族や周囲の人々に支えられて成長してきたことを確認する。</li> <li>・ 「身体」「情緒」「社会性」等の視点でまとめていく。</li> <li>・ 幼児に応じた関わり方や「遊びの種類や遊び方」「興味があること」なども参観の観点とするよう伝える。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚部を参観する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚部の先生が工夫して関わっている様子が見られたら，動画に記録しておく。</li> </ul>
4 (本時) ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚部参観を振り返る。</li> <li>・ 幼児に対する接し方，言葉の使い方について考える。(本時)</li> <li>・ 幼稚部交流の計画をたてる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動画を見て幼稚部の先生の幼児への関わり方を振り返り，関わり方の参考にする。(本時)</li> <li>・ 幼児に語りかける口調や「幼児と目の高さを合わせる」「ゆっくり分かりやすい言葉で話す」など，ポイントが分かるような板書と掲示物を準備する。</li> <li>・ 交流のための遊具や本など参考になるものを用意しておく。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚部と交流をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児との関わりを工夫している姿をとらえ，動画に記録しておく。</li> <li>・ 困っている生徒には，前時を一緒に振り返り，具体的な関わり方について見通しがもてるようにする。</li> </ul>
7 ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚部交流を振り返る。</li> <li>・ 振り返りながら，部朝会の発表原稿としてまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流の様子だけでなく，自分の成長も振り返りながらまとめられるように促す。</li> <li>・ 聞いている友だちに伝わるように工夫できるようにする。</li> </ul>

## 6 指導上の留意点

- ・ 題材のねらいを幼稚部職員にもしっかりと伝え，生徒の活動で見守るべき場面と介入すべき場面を共通理解する。
- ・ 交流の際に事故やけがのないようにする。

## 7 本時案

### (1) 主眼

幼稚部の活動の様子を参観した生徒たちが，その様子を動画で振り返ることを通して，幼児に対する言葉の使い方に気づき，相手によって話し方を変えて話そうとしたり，幼児に伝わるような話し方を考えたりすることができる。

(2) 本時の位置

前時：幼稚部を参観する。

本時：8時間中の第4時

次時：幼稚部交流の計画をたて、準備する。幼児との関わりが深まるようなおもちゃや本、紙芝居などを考え、準備する。

(3) 指導上の留意点

- ・生徒たちが日常会話の場面で聞きもらしがちな語尾の表現などについて動画をもとに文字におこしておく。

(4) 展開

○予想される生徒の反応 △教師の支援 ◇直接支援 ☆評価

	学習活動	ツヨシさん	ナオコさん	時間
課題把握	1 幼稚部の先生が幼児と関わっている様子を動画で見る。	○椅子や机の小ささや掲示物など、教室の様子を言うだろう。  △生徒が幼児との関わり方に気づくような参観の時の動画（字幕つき）を提示する。	○ツヨシさんの発言にヒントを得ながら、教室の様子を言うだろう。	10
	学習問題：幼児と関わるにはどんな工夫が必要だろうか。			
	学習課題：幼稚部の先生の関わり方を参考にどのように話したらよいか考えよう。		△幼稚部の先生が具体的に何をしてきたか、動画を思い出して挙げるよう促す。	
究明・実践	2 参観の動画を見て、幼稚部の教師が話す言葉の特徴に気づく。	○字幕を見ながら、「～ね」「～よ」など幼稚部の教師が話している言葉の特徴に気づくだろう。 ◇「中学部の先生だったらどのように言うだろう」と自分が日ごろ聞いている言葉づかいと比較できるようにする。	○幼稚部の教師がしゃがんでいる姿勢に気づくだろう。 ◇表情やしぐさに気づいた点を認める。 ◇言葉についての気づきがないようだったら、フラッシュカードで幼稚部の教師の言葉を示し、着目を促す。	20
		△どうして幼稚部の先生は、このような話し方をするのか尋ねる。		

 本書 P 115  
板書参照

会話の際の表情やしぐさなど、言語以外のコミュニケーション手段も大切に扱います。

日常会話では流れて消えてしまう言葉をフラッシュカードで視覚的に残すようにします。

整理・発展		○小さい子は、難しい言葉が分からないからだと答えるだろう。	◇妹の様子を想起できるような声がけをする。「お母さんは、ヒカリちゃんにどんな話し方をしているかな。」「ヒカリちゃん、○●●って分かると思う？」	
	3 相手によって使う言葉や語調が変わってくることに気づき、具体的な場面を想定して会話を	○「先生と話するときには、友だちと話するときより“丁寧に”話す」と発言するだろう。 △“丁寧に話す”とはどのようなことか尋ね、具体的な表現を板書する。	◇「～な時は、先生にどのように言いますか」と具体的な場面が想起できるようにする。	10
	次の場合にどのような言い方をするでしょうか。 ○話しかけたいとき ○自分の言ったことが伝わっているかどうか確認したいとき ○言われたことが分からなかったとき ①友だちへの言い方 ②先生への言い方 ③幼児への言い方			
		△生徒たちから出された表現を板書し、語った言葉を視覚的に残すようにする。		
4 本時の学習を振り返り、交流当日にどのように幼児と関わりたいか考える。	○幼稚部の先生のように、分かりやすい言葉、伝わるような言い方といった視点で考えるだろう。 △生徒たちが言いたいことを確認しながら、相互に伝え合えるように言葉を補う。	○妹に接するときのことを想起して発言するだろう。	10	
<div data-bbox="536 1742 1066 1928" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>☆評価 相手によって話し方に違いがあることを知り、幼児に対するよりよい話し方を意識して話そうとしたか。</p> </div>				

目の前の現象については、分かっているとしても、その根拠が分かっているかどうかを確認しながら進めます。根拠について理解できていると般化につながります。

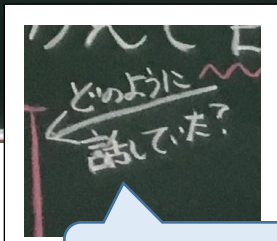
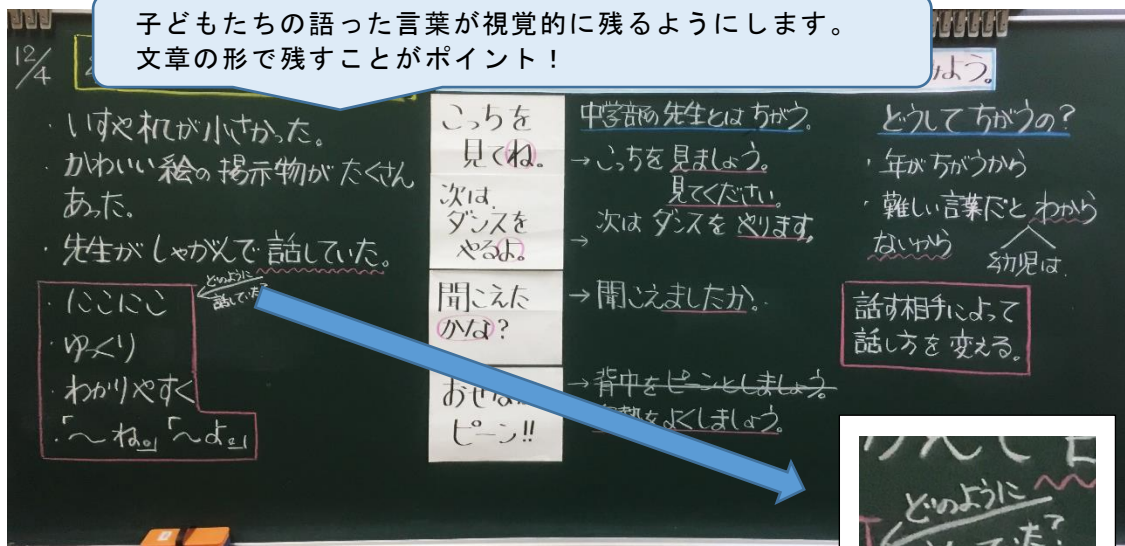
生徒が語った言葉を文章の形で板書します。誤りがあった場合は、正して記します。自分が語った言葉を視覚的にフィードバックできるようにします。  
👉 本書 P115

発表や生徒同士の話し合いなどの学習活動を積極的に取り入れるようにします。  
👉 学習指導要領解説各教科編 P9  
そのための支援は下記↓にて。

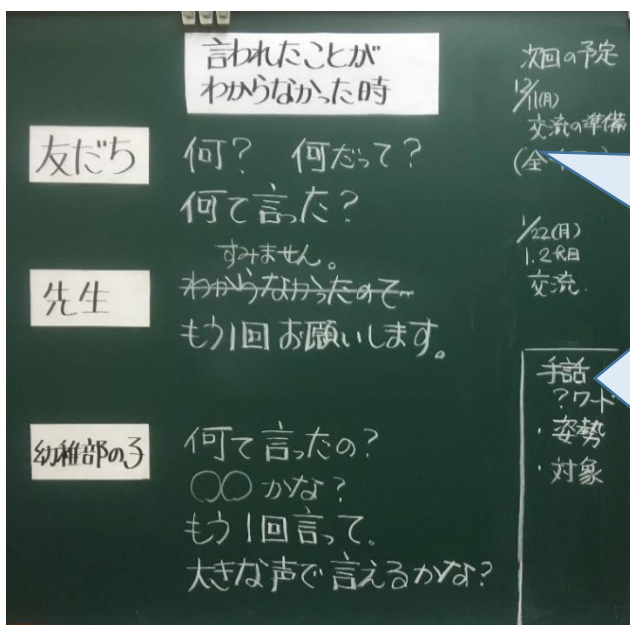
話し合うことを目的とする場面では、言っている内容に介入するのではなく、その子が言いたい内容が相手に伝わっているのかに配慮し、言葉を補ったり、誤った表現を正したりする表現が必要です。



子どもたちの語った言葉が視覚的に残るようにします。  
文章の形で残すことがポイント！



記号(矢印)には意味を。



今後の予定を記す場所は定位置にして、見通しをもてるようにします。

授業の中でお互いに分からなかった手話表現を書き残します。後で調べようとする姿をねらいます。

【事例を振り返って】

聴覚障がいのある子どもは、会話中の知っている単語だけを捉えたり、自分の思い込みで判断したりすることが多いようです。複雑な内容を理解するには、会話の流れから内容をつかんだり、文章を正確にとらえたりする力をつけることが大切です。また、健聴の子どもであれば、日常の会話の中で頻繁に耳にする表現であっても、聴覚障がいのある子どもにはあえて扱う場を設定する必要があります。ろう学校においては、「準ずる教育」として教科でつけるべき力を扱うとともに、これらの言語指導は常に念頭においておきましょう。本題材のように相手を意識して話したり、ふるまったりする活動は、貴重な機会となるでしょう。

今回の事例では、相手によって言い方を変えている場面を取り出して文字におこしたところ、相手によって違う語調や表現に気づくことができました。また、幼児に「また来てね」とハイタッチしてもらった手を思い出す姿から、交流を通して幼児に思いを寄せ、幼児と触れ合うよさを感じていることがうかがえました。

# 吹きやすいな！楽しいな！につながる支援

(音楽)

## 1 題材名 リコーダーとなかよしになろう【器楽】

教材名 小鳥のために（作曲者不明）

笛星人（北村俊彦） ステップ 1・2・3／花（原由多加）

坂道（鹿谷美緒子） 雨上がり（佐井孝彰）

かりかりわたれ（わらべ歌） そよ風（石桁冬樹）

## 2 題材設定の理由

本学級では、小学部3学年3名の児童が、準ずる当該学年の教科の学習や下学年の内容の代替の学習に取り組んでいる。手指の操作を伴う活動では、実態に応じて補助具や軽い力で扱える文房具を使用している。

音楽では当該学年の学習に取り組み、旋律楽器は鍵盤ハーモニカの演奏経験がある。タンギングや指づかいの習得状況は様々であるが、3名とも旋律を演奏する楽しさを感じながら意欲的に取り組んできた。また、高学年児童がリコーダーを演奏する姿に憧れを抱いており、3年生で学習することを心待ちにしている様子が見られる。

本題材は、鍵盤ハーモニカに続く旋律楽器であるソプラノリコーダーを初めて手にする機会である。教材曲は全て左手の運指（ソラシドレの5音）のみで演奏でき、様々な曲想・拍子感やリコーダーの音色の重なり・ピアノ伴奏との音色の重なりを味わえる。また、閉じる指孔の数を段階的に増やして無理なく運指に慣れることや児童の実態に応じた選曲が可能で、リコーダー導入期の練習曲として適している。

肢体不自由のある児童にとっては、指孔を完全に塞ぐ動作やタンギングと運指（指替え）の両立等に難しさを伴う場合があるが、身体の動きの状態に応じた「指導内容の設定・重点を置く事項への時間配当・補助具や姿勢の工夫」や、題材の目標・評価規準に基づく個の目標・評価基準の設定、自立活動との関連を図った指導を通して、新たな旋律楽器であるリコーダーを演奏する楽しさや自分なりの力を生かして演奏する達成感を感じられるだろうと考える。

期待感をもって初めてリコーダーを手にする子どもたちが、楽しみながら基本的な演奏の仕方を身につけたり、「自分で」あるいは「友だちや教師と一緒に」様々な曲の演奏に親しんだりすることを通して、リコーダーが身近な楽器になり、音楽とより豊かに関わっていく姿を願って本題材を設定した。

本題材は「特別支援学校幼稚部教育要領小学部・中学部学習指導要領」P79『肢体不自由者である児童に対する教育を行う特別支援学校』の項目(1)(4)(5)及び「小学校学習指導要領解説音楽編」P121～122(7)に配慮して構想します。

### 3 題材の目標（本題材で育成する資質・能力）

知識及び技能	思考力,判断力,表現力等	学びに向かう力,人間性等
Aウ (イ) 音色や響きに気を付けて, 旋律楽器及び打楽器を演奏する技能	A (2) ア 器楽表現についての知識を得たり生かしたりしながら, 曲の特徴を捉えた工夫をし, どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと	(3) 進んで音楽に関わり, 協働して音楽活動をする楽しさを感じながら, 様々な音楽に親しむとともに, 音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度

リコーダー導入期であるので, 予想される支援をもとに第1時後に教師間で再検討したものを挙げています。

「小学校学習指導要領解説音楽編」P57～85『第3学年及び第4学年の目標と内容』P162～165『教科の目標, 各学年の目標及び内容の系統表』をもとに整理します。指導内容を明記することで「つける力＝目標→評価規準→個の評価基準」が明確になり, 授業の充実や的確な評価につながります。

### 4 児童の実態に応じた支援（下線部：困難さ **マーカー**：支援）

#### ① リコさん

#### 【実態】

- ・ 指孔を教師と一緒に押さえて力が加わると, 正しい音程で吹ける。
- ・ 肘を教師が支えると, リコーダーを構えた姿勢を保持できる。



#### 【困難さの背景】

- ・ 指孔を閉じる力が弱く, わずかな隙間が生じる為に違う音が出る。
- ・ 筋力が弱く, リコーダーを構えた姿勢を長く保つことが難しい。



#### 【本題材における支援とその意図】

- 軽い力で指孔を閉じられるよう, **指孔部分にシールを貼る。**
- 安定した姿勢で楽に演奏できるよう, **立位台に立ってテーブルに肘を置いた姿勢**をとり, リコーダーを構えた姿勢に合わせて**リコーダーの下部を補助台で支える。**



**本書 P121【資料】  
支援例①⑥／立位で補助台使用**

#### ② シンさん

#### 【実態】

- ・ ゆっくり時間をかけると, 指孔を概ね正しい位置で押さえられる。
- ・ 指孔を閉じずに吹くと, 音を続けて出すことができる。



#### 【自立活動との関連】

- 1 健康の保持
- (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること
- 5 身体の動き
- (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること
- (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行

【困難さの背景】

- ・ **指の可動域の狭さがあり**，指孔の位置に合わせにくかったり指孔に届かなかったりするために違う音が出る。
- ・ **指の曲げ伸ばしのぎこちなさから指替えに時間を要するため**，拍の流れから遅れて自信がもてない。



【本題材における支援とその意図】

- 手の形に合ったリコーダーで楽に吹けるよう，**指孔の位置を調整できるリコーダー**を用い，**指孔部分にシールを貼る。**
- 拍の流れにのって演奏できるよう，本人と相談して**学習範囲をソラシ**とする。**曲の休符を増やし，3音までの曲を他にも用意する。**



**本書 P121【資料】  
支援例①②**

5 題材展開の概要（9時間）

時	主な学習活動	主な教師の関わり
第一次	リコーダーに興味をもち，基本的な演奏の仕方を知る	
1	活動への意欲が高まるように，リコーダー演奏の曲を聴く。 リコーダーの扱い方を知る。 試し吹きをする。	「リコーダー名人」の範奏で意欲を高める。 リコーダーに親しめるよう，触れ合う時間を十分にとる。
第二次	ちょうどよい息の強さやタンギングの吹き方を身につける	
2	吹きやすい方法を試す。	補助具や姿勢等を提案し，吹きやすく調整していく。
3	基本的な音の出し方を身につけ，ソラシドレの運指を知る。	模倣遊びを毎時間行い，楽しみながら技能の定着を図る。
4	に合うリズムを作って模倣遊びをする。	同じ流れで段階的に音の数を増やしていく。
5	シの1音で吹ける「笛星人」の旋律を吹く。	
第三次	「リコーダー名人」の吹き方を目指し工夫しながら演奏する	
6	「名人」のように吹けるよう工夫しながら，全員で演奏する「笛星人」	個人練習の時間を確保し，曲の目標を個別に設定して個に応じた技能が伸びるようにする。
7	や技能に応じた選曲で，様々な曲（独奏・簡単な重奏・ピアノ伴奏とのアンサンブル等）に取り組む。	興味に応じ，他の曲も紹介・提案していく。
8		
第四次	互いの発表を聴き合い，学習のまとめをする	
9	全員で演奏する「笛星人」や第三次で個別に練習した曲を発表し合う。感想を伝え合ったり録画した演奏を見たりして，学習を振り返る。	感想や録画映像から自分や友だちの演奏のよさに気づけるようにする。運指とタンギングは継続して指導していく。

【自立活動との関連】

- 1 健康の保持
- (4) リコさんの枠を参照
- 3 心理的な安定
- (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲
- 5 身体の動き
- (2) (5) リコさんの枠を参照

リズムの模倣遊びを毎時間行い，楽しみながら基本技能を身につけていきます。

第二次で身につけた力をいかした選曲と個に応じた目標を設けることで，演奏する楽しさや自信を感じられるようにします。

題材終了後も折に触れて繰り返し扱い，長期的なスパンで技能の定着を図ります。



## 6 指導上の留意点

- ・児童と相談しながら、補助具や代替楽器を用いて吹きやすくする。
- ・リコーダーを保持しやすく安定した呼吸で演奏できる姿勢を整え、楽譜を書見台や譜面台を使って目線に合う高さに調整する。
- ・板書は、気管切開をしている児童の安全面と注目する場所の分かりやすさに配慮し、テレビモニターに映す。
- ・シャントを挿入している児童の安全に配慮し、磁気を発する物の配置に留意する。

P121【資料】に本題材で検討した補助具や代替楽器等の例が載っています。必要に応じ、作業療法士と連携して本人に適した方法を検討します。

## 7 本時案

### (1) 主眼

リコーダーに興味をもった子どもたちが、シの運指でのリズム模倣を通して、きれいな音で模倣遊びをするためのちょうどよい息の強さとタンギングに気づき、身につけることができる。

### (2) 本時の位置 (全9時間中第2時)

前時 「リコーダー名人」の演奏を聴いて音色に興味をもち、構え方や指孔の閉じ方、音の出し方を知った。

次時 ラの運指を知り、シとラで4拍の旋律を作って模倣し合ったり、シの1音で吹ける「笛星人」の旋律を練習したりする。

### (3) 指導上の留意点

- ・シの音の吹きやすさを相談しながら試し、他の4音を含めた調整は「自立活動の時間の指導」を活用して個別に行う。

### (4) 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	時間	△指導・☆評価
導 入	1 基本的な演奏の仕方を確かめる。	○早く吹きたい。 ○指の腹で、孔を閉じればいいんだな。 ○下唇に軽く乗せよう。 ○「トゥ」と言う感じで音を出してみよう。	15	△指孔を閉じずに音を出しながら、リコーダーの構え方や指孔の閉じ方、姿勢等を確かめる。
	2 シの運指を知り、吹きやすい方法を試す。	○親指と人差し指で、孔を閉じるんだな。 ○閉じているのに違う音が出て、難しいな。 ○魚の目パッドを貼ると押さえやすいな。音がうまく出て嬉しいな。 ○鍵盤リコーダーも試してから決めたいな。 ○指孔の位置をずらしたら吹きやすくなった。 ○車いすよりも立位台の方が吹きやすいな。		△指孔に貼るシールや代替りの楽器等があって試せること、車いすや座位保持いす立位台から吹きやすい姿勢で行うことを知らせる。 △一緒に試しながら吹きやすく調整する。

医療的な面に関する個別の留意点も確認しておきます。(発作への対応・顔色/呼吸状態/血中酸素濃度の変化への対応・体力に応じた活動量の設定等)

本題材では、P121【資料】①②③④⑥を試しています。

P121【資料】で、姿勢の例を紹介しています。



		<b>学習問題</b> 「リコーダー名人」のようなきれいな音で模倣遊びするためには、どんなことが大切だろう				
		<b>学習課題</b> ちょうどよい息の強さやタンギングでシの音を吹こう	25	<p>△はじめにやり方を教師が示す。 △教師も一緒に言葉を考え、タンギングのバリエーションを広げる。 △ちょうどよい息の強さやタンギングに気づけるよう、範奏の吹き方を変え、吹き比べて確かめる。 △一人ずつ吹く場面を設け、息の強さやタンギングの状態を確認する。 △児童が即興で演奏した4拍分のリズムを一斉または一人ずつ模倣する。 △演奏をリズム譜カードで視覚化して掲示する。 △教師も一緒にリズムを作り、提案する。 △学習カードに気に入ったリズムを記入する際、必要に応じて代筆する。</p>		
展		<p><b>①変身まねっこ遊び</b></p> <p>3 いろいろな言葉を「トゥ」で言い換えた後、リコーダーで吹き、ちょうどよい息の強さやタンギングに気づく。</p> <p>○どんな言葉を「トゥ」に変身させようかな。 ○「リコーダー」は「トゥトゥトゥー」だ。 ○「フー」より「トゥ」の方がきれいな音だ。 ○息が強すぎると、ピーッと音がするんだな。 ○息が弱いと変な感じに聞こえるよ。 ○まっすぐな息(一定の強さの息)が一番きれいに聞こえたから、やってみよう。</p>				
		<p><b>②まねっこリズム遊び</b></p> <p>4 4拍の流れに合うリズムを作り、シの音で模倣する。作ったリズムを2つ組み合わせ合わせて吹く。</p> <p>○「♪♪♪♪」はどうかかな？ ○簡単に吹ける「●」を考えたよ。 ○八分音符を使って「♪♪♪♪」にしたよ。 ○2つつなげると、曲みたいになるね。 ○「♪♪♪♪」をつなげるとお祭りみたいだ。 ○私とシンさんのリズムをつなげてみよう。</p>				
開			5	<p>△発表の前に1回練習し、自信をもって吹けるようにする。 △息の強さやタンギング、リズムの工夫等のよさを認め合う。 △次時は、ラの運指を学習することを知らせる。</p> <p>☆ちょうどよい息の強さやタンギングで吹いているか。 (演奏聴取・学習カード・発言内容)</p>		
		<p>5 一番気に入ったリズムの組み合わせで発表し合い、本時の学習を振り返る。</p> <p>○ゆっくり吹けるリズムを選んでつけたよ。 ○リズムをつなげて吹くのが楽しかったから、またやりたい。 ○ちょうどいい息の強さが分かってよかった。 ○魚の目パッドを貼ったらうまく吹けるようになって嬉しかった。 ○他の音も吹いてみたい。</p>				
終末						

チームティーチングの形態を打ち合わせておきます。本時は、教師1が全体を指導し、教師2が個別支援の必要な部分に入ります。少人数なので、教師も一緒に意見を出し合い、子どもたちの考えや気づきが広がるようにします。

リズム譜の例



学習カードを用いて毎時間の自己評価をし、題材終了時の振り返りにも活用していきます。

### 【事例を振り返って】

肢体不自由のある児童生徒への旋律楽器の指導では、身体の動きの状態に応じた指導内容の適切な設定や重点を置く事項に時間を多く充てた指導、適切な補助具や補助的手段の工夫、自立活動との関連を図った指導等が求められます。リコーダーまたは代替楽器による演奏が困難な場合には、ICT機器（タブレット端末の楽器アプリや視線入力装置を用いた演奏）の活用も考えていきます。

個の実態に沿って重点的に扱う指導内容を設定し、「自立活動の時間の指導」も活用して吹きやすさを相談しながら試したり、遊びの要素を取り入れて毎時間定着を図ったりしたことで、演奏技能を無理なく身につけることができました。また、個別に選曲した曲と全員一緒に吹く曲の演奏を通して、自分で吹けた達成感や友だちと音色を合わせる楽しさも味わうことができました。休み時間になると、習った曲や吹いてみたいフレーズ（好きな曲やCM曲等）を練習して友だちや先生に聴いてもらう姿が見られるようになり、リコーダーを「吹けた喜び」が「日常的に親しむ姿」へとつながりました。

### 【資料 ～吹きやすさにつながる支援の一例～】



①「魚の目パッド」や演奏補助シール「ふえピタ」（アデア・パーク）等、クッション性のあるシールを貼る。



②テープで指孔を塞ぐ。



③教師と一緒に指孔を押さえ、指孔を閉じる力加減を知る。

⑤「片手リコーダー」  
（ヤマハ）

→片手の運指で演奏可能  
（右手用・左手用）



⑥鍵盤リコーダー  
「アンデス」（SUZUKI）

→鍵盤1音ずつが笛  
の構造になっている



⑦キーボード等の  
リコーダー音



⑧視線入力装置の活用



⑨タブレット  
端末の楽器  
アプリ



身体の動きの制限や不随  
意な動きが大きい  
方に大変有効です。



## どの子どもできる学習環境づくり（保健体育）

### 1 単元名

ソフトバレーボールを楽しもう 「球技 ネット型」

### 2 単元設定の理由

本校中学部は、1年生3名、2年生3名、3年生4名の10名の生徒が在籍している。授業は学年ごとを行うことを基本としているが、実技教科は学年の枠を超え、部全体で行っている。

病気による長期療養や不登校、コミュニケーションの苦手さから、集団で行うスポーツや学年相応の様々な種目を経験することなく、入学・転入してくる生徒たちもいる。同年代の生徒との関わりが苦手な生徒にとって、職員がST（サブティーチャー）として授業に参加する、個別に支援する、ルールや用具を工夫する、視覚支援を活用する、スモールステップで進めるなどすることで、一人一人が安心して授業に参加できる状況づくりに努めている。

球技ではゴール型のサッカー、ネット型のバドミントンや卓球、ベースボール型のティーボールなどを実態に応じてルールを工夫しながら行ってきた。入学当初は見学のみだった生徒たちも、様子が分かると少しずつ参加し始め、最終的には部分的にでもゲームに参加し、体を動かすことを楽しむようになってきている。

本単元ではネット型のソフトバレーボールを扱う。ソフトバレーボールのよさとして次のことが考えられる。

- ・バドミントンコートを利用し、少人数（4～5人）でチームを組むため、少人数の中学部でも実施しやすい。
- ・やわらいボールを使用するので、恐怖感を抱きにくい。
- ・ルールや用具の工夫がしやすい。
- ・ネットをはさんで対戦するため、敵・味方が分かりやすい。
- ・自ら体を動かすことで全員にボールが回る機会があり、失敗しても友だちにカバーしてもらえると、協力や感謝を感じるスポーツである。
- ・「ナイス」「ドンマイ」等の声かけやハイタッチ等認め合う雰囲気をつくりやすい。
- ・高い技能がなくても楽しめる。また、生涯スポーツとして地域で活動の場があることも多い。

以上の特徴を生かし、チームで作戦を立て、チーム力を高め、仲間とコミュニケーションを取ることを通して、ソフトバレーボールを楽しむ姿を願い、本単元を設定した。

特別支援学校の在籍生徒数、指導体制等について書きます。

生徒の実態や集団として学習している様子について書きます。

### 3 単元の目標（本単元で育成する資質・能力）

学年	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
1・2 学年	E球技(1) イ アンダーハンドパスやオーバーハンドパスなどの技能を身につけ, ゲームに生かしてラリーを続けることができる。	E球技(2) 自分のチームの課題に気づき, 作戦を立てて取り組み方を工夫することができる。	E球技(3) 積極的に取り組み, 仲間のプレイに「ドンマイ」「ナイス」などの声を掛けたらり, ハイタッチしたり, 仲間の健闘を認めることができる。
3 学年	E球技(1) イ アンダーハンドパスやオーバーハンドパスなどの技能を身につけ, ポジションに応じ空いた場所をねらって次の攻撃につなげることができる。	E球技(2) 作戦などの話し合いで合意形成するための関わり方を見つけ, 仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を身につけることができる。	E球技(3) 仲間の健闘を認め合うことができるとともに, 記録やリーダーなどの役割に責任をもって自主的に取り組むことができる。

「中学校学習指導要領7節保健体育」『各学年内容』を参考に目標を立てます。

本単元で育成する資質・能力を明確にすることによって, 必要な支援や単元展開を構想することにつながります。

### 4 生徒の実態に応じた支援（下線部：困難さ マーカー：支援）

#### ①カナさん（1年生）ADHD，強迫性障害

##### 【実態】

- ・教師と一対一で十分に練習を行って自信をもつと参加できる。
- ・1時間を通して, 活動が続けることが難しい。



##### 【困難さの背景】

- ・全体指導で説明を受けたり, 手本を見たりするだけでは理解しにくい。
- ・活動量の少なさと気持ちのコントロールのしにくさがある。



##### 【本単元における支援とその意図】

- 教師が個別にじっくり関わり, 手の形や姿勢, 視線の動かし方, 力の入れ具合などを具体的に寄り添う。
- 参加の仕方を担任と相談し, 自分で決めた方法で参加できるようにする。

##### 【自立活動との関連】

- 2 心理的な安定
- (2) 状況の理解と変化への対応に関すること
- 3 人間関係の形成
- (3) 自己の理解と行動の調整に関すること

② ヨウコさん（2年生） 甲状腺ホルモン分泌不全

【実態】

- ・ 経験すればできるようになることは多いが、失敗すると思ってしまうところがある。
- ・ 恥ずかしさから自分の気持ちを語ろうとせず、友だちや教師に代弁をしてもらおうとする。



【困難さの背景】

- ・ ボール運動の経験が少ないことから、ボールを打つタイミングを計ることが難しい。
- ・ 自信がなかったり、遠慮がちだったりするため、自分の思いや考えを自ら語る経験が少ない。



【本单元における支援とその意図】

- バウンドしたボールに対しての視線や体の向け方などについて、口頭で説明したり手を添えたり、教師と個別に練習する時間を設ける。
- 少人数のグループでミーティングをすることで、発言の機会や思いを語る場面を多くもつ。

【自立活動との関連】

- 5 身体の動き
  - (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること
- 6 コミュニケーション
  - (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

③ ケイスケさん（3年生） ASD 適応障害

【実態】

- ・ 様子が分かると参加できる。
- ・ 教師とはやり取りするが、友だちとの自然な会話や関わり合いは苦手。



【困難さの背景】

- ・ 球技や集団スポーツの経験が少なく、見通しがもてない。
- ・ 友だちと関わるスキルが十分に身につけていない。



【本单元における支援とその意図】

- 手順表で活動内容や時間などを提示し、活動の全体像を把握できるようにする。
- チームタイムで、シナリオをもとにリーダー（司会）を務めることで、仲間とのやり取りの機会を増やす。

【自立活動との関連】

- 3 人間関係の形成
  - (1) 他者とのかわりの基礎に関すること
- 4 環境の把握
  - (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること



## 5 単元展開の概要

段階	学習活動	教師の指導・支援	時間
はじめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇学習のねらいを理解し、単元の見通しをもつ。</li> <li>◇チームを編成し、チーム名、係を決める。</li> <li>◇基礎練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームで協力する楽しさを味わえるスポーツ、チームで作戦を工夫することのできるスポーツであることなどを伝え、単元の流れを提示する。</li> <li>・生徒とともにチーム編成を行う。チームごと、リーダーや書記などの係を決めるように伝える。</li> <li>・ポイントを説明したり、示範したりする。</li> </ul>	1
〈Stage 1〉声をかけ合い、パスをつなげてゲームを楽しもう。			
なか1	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇チームで作戦を立て、練習する。</li> <li>◇パスをつなげてゲームを行う。</li> <li>◇チームごと振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雰囲気づくりをすることの大切さを伝え、作戦を立てるように伝える。</li> <li>・パスの仕方を示範したり、チーム練習の例を紹介したりする。</li> <li>・タブレット端末に活動を録画し、振り返りに活用する。</li> <li>・ルール変更のアイデアが出たときには、全員で確認してから決定するようにする。</li> </ul>	3 本時
〈Stage 2〉作戦を工夫し、3段攻撃のあるゲームを楽しもう。			
なか2	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇チームで作戦を立て、練習する。</li> <li>◇攻撃を入れたゲームをする。</li> <li>◇チームで振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームの課題を確認し、チーム力の向上を目指して協力して練習する場を設ける。</li> <li>・ゲーム間に、作戦を立て直すためのチームタイムの時間を設ける。</li> <li>・友だちのよいプレイを伝える姿や、課題をアドバイスし合ったりする姿など、チームタイムで見られたよい場面を全体に紹介する。</li> </ul>	5
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇学年対抗や生徒対教師など、対戦相手を変えてゲームを行う。</li> <li>◇単元のまとめをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元を通して身につけたことやできるようになったことなどを、学習カードを基に振り返る。</li> <li>・チーム内の関わり（声を掛け合ってプレイする様子や、作戦を立てたり、工夫したりするためのやり取りの様子など）を発表し合えるようにする。</li> </ul>	1

技能や人間関係などを考慮しながらチーム編成をします。

客観的に自分たちの動きをとらえられるタブレット端末を活用しながら追究します。

生徒の気づきを取り上げ、その視点で練習を積み重ねられるよう支援します。

全員が楽しめるようなルールについてのアイデアが出たら全体で共有し、変更していきます。

できるようになったこと、友だちとの関わりから学んだことなどについて共有します。

## 6 指導上の留意点

【用 具】ソフトバレーボール（日本ソフトバレーボール連盟公認球）

【コート】バドミントンネット利用（ダブルス用）

【チーム】4対4

【健康面】

- ・ゲーム参加が困難なときには、見学や得点係、タイムキーパーを務める等の参加の方法を教師と相談して決める。
- ・病状に応じて部分参加をしたり、場を移して休憩をしたりする。

今回の改訂では、「学習活動が負担過重となる場合の具体的な状態や対応」について明記されました。

【ルールの工夫】

- ◇4人制
  - ◇ローテーションあり
  - ◇ワンバウンドでの返球あり
  - ◇4回以内で返球
  - ◇サーブは投げ入れてもOK
  - ◇ボールをキャッチした後、トスを上げるなど、生徒の実態や様子に応じてルールを工夫します。
- 単元の中で、生徒と一緒にルールの新設や変更を行います。

## 7 本時案



本書 P35 ⑤ 病弱者

### (1) 主眼

パスやトスを味方につなげようと練習してきた生徒たちが、ゲームを行う場面で、チームタイム時に作戦を話し合うことを通して、声をかけ合いチームを盛り上げながら、チームでボールをつなぐことができる。（1, 2年生）

パスやトスを味方につなげようと練習してきた生徒たちが、ゲームを行う場面で、チームタイム時に作戦を話し合うことを通して、チームの課題を見つけ、教え合いながらチームでボールをつなぐことができる。（3年生）

### (2) 本時の位置 10時間中の第4時

### (3) 指導上の留意点

- ・健康状態の確認と活動場所の安全確認を行う。
- ・病状により、休憩を適宜入れる。
- ・出席生徒数が足りないときには職員がS Tに入って同じ人数になるようにする。



### (4) 展開

段階	学習内容	○予想される反応 △教師の支援 ☆評価	時間
導入	1 本時の学習内容を知る。	△用具の準備（ボール、ネット、得点板） △本時の位置、活動の流れが分かるよう、板書する。	2
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <b>学習問題</b>                      パスをつなげてゲームをするには、どうしたらよいだろうか。                 </div>	△「パスをつなげるにはどんなことに気をつけるといいでしょうか」と尋ねる。	

チームごとにビブスをつけるのも、雰囲気づくりにつながり、おすすめです。

展 開	2 チームタイム① (作戦を立てる、 準備体操、チーム練習)	○チームごと、作戦を話し合い、準備体操、練習を始めるだろう。 ○「ボールをつなごう」「高くボールを上げよう」と、声をかけ合うだろう。 △素速く動いて、ボールに体を向けるように助言する。	12
	3 ゲーム前半	△各チームを回り、作戦を工夫していくこと、声をかけ合うことなどを助言する。	12
	4 チームタイム② (作戦を練り直す、休憩)	△後半のゲームに向けて修正するところについて、シナリオを基に話し合うよう伝える。	5
	5 ゲーム後半	☆声をかけ合ったり、教え合ったりしながらボールをつなぐことができたか。	12
	6 チームタイム③ (振り返り)	△「パスが続くためにどんな作戦を立ててゲームをしましたか」と問い、ボールをつなげるためのポイントをチームごとに共通理解できるようにする。 ○「〇〇さんに教えてもらった通り、高く上げたらパスがつながった」など、うまくできたことを話し合うだろう。	5
ま と め	7 まとめ ・個人の感想発表 ・次時の予定	△よかったプレイをタブレット端末を使って、全体に紹介する。 △本時うまくできたことややってみたと思ったことなどを学習カードにまとめるように促す。	2

本時の流れを確認し、参加の仕方（誰と練習するか、いつ休憩するかなど）を相談して決めます。（カナさん）

ボールを高く上げると、次の人が構えやすく、ボールをつなぎやすいことを伝えます。（ヨウコさん）

チームタイムのときに、シナリオを基に作戦会議を進めているのかを見守ります。（ケイスケさん）

次時に向けて、個の願いを明確にします。

### 【事例を振り返って】

本時では、ゴム製のボールを使う、4回以内に返す、セッターはキャッチしてからトスをするなど、簡単なルールを最初に決めました。その後は、生徒たちのアイデアでルールや場、道具を教師と一緒に決めていくという方法で単元を展開したところ、どの生徒もソフトバレーボールに楽しみながら参加しました。

人との関わりに困難さがあったり、病気や症状を抱えていたりすると、活動に自分から制限をかけてしまうことがありがちです。生徒たちのアイデアや進んでできそうなことを生かしながら、技術の面と気持ちの面の両面を大切に支援し、どの生徒も参加できる授業づくりに努めましょう。

## 個々の学習課題に合わせた環境調整と機器活用

### 1 題材名「楽しい1日のスタート」(日常生活の指導「朝の会」)

#### 2 題材設定の理由

今年度の中学部1学年1組は、男子4名、女子2名の計6名のクラスである。6名のうち4名が、日常生活において一対一での支援が必要な場面がある。入学して3ヶ月がすぎ、生徒たちは少しずつ学校生活に慣れ、友だち同士の関わりも増え、楽しく生活をしている様子が見られる。

4月当初は、初めて経験することが多いため、教師の声がけや支援で動いていたが、徐々にそれを必要とせずに自分で状況を判断して動ける場面が増えてきている。トオルさんは、朝登校してからの活動(着替え、カバンの整理、生活ノートの提出など)について、シンボルの入ったスケジュールを提示することで、今やるべき活動が分かり、自分で動ける場面が増えてきている。また、テツヤさんも清掃時間にタイマーで時間を示したり、モップの回数を視覚化したりすることで、自分で見通しをもって清掃が進められる姿が見られるようになってきた。

そこで、朝の会や帰りの会、その前後の身支度など毎日の生活中で繰り返される活動に関しては、教師の指示ではなく、個々の実態に即した手がかりや支援ツールを用いることで、より自分の力でやり抜けることが増えると考えた。

具体的には、朝の会の中で、絵カードや支援機器を用いて、友だちと関わりながら各生徒に担ってほしい役割を明確にする。結果のフィードバックを明確にして、達成感と参加への意欲づけを高める。また、教師は指示や評価の言葉を早く提示しすぎないように注意する。これらによって、集団の中での活動に生徒が主体的かつ自発的に参加していけるようになることを願い、本題材を設定した。

#### 3 題材の目標

##### 【全体の目標】

- ・ 朝の会の係活動を通して、友だちや教師を意識して活動することができるようになる。
- ・ 一日のスケジュールを確認し、見通しをもち、できるだけ一人で活動することができる。

この題材は、毎日繰り返す朝の会の時間を有効に活用し、個々の課題を自立活動の観点から整理しています。

『その子にあった活動の選定』『自分がやるべき仕事に分かる状況』『係の仕事を手立てでできる』を大切に…

『やり遂げたことで、得られる充実感』『次回へのやる気と、他の場面で応用する安心感』の醸成を狙っています。

【個人の目標】

① トオルさん

- ・ 朝の活動の中で使う物の名称の理解を深め、簡単な指示や視覚支援を手がかりに自分で準備できるようになる。

(人間関係の形成(4), コミュニケーション (2)・(3))

- ・ その日の活動でやりたいことを、指差して意思表示できるようになる。(人間関係の形成 (1), コミュニケーション(1)・(4))

② テツヤさん

- ・ 司会や健康観察などの係分担について、チェックカードや手順表で順番を確認したり、タブレットで必要な音声を出力したりするなどの手段を使って、一人でやることができる。

(人間関係の形成(1)・(4), コミュニケーション (2)・(3))

4 生徒の実態に応じた支援 (下線部：困難さ マーカー：支援)

① トオルさん

【実態】

- ・ 知的障がい。自閉的な傾向もあり。
- ・ 自発的な発語や要求、意思表示が乏しい。簡単なジェスチャー(トイレ、飲む、など)で意思を伝えることがある。
- ・ 物の名前はある程度理解しているが、用途などはわからないことが多い。

詳しい目標・内容の決め出しについては…



本書 P50~53

【困難さの背景】

- ・ 物と名称が結びついていないので、言葉の指示だけでは理解が難しい。
- ・ 自分の気持ちを伝える手段が定着していないので、自発的に意図を伝える経験が少ない。

実態と困難さの背景と具体的な支援の関連づけができていないか確認します。

【本題材における支援とその意図】

- ・ 活動を自分で進めていけるように、「お茶」「コップ」「お盆」などの実物や音声、絵カードを扱う。
- ・ 絵カードの選択で意思表示できるように、道具の片付けの仕事分担を選べる状況を設定する。

アセスメントとして、特別支援学校で活用されています。

② テツヤさん

【実態】

- ・ ASD。太田ステージⅢ-1。発語はあるが、会話は成立しにくい。
- ・ 急な予定変更が苦手。言葉だけの指示での変更は特に難しい。



・手順を理解した作業には集中して取り組めるが、新しい活動の定着には時間がかかる。



**【困難さの背景】**

- ・聴覚過敏があり、周囲の刺激に影響を受けやすい。
- ・こだわりが強く、言葉だけの指示の理解が難しいので、事前の予告や視覚的な手がかりがないと、行動の変更ができにくい。
- ・物の名前や活動の理解が、場所や人と結びつきやすいので、他の場面に広がりにくい。



**【本題材における支援とその意図】**

- ・安心して活動に参加できるように、イヤマフ（またはノイズキャンセリングヘッドフォン）を用いて、聴覚刺激を調整する。
- ・毎週役割が変わることに安心して対応できるように、役割の変更の予告を、今週の仕事が分かるカレンダーで伝える。
- ・自分から決まった手順で活動を確認できるように、活動内容の手順表や、使う道具のチェックカードなどを準備しておく。



—環境調整—  
特別支援教育  
課程学習指導  
手引書「特別  
支援学校編  
(県教委)」  
(H22・1月)  
P97・98

5 題材の展開（全 15 時間）

時	学習内容	指導・支援
初期： 第1時 ～ 第5時	○朝の会の係分担が、一週間ごとの交代制になることを理解する。 ○一週間を通して自分の係分担を行い、基本的な手順に慣れる。	・自分の分担に気づけるように、カレンダー等の視覚支援を行う。 ・前日できた場面では、声かけを減らす等、支援を減らすことを心掛ける。
中期： 第6時 ～ 第10時	○自分の分担内容について、分からなくなった時は、「係の仕事チェックカード」を自分で確認すればよいことを理解する。	・仕事内容が分からなくなった場合は「チェックカード」を示す。
後期： 第11時～ 第14時	○前週までの経験を生かして、新しい係の仕事に取り組む。	・新しい活動についても「チェックカード」を参照できるような環境設定をする。



学習環境  
—構造化—  
特別支援教育  
課程学習指導  
手引書 特別  
支援学校編  
(県教委 H22・  
1月) P99・100

## 6 指導上の留意点

- ・個々の生徒の実態に合わせて、理解と表出を補償する具体的な手段を用意する。
  - \*見通しがもちにくい生徒には、個別のスケジュールや手順表も用意する。
  - \*発語のない生徒については、音声表出手段を準備する。

## 7 本時案

### (1) 主眼

#### 【全体の目標】

- ・先週までの係活動で使ったツール（個別の視覚支援やICT機器など）を使って、新しい係の仕事に取り組むことができる。

#### 【個人の目標】

- ・トオルさん：係分担カレンダーを見て、自分の新しい仕事分かる。手順表を見ながら、朝の会で飲むみんなのお茶を用意することができる。
- ・テツヤさん：係分担カレンダーを見て、自分の新しい仕事分かる。タブレットを使って、朝の会の司会を自分で進めることができる。

### (2) 本時の位置

前時：朝の会での、チェックカードの使い方が理解できた。

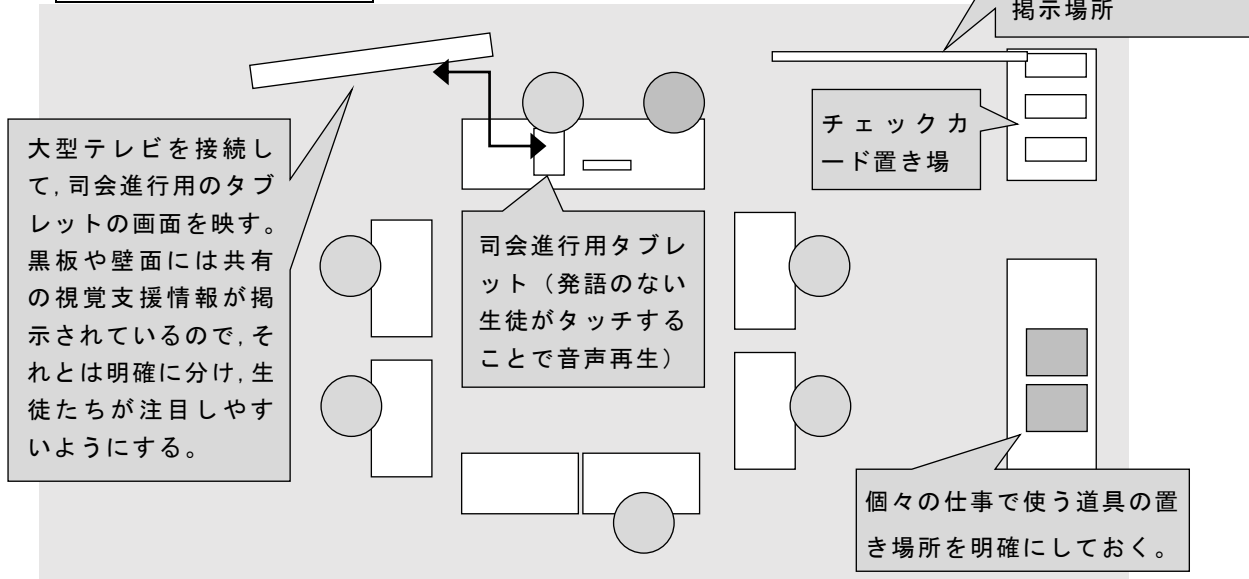
本時：14時間中の11時

次時：今週の仕事2日目。より少ない支援で活動する。

### (3) 指導上の留意点

- ・個々の生徒の役割に合わせて、以下のような環境設定を行う。

#### 教室全体の環境設定



#### 係分担カレンダー



○支援準備物

- ・クラス全員の視覚支援

「係分担カレンダー」「生徒個別のチェックカード・手順表」

- ・テツヤさんの司会用タブレットには、手順表を表示し、順番通りに押していくことで、必要な音声再生されるように設定しておく。またイヤマフを机の横にかけておき、本人の判断でいつでも使用できるようにしておく。



(4) 展開

	学習内容	○予想される反応 △教師の支援 ☆評価	備考
導入 5分	<p>1 朝の会の準備をする</p> <p>◇朝の会開始 5分前のチャイムを鳴らし、活動の予告をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予定表の掲示</li> <li>・CDプレーヤーの準備</li> <li>・健康観察用カードの用意</li> <li>・お茶の準備</li> </ul>	<p><b>トオルさん</b></p> <p>○活動予告のチャイムを聴き、係分担カレンダーを見る。</p> <p>○今週のお茶係だと気づき、お茶の準備を始める。</p> <p>△お茶の準備を始めない場合は、必要な物を想起できるように、「今日からお茶係だね」と声がけしたり、絵カードを見せたりする。</p> <p>☆手がかりで気づいて、お茶の準備を始めることができたか。</p> <p><b>テツヤさん</b></p> <p>○カレンダーの分担表を見て、司会だと気づき、準備を始めるだろう。</p> <p>△仕事がわかっていない様子や、やり残しがあった場合には「係の仕事チェックカード」を指差して、自分から確認できるようにする。</p> <p>☆「係の仕事チェックカード」を見て司会の準備ができたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・係分担カレンダー</li> <li>・絵カード</li> <li>・係分担カレンダー</li> <li>・係の仕事チェックカード</li> </ul>
展開 15分	<p>2 朝の会を行う</p>	<p><b>テツヤさん</b></p> <p>○タブレットの手順表アプリを使って司会進行を行う。</p> <p>△周囲の様子を見ずに次の操作に移ろうとした時は、「○○さんのお仕事、見てください」と伝え、タブレットを指差す。</p> <p>☆友だちの動きを確認しながら、司会進行ができたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット</li> <li>・手順表アプリ</li> <li>・イヤマフ</li> </ul>

**具体的な支援例**

- \* ゆっくり声がけ（「コップだね」「お茶を入れよう」）
- \* 事物と名称、絵カードの結びつけ

終末	3 朝の個別活動	トオルさん ○お盆をもってみんなのコップを回収するだろう。	・絵カード
5分	○各自の仕事を行う ・予定表の移動 ・CDプレイヤーの片付け ・健康観察板を届ける ・コップ洗い	△トレイを取りに行かない場合は、仕事を想起できるように、トレイを指差したり、絵カードを示し「トレイだね」と声がけしたりする。活動時は離れて見守る。 ☆手がかりで気づいて、コップの回収を始めることができたか。 ○「コップ洗い」と「机拭き」の選択肢から、やりたい方を選択できるだろう。 △コップ回収終了時に絵カードを目の前に提示し、選択できるようにする。 ☆確実に絵カードを見て、仕事を選び、教師に手渡すことができたか。	・手順表と絵カード
		テツヤさん ○司会終了後、タブレットの片付け、予定表の移動などを自分から行うことができるだろう。 △タブレットの充電など、決まった手順ができていなかった場合は、チェックカードを指差して「チェックお願いします」と声がけする。 ☆朝の会終了後の司会の仕事を、自分から行うことができたか。	



**【事例を振り返って】**

自立活動は、個々の児童生徒の実態把握を踏まえて、具体的な指導内容と指導場面を決め出していきます。

「朝の会」は、毎日行う活動だからこそ、単なる繰り返しではなく、その中の一つ一つの活動を自立活動の視点で見直し、個々の児童生徒の学習課題としてどのように再構成するかを考えることが大切です。

この事例で示したような、朝の会の活動における手立て（構造化、視覚支援、ICT機器の活用など）を、作業単元学習や生活単元学習など、他の場面でもいかすことで、さらに個々の力が伸びていきます。日常生活の様々な場面に自立活動の視点をちりばめるように意識することで、朝の会のように何気なく取り組んでしまいがちな活動が、非常に重要な学習の時間になります。

## 苦手なことをポジティブに考える自己理解

### 1 題材名 「苦手があってもダイジョウブ」

### 2 題材設定の理由

本学級には、高等部3学年8名の生徒が在籍している。高等部での前期現場実習を終え、実習の振り返りを行った。その中で、一人一人の成果と課題が見えてきた。例えば、「決まった仕事は続けるのは得意である」「声がけをしてもらえるとスムーズに仕事ができる」といった長所の他に、「人の顔や名前を覚えるのが苦手」「集中力が切れてしまうことがある」「なかなか相談ができない」「朝起きるのがたいへん」といった苦手な面もあがってきた。

どんな人にでも得意なことと苦手なことがある。本校の生徒たちの場合、苦手なことは、障がい特性が背景にある場合が多い。しかし、自分の得意なこと・苦手なことは何かと問われると、なかなか答えられない生徒もいる。そこで、まずは「自分の得意なこと・苦手なこと」を知る必要がある。その上で、自分の苦手なことを、どうやってカバーしていけばよいかを知ることで、後期現場実習や卒業後の生活にもつながっていくと考えた。

以前行ったSST（ソーシャルスキルトレーニング）「友だちのキラッと光るところ」では、友だちの良いところを全員が答えることができた。自分のことを言われた時は、どの生徒もうれしそうであった。本題材でも、自分の苦手なことを知るだけではなく、友だちの苦手なことを知る機会としたい。そして、友だちの苦手なことをどうやって補ったらよいかをお互いに考えて伝え合うことができるなら、自己理解だけでなく他者理解にもつながると考え、本題材を設定した。

### 3 題材の目標

#### 【全体の目標】

- ・自分の苦手なことに気づき、どうやってカバーしたらよいかを知る。
- ・友だちの苦手なことも知り、どんな解決方法があるかを考えて、提案する。
- ・明日からの生活で、これをやってみようという具体的な目標をもつ。

集団の様子、活動の意義やねらいを記入します。

自立活動の内容「1健康の保持（4）障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること」と関連します。



本書 P48



### 【個人の目標】

生徒	自立活動の目標	題材の目標
ケンさん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皆の前で、自分の意見を言う。</li> <li>・失敗しても、次はこうすればいいんだと、ポジティブに考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の場面で、自分の苦手なことやアイデアを言う。</li> <li>・自分の苦手なことに目を向け、少しでもポジティブな考えをもつ。</li> </ul>

関連づけて考えられるように、自立活動の目標（教育課題）も取り上げます。



目標の決め出し  
本書 P50～53

## 4 題材の展開（全3時間）

時間	学習活動	指導・支援
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期実習を振り返る（がんばったこと、困ったこと）。</li> <li>・後期実習をイメージして『私の取扱説明書』『自己チェックリスト』を記入する。</li> <li>・チェックリストをもとに、解決策を一緒に考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を振り返りやすいように、実習資料や写真等を準備する。</li> <li>・チェックリストを使用して、課題を明確にする。</li> </ul>
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『苦手なことをなんとかしたい』を記入する。</li> <li>・友だちの苦手なことの解決策を考え提案する①</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前向きに考えていけるような声かけを心がける。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの苦手なことの解決策を考え提案する②</li> <li>・『こうすればダイジョウブ』で、自分の苦手なことの解決策を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で取り入れることができる解決法か確認する。</li> </ul>

ここでは1名だけになっていますが、全員記入します。

## 5 指導上の留意点

- ・「苦手なこと」はネガティブに捉えやすいので、誰にでもあり、補う方法があって、ときには回避すれば「ダイジョウブ」だとポジティブに捉えられるようにする。

## 6 本時案

### (1) 主眼

#### 【全体の目標】

- ・実習を終えて自分のこと（得意・苦手）を振り返った生徒が、『苦手なことをなんとかしたい』への記入と友だちの発表を聴くことを通して、自分や友だちの苦手なことを知るとともに、その解決策を一緒に考えることができる。

【個人の目標】

生徒	本時の目標
ケンさん	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の苦手なことや（他の生徒に対する）解決のアイデアを言う。</li> <li>自分の苦手なことへのアイデアを聞いて、「これやってみようかな」と思う。</li> </ul>

ここでは1名だけになっていますが、全員記入します。

(2) 本時の位置 3時間中の第2時

(3) 指導上の留意点

- ・「苦手なこと」を取り上げるため、自分や友だちに対して否定的な感情をもたないような声かけをする。
- ・苦手なことを一人ずつ発表する場面では、「自分も同じように苦手だ」「先生もあるよ」という声を引き出して、苦手なことは誰にでもあるから言っても大丈夫という雰囲気を作る。
- ・解決のアイデアを出す場面では、挙手して言えない生徒に対しても、「〇〇さんも、そういうことある？」「〇〇さんはどうしているの？」等と問いかけ、意見を引き出していく。
- ・「そんなのはこうすればいいんだよ」と強い意見が出て、「なるほど、そういうやり方もあるんだね。他にもアイデアあると、〇〇さんの参考になると思うよ」などと受け止め、「やってみてもいいアイデアあったかな」と返しながらか、責められた気持ちにならないように配慮する。
- ・提案内容は、パソコン入力して、モニターや後で確認できるようにする。

(4) 展開

段階	学習内容	○予想される生徒の反応 △教師の支援 ☆評価	備考
導入 8分	1 苦手なことと解決策について、例を聴く。	<p>だれにでも得意なことと苦手なことがあるけど、みんなも苦手なことってあるかな。</p> <p>この人知っているかな。この人は読むことが苦手だったけど…。 (補っている方法を紹介) 【例】俳優、卒業生</p> <p>○「計算が苦手」「整理整頓」等、数人が言う。</p>	モニター パソコン

ポイントになる教師の問いかけを「(4)展開」の□に、そのまま記入することで、授業のイメージがつかみやすくなります。

		<p>○自分も同じことで困っている。 なるほど、そうやって解決したのか。</p> <p>△苦手なことは誰にでもあること、アイデア次第で解決できることもあることを伝える。</p> <p>☆自分の苦手なことは何かな、解決策があれば知りたいなと思うことができたか。</p>		<p>自己理解が重要なポイントになるので、この場面で評価します。</p>
展開 12分	2 『苦手なことをなんとかしたい』に記入する。	<p>どんな苦手なことがあるのか、プリントを配るのでチェックしてみよう。そして、補うどんな方法があるか、みんなでアイデアを考えよう。</p> <p>○自分に当てはまる項目にチェックする。</p> <p>○どれが自分に当てはまるか悩む。</p> <p>△迷うところは飛ばして、一通り終わりまで見るよう促す。迷ったところはどこか聞き、例えばこういうことはあるか詳しく質問する。</p> <p>○他の生徒よりも早く記入が終わる。</p> <p>△チェック項目の横にある「解決アイデア」の欄に、解決策を記入するよう促す。</p> <p>☆自分の苦手なところにチェックしたり、気づいたりすることができたか。</p>		<p>(4)資料①参照『苦手なことをなんとかしたい』</p> <p>ここでも自己理解が重要なポイントになるので、評価します。</p>
25分	3 一人一つずつ苦手なことを発表する。その苦手なことの解決策を考え提案する。	<p>どんなことが苦手か、一つ選んで発表してもらえるかな。それについて、みんなから、どうしたらいいかアイデアを出してもらおうよ。</p> <p>○チェックした中から、一つ選んで発表する。</p> <p>○友だちの苦手なことを聴いて、こんなふうにしたらどうかと提</p>	モニター パソコン	<p>パソコン入力することで、後でまとめて印刷することができます。(ここではプレゼンソフトを使用)</p>

		<p>案する。</p> <p>△アイデアは、すべてパソコン入力し、モニターで表示する。</p> <p>△苦手なことを発表した生徒には、具体的にどんな場面で困るのかを確認する。</p> <p>△「なるほど〇〇すればいいんだね」「自分の経験を話してくれてありがとう」等、必ず提案に対してコメントする。</p> <p>△多少無理な提案に思えるアイデアでも、「アイデアを考えてくれてありがとう」と考えたことを褒める。</p> <p>☆自己・他者理解を通して、解決するための方法を提案することができたか。</p>	
終末 5分	4 やってみたい解決策があったか考える。	<p>○これやってみようかな。</p> <p>もっといい解決策はないかな。</p> <p>△次時では、さらに残った「苦手なこと」(全員分)について考えていくことを伝える。</p> <p>☆具体的な解決策を一つ、イメージすることができたか。</p>	

どんな意見に対しても、いい点を見つけ、必ず肯定的なコメントを返すよう心がけます。

資料①『苦手なことをなんとかしたい』（全70項目中、一部分抜粋）

自分が苦手だと思う項目にチェック（✓）をつけましょう		
①上手に働くために		
「先のぼし癖」をなんとかしたい		アイデア
<input type="checkbox"/>	提出物や仕事の期限が守れない	
<input type="checkbox"/>	やらなければいけないことに、なかなか取りかかれない	
<input type="checkbox"/>	仕事に集中できない	
「段どりが悪い」をなんとかしたい		
<input type="checkbox"/>	予定やスケジュールを忘れてしまう	
<input type="checkbox"/>	約束の時間が守れない	
<input type="checkbox"/>	どれから先にやればいいか分からない	
「物忘れ」を何とかしたい		
<input type="checkbox"/>	メモが書けない。何を書いたらいいか分からない	
<input type="checkbox"/>	資料などを見ながら、パソコンで入力することが苦手	

	前日までは覚えていても忘れ物をしてしまう	
	大事なものをすぐになくしてしまう	
	「片づけられない」をなんとかしたい	
	紙の書類の整理ができない	
	机や引き出し、ロッカーの整理ができない	
<b>②人間関係で困らないために</b>		
	「指示をうまく聞けない」をなんとかしたい	アイデア
	指示を聞くときの態度を注意される	
	言われた通りやったつもりなのに「違う」と言われる	
	文字なら分かるが、耳で聞くと内容が頭に入っていない	
	「ハウレンソウ（報告・連絡・相談）がうまくできる」ようになりたい	
	報告って、何を言えばいいか分からない	
	ハウレンソウ（報告・連絡・相談）のタイミングが分からない	
	スケジュールの相談方法が分からない	

資料②『苦手なことをなんとかしたい』（一部分抜粋）

		3年 ケンさん
①上手に働くために		※これは個人シートです。 一人一人チェックした項目 についての解決方法をすべて 記載し、3時間目の終わりに 配付しました。
・「先のぼし癖」をなんとかしたい		
✓	やらなければいけないことに、なかなか取りかかれない ☆時間の感覚を、自分で実感できるようになる。 ・締め切りまで何日か、カウントダウン方式で管理する。 （カレンダー記入など、締め切りを意識できるようにする） ・自分で細かく締め切りを設定する（できる限り近い日時に設定すると、締め 切りを意識しやすくなる）。 ・人と約束する（「○日に▲する」と約束し、締め切りを意識しやすくする）。	

【事例を振り返って】

発達障がいの子どもの中には、自己肯定感が低かったり、自分のことを振り返るのが苦手だったりする子どもがいます。そのため、自由に発言できる雰囲気の中で、自分のことを客観的に振り返る機会を設けることが、必要になる場合があります。

授業では、始めからアイデアが出たわけではありませんが、うまく聞き出すことと肯定的に返すことで、発言しやすい雰囲気になり、多くのアイデアが出てきて、苦手なことをどうしたらいいか考えるきっかけになりました。

また、普段の生活で「なんで○○なんだよ」と否定的に見ていた生徒も、「うまくできなくて困っているんだな」という視点をもつことができました。今後、様々な場面で、友達の苦手なことを思いやる気持ちと、「こうしてみたら」とアイデアをみんな考えていく機会が増えてほしいと願っています。まわりから認められる、助けてもらえるという経験も、集団でSSTを行うからこそ、生まれてきたものだと感じています。